

赤平市

市民アンケート

令和2年度調査 調査報告書

企画課

2020 年 9 月 1 日

目次

調査の概要	5
調査票の回収結果.....	5
調査票の配布数と回収率.....	5
集計結果の表し方	5
1. 回答者の属性	6
(1) 回答者の性別	6
(2) 回答者の年齢.....	6
(3) 回答者の職業.....	7
(4) 回答者の居住地区.....	7
(5) 回答者の居住年数.....	8
(6) 回答者の世帯構成.....	8
(6) 最寄りバス停までのおおよその時間（徒歩）	9
男女別・年齢別の集計.....	9
居住地区別の集計	9
(7) 最寄りバス停までの徒歩について	10
男女別・年齢別の集計.....	10
居住地区別の集計	10
(8) 回答者の通信環境.....	11
男女別・年齢別の集計.....	11
居住地区別の集計	11
2. 赤平市への愛着度・定住意向.....	12
(1) 赤平市への愛着度.....	12
男女別・年齢別の集計.....	12
居住地区別の集計	13
居住年数別の集計	13
(2) 赤平市での定住意向.....	13
男女別・年齢別の集計.....	14
居住地区別の集計	14
居住年数別の集計	14

（３）赤平市に住み続けたい理由	15
その他の内容	15
男女別・年齢別の集計	16
居住地区別の集計	16
居住年数別の集計	17
（４）赤平市から移転したいと思う理由	17
その他の内容	18
男女別・年齢別の集計	18
居住地区別の集計	19
居住年数別の集計	19
3. 赤平市の取組について	20
（１）現状の満足度	20
基本目標１ 健やかな暮らしをともに支え合うまち	20
基本目標２ 安全・安心で快適に暮らせるまち	20
基本目標３ 活力に満ちた魅力あふれるまち	21
基本目標４ とともに学び合い豊かな心を育むまち	21
基本目標５ ふれあいと交流で創る協働のまち	21
【満足度が高い施策項目】	22
満足度が低い（不満度の高い）施策項目	22
（２）今後の重要度	23
基本目標１ 健やかな暮らしをともに支え合うまち	23
基本目標２ 安全・安心で快適に暮らせるまち	23
基本目標３ 活力に満ちた魅力あふれるまち	24
基本目標４ とともに学び合い豊かな心を育むまち	24
基本目標５ ふれあいと交流で創る協働のまち	24
重要度が高い施策項目	25
重要度が低い施策項目	25
（３）評価点による評価	26
評価点の計算方法について	26
満足度の評価点	27

満足度評価／全体.....	28
重要度の評価点.....	29
重要度評価／全体.....	30
(4) 今後力を入れるべき項目.....	31
全体の満足度偏差値と重要度偏差値.....	31
4. 外出について	33
(1) 普段の外出目的、頻度、時間、目的地、移動手段について.....	33
① 主な外出目的.....	33
② 外出頻度	34
③ 外出・帰宅の時間	35
④ 外出先.....	37
⑤ 移動手段	39
【参考】1日当たりの交通分布図	40
5. 既存の公共交通・各種送迎サービス.....	41
(1) JR 根室線について	41
① 利用頻度	41
② 平日・休日の利用	43
③ 利用目的	44
④ 改善してほしいこと	45
⑤ 利用促進策	49
⑥ 支援について（1つに○印）	51
(2) 中央バスについて.....	53
① 利用頻度	53
② 平日・休日の利用	54
③ 利用目的	55
④ 利用しているバス路線	56
⑤ 改善してほしいこと	57
⑥ 利用促進策	62
⑦支援について.....	65
(3) その他の交通手段について.....	68

① 送迎交通等の利用状況	68
② 送迎交通等に対して不便に感じる事	70
6. 免許・自家用車について	71
（1）免許の有無、自動車の保有・運転状況等	71
① 自動車運転免許証等の保有状況	71
② 運転免許証の返納予定	73
③ 免許返納後に利用を考えている移動手段	75
④ 運転への自信	76
⑤ 自家用車の使用状況	78

調査の概要

本調査は、市全般にわたる住民の意向を把握し、検証をした上で、各施策に結び付けるために必要な基礎資料の収集を目的に実施したものです。

調査対象	令和2年4月1日現在 赤平市に在住する18歳以上の男女1,500人
抽出方法	無作為抽出調査
調査期間	令和2年4～5月
調査方法	郵送による調査票の配布・回収

調査票の回収結果

調査票の配布数と回収率

配布数 (票)	回収数 (票)	回収率 (%)	有効回収数 (票)	有効回収率 (%)
1,500	607	40.5	607	40.5

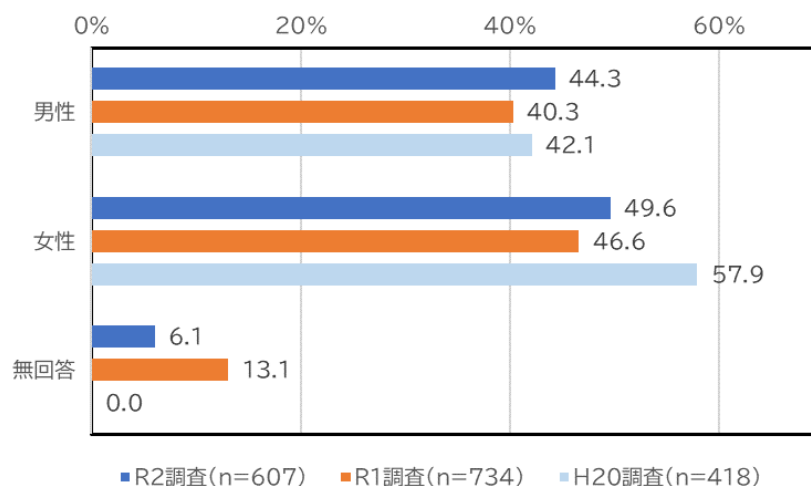
集計結果の表し方

- 調査結果の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で表現しています。
- 百分率による集計では、回答者数（該当質問においては該当者数）を100%として算出し、本文及び図の数字に関しては、すべて小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表記していますのですべての比率の合計が100%とならないことがあります。また、複数回答の設問では、すべての比率の合計が100%を超えることがあります。
- クロス集計（男女別の集計など）の表については、分析軸の項目の後に（n）として、各項目の回答者数を表記しています。
- クロス集計の分析軸となる項目に「無回答」がある場合は表示していません。よって、「全体」の数値と各項目の和が一致しない場合があります。
- 過去に実施したアンケート調査との比較では、以下の表記を用いています。
 - ・ 「R1調査」：第6次赤平市総合計画を策定する際に実施したまちづくりアンケート調査結果（18歳以上の市民を対象として実施）
 - ・ 「今回調査」：今回実施したアンケート調査調査（18歳以上の市民を対象として実施）

1. 回答者の属性

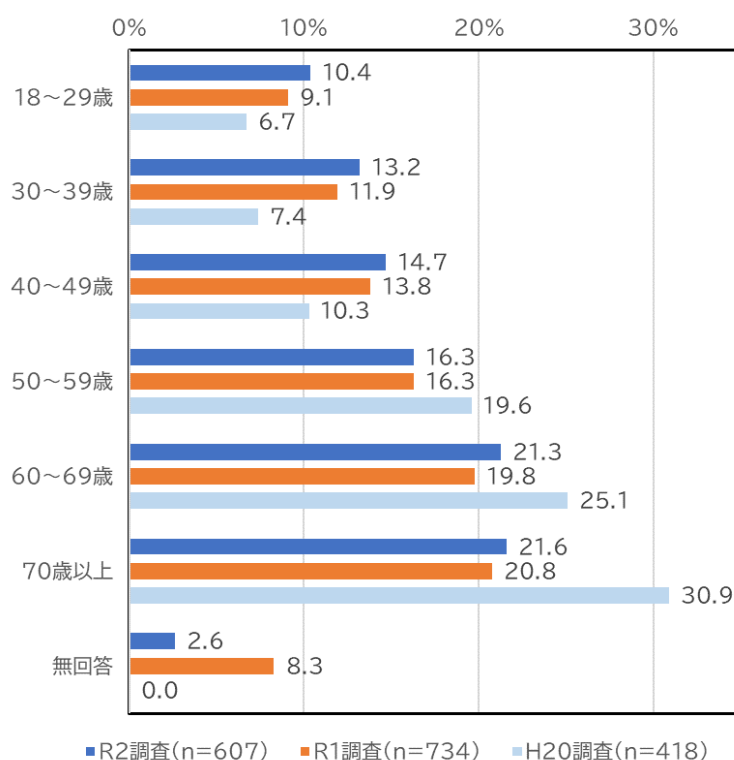
(1) 回答者の性別

性別は、「男性」が44.3%、「女性」が49.6%となっています。



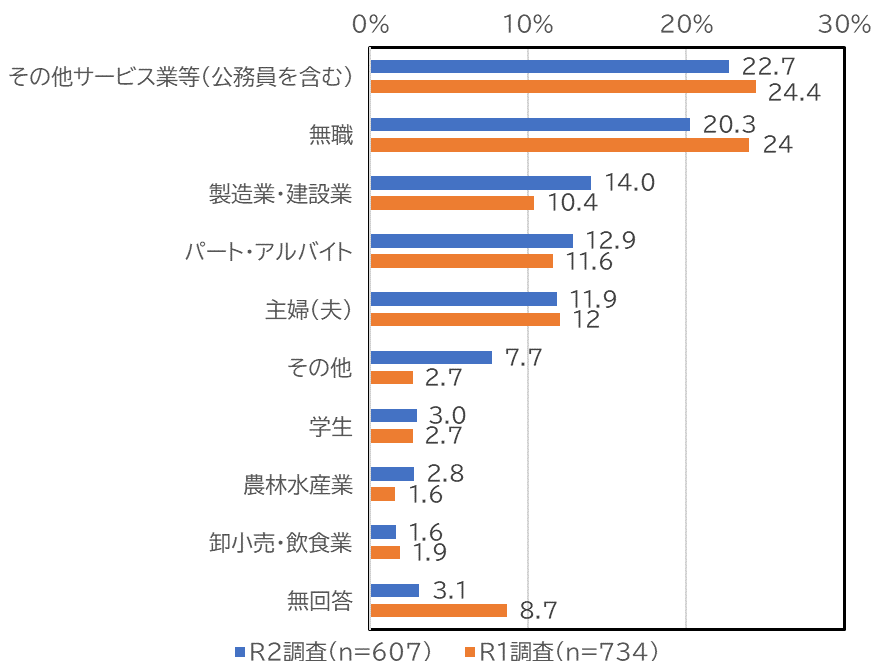
(2) 回答者の年齢

年齢は、「70歳以上」が21.6%で最も多く、次いで「60～69歳」(21.3%)、「50～59歳」(16.3%)となっています。無回答者が減少したため、前回調査と比べて60歳以上の割合が増加したほか、50歳未満の割合も増加しています。



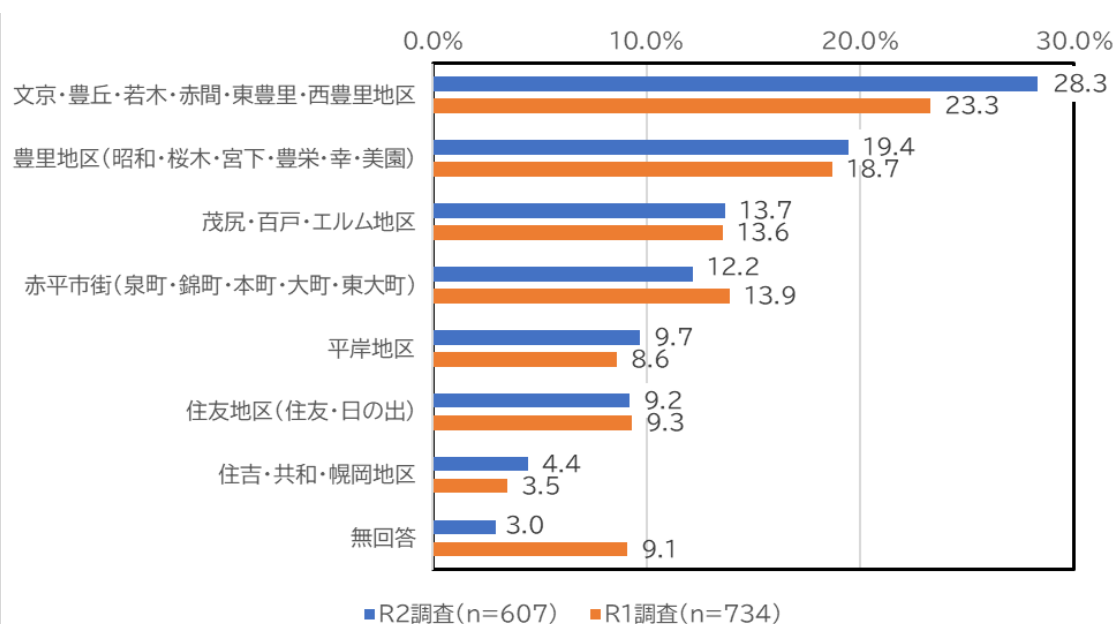
(3)回答者の職業

職業は、「その他サービス業等（公務員を含む）」が22.7%で最も多く、次いで「無職」（20.3%）、「製造業・建設業」（14.0%）となっています。前回調査と比べ、「製造業・建設業」が3.6%、「パート・アルバイト」が1.3%増となりました。



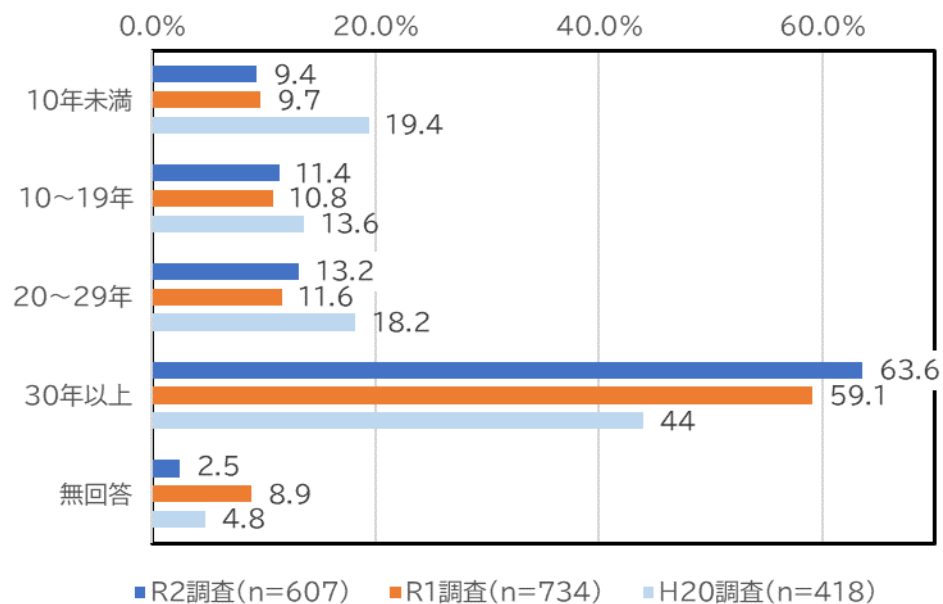
(4)回答者の居住地区

居住地区は「文京・豊丘・若木・赤間・東豊里・西豊里地区」が28.3%で最も多く、次いで「豊里地区（昭和・桜木・宮下・豊栄・幸・美園）」（19.4%）、「茂尻・百戸・エルム地区」（13.7%）となっています。前回調査と比べ、「赤平市街（泉町・錦町・本町・大町・東大町）」が1.7%減少し、「文京・豊丘・若木・赤間・東豊里・西豊里地区」が5.0%増加しました。



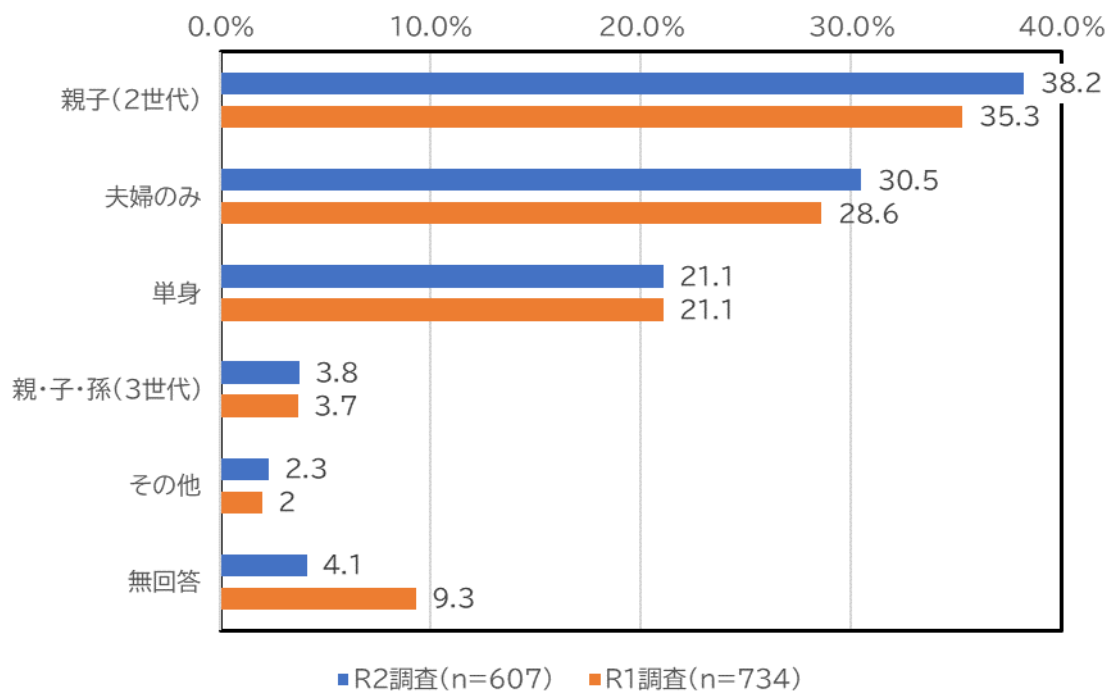
(5) 回答者の居住年数

居住年数は、「30 年以上」が 63.6%で最も多く、次いで「20～29 年」(13.2%)、「10～19 年」(11.4%)となっています。



(6) 回答者の世帯構成

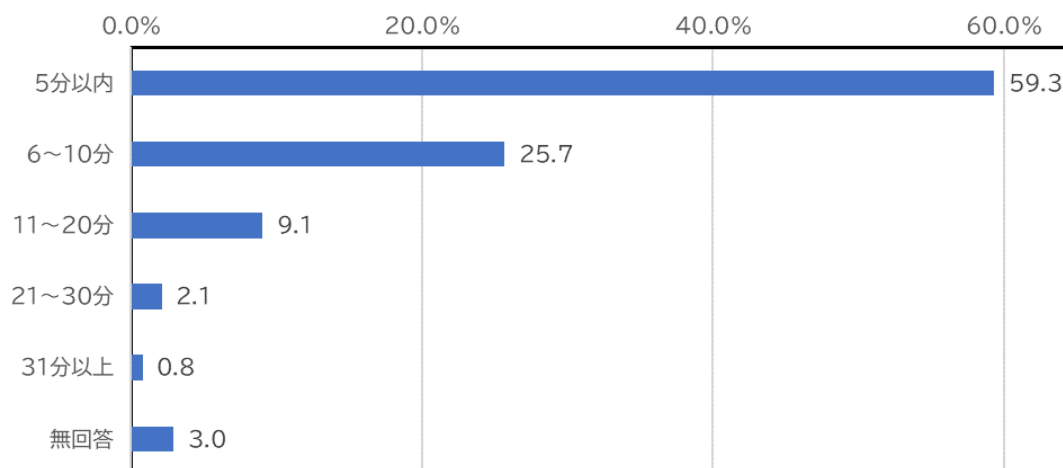
世帯構成は、「親子（2 世代）」が 38.2%と最も多く、次いで「夫婦のみ」(30.5%)、「単身」(21.1%)となっています。



(6)最寄りバス停までのおおよその時間(徒歩)

最寄りバス停まで徒歩でかかる時間は、「5分以内」が59.3%と最も多く、次いで「6～10分」(25.7%)、「11～20分」(9.1%)となっています。

一方で、20分以上かかる方の割合が2.9%となっています。



男女別・年齢別の集計

男女別・年齢別ともに、「5分以内」が最も多い状況です。

		単位(%)						
		n	5分以内	6～10分	11～20分	21～30分	31分以上	無回答
全体		607	59.3	25.7	9.1	2.1	0.8	3.0
性別	男性	269	63.6	26.8	7.1	1.5	0.4	0.7
	女性	301	58.1	25.6	11.3	3.0	1.3	0.7
年齢	18～29歳	63	58.7	31.8	7.9	0.0	1.6	0.0
	30～39歳	80	67.5	23.8	6.3	2.5	0.0	0.0
	40～49歳	89	62.9	25.8	6.7	3.4	0.0	1.1
	50～59歳	99	69.7	15.2	12.1	3.0	0.0	0.0
	60～69歳	129	55.8	30.2	9.3	2.3	0.8	1.6
	70歳以上	131	54.2	29.8	11.5	1.5	2.3	0.8

※網掛け部は各分類の中で回答者が一番多い項目

居住地区別の集計

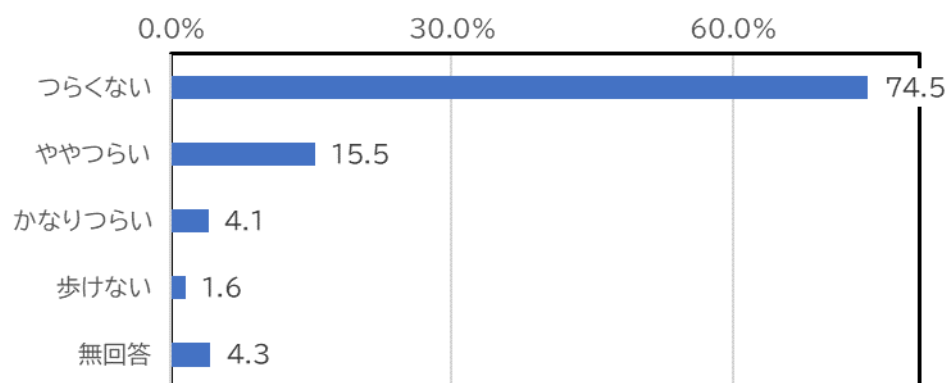
居住地区別でも、「5分以内」が最も多くなっています。

		単位(%)						
		n	5分以内	6～10分	11～20分	21～30分	31分以上	無回答
全体		607	59.3	25.7	9.1	2.1	0.8	3.0
地区	平岸地区	59	69.5	22.0	8.5	0.0	0.0	0.0
	茂尻・百戸・エルム地区	83	54.2	25.3	16.9	2.4	0.0	1.2
	住友地区(住友・日の出)	56	64.3	26.8	5.4	1.8	1.8	0.0
	赤平市街 (泉町・錦町・本町・大町・東大町)	74	75.7	17.6	4.1	0.0	1.4	1.4
	豊里地区 (昭和・桜木・宮下・豊栄・幸・美園)	118	54.2	34.8	7.6	2.5	0.0	0.9
	文京・豊丘・若木・赤間・ 東豊里・西豊里地区	172	63.4	24.4	8.7	1.7	1.2	0.6
	住吉・共和・幌岡地区	27	33.3	29.6	18.5	14.8	3.7	0.0

※網掛け部は各分類の中で回答者が一番多い項目

(7)最寄りバス停までの徒歩について

バス停までの徒歩については、「つらくない」が74.5%と最も多くなりました。一方で、「かなりつらい」(4.1%)、「歩けない」(1.6%)となっています。



男女別・年齢別の集計

男女別・年齢別ともに「つらくない」が最も多くなりましたが、70歳以上における「かなりつらい」、「歩けない」があわせて12.2%となっています。

		単位(%)					
		n	つらくない	ややつらい	かなりつらい	歩けない	無回答
全体		607	74.5	15.5	4.1	1.7	4.3
性別	男性	269	77.7	14.1	5.2	1.1	1.9
	女性	301	74.1	17.6	3.7	2.3	2.3
年齢	18～29歳	63	88.9	9.5	0.0	0.0	1.6
	30～39歳	80	86.3	11.3	1.3	1.3	0.0
	40～49歳	89	76.4	18.0	3.4	1.1	1.1
	50～59歳	99	81.8	11.1	3.0	1.0	3.0
	60～69歳	129	69.8	20.2	5.4	1.6	3.1
	70歳以上	131	65.7	19.9	8.4	3.8	2.3

※網掛け部は各分類の中で回答者が一番多い項目

居住地区別の集計

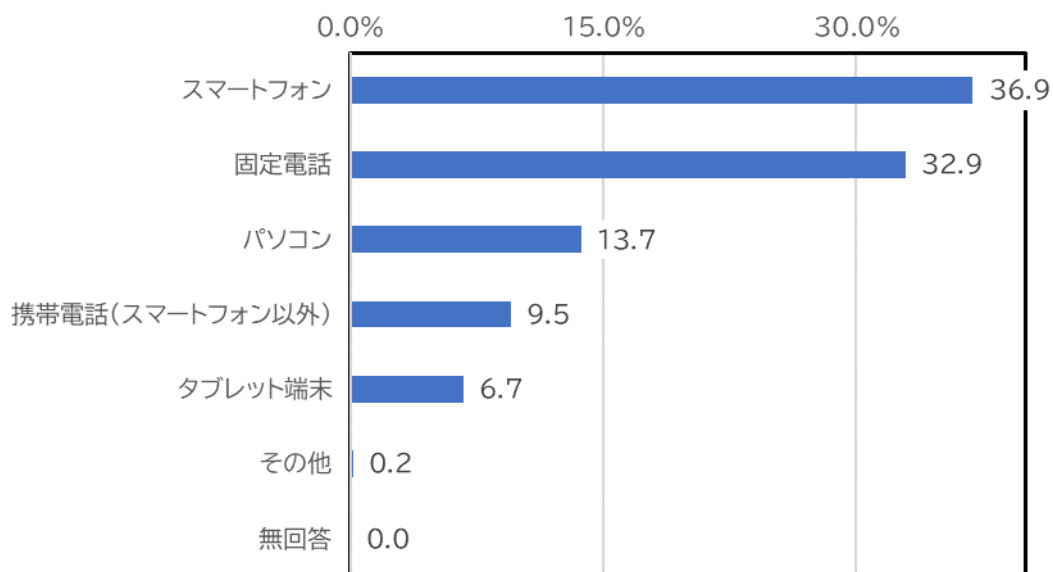
居住地区別にみると、「つらくない」と答えた割合が「茂尻・百戸・エルム地区」(66.3%)、「住吉・共和・幌岡地区」(55.6%)と他地域と比べ低くなっています。

		単位(%)					
		n	つらくない	ややつらい	かなりつらい	歩けない	無回答
全体		607	74.5	15.5	4.1	1.7	4.3
地区	平岸地区	59	81.4	13.6	1.7	0.0	3.4
	茂尻・百戸・エルム地区	83	66.3	19.3	9.6	2.4	2.4
	住友地区(住友・日の出)	56	75.0	16.1	5.4	1.8	1.8
	赤平市街 (泉町・錦町・本町・大町・東大町)	74	91.9	4.1	0.0	0.0	4.1
	豊里地区 (昭和・桜木・宮下・豊栄・幸・美園)	118	78.0	15.3	2.5	2.5	1.7
	文京・豊丘・若木・赤間・ 東豊里・西豊里地区	172	75.0	18.6	5.2	0.6	0.6
	住吉・共和・幌岡地区	27	55.6	25.9	3.7	11.1	3.7

※網掛け部は各分類の中で回答者が一番多い項目

(8)回答者の通信環境

「スマートフォン」が36.9%と最も多く、「固定電話」を上回る結果となりました。



男女別・年齢別の集計

男女別・年齢別でみると、60歳未満の方は男女ともに「スマートフォン」の使用率が最も多くなっていますが、人数の割合が高い「60～69歳」は60.5%、「70歳以上」は42.0%にとどまっています。

		n	固定電話	スマートフォン (スマホ)	携帯電話 (スマホ以外)	タブレット端末	パソコン	その他	無回答
全体		1173	32.9	36.9	9.6	6.7	13.7	0.2	0.0
性別	男性	269	68.4	74.4	20.1	14.5	33.5	0.4	0.0
	女性	301	62.1	73.8	17.9	13.0	22.9	0.3	0.0
年齢	18～29歳	63	39.7	95.2	4.8	20.6	47.6	0.0	0.0
	30～39歳	80	31.3	93.8	8.8	23.8	27.5	1.3	0.0
	40～49歳	89	57.3	95.5	4.5	21.4	38.2	0.0	0.0
	50～59歳	99	72.7	79.8	15.2	13.1	36.4	0.0	0.0
	60～69歳	129	79.8	60.5	30.2	6.2	17.1	0.0	0.0
	70歳以上	131	84.0	42.0	33.6	5.3	13.0	0.8	0.0

※網掛け部は各分類の中で回答者が一番多い項目

居住地区別の集計

居住地区別にみると、「平岸地区」と「住友地区（住友・日の出）」以外の地域で「スマートフォン」が最も多く、「住吉・共和・幌岡地区」のスマートフォン使用率が一番高い結果となりました。

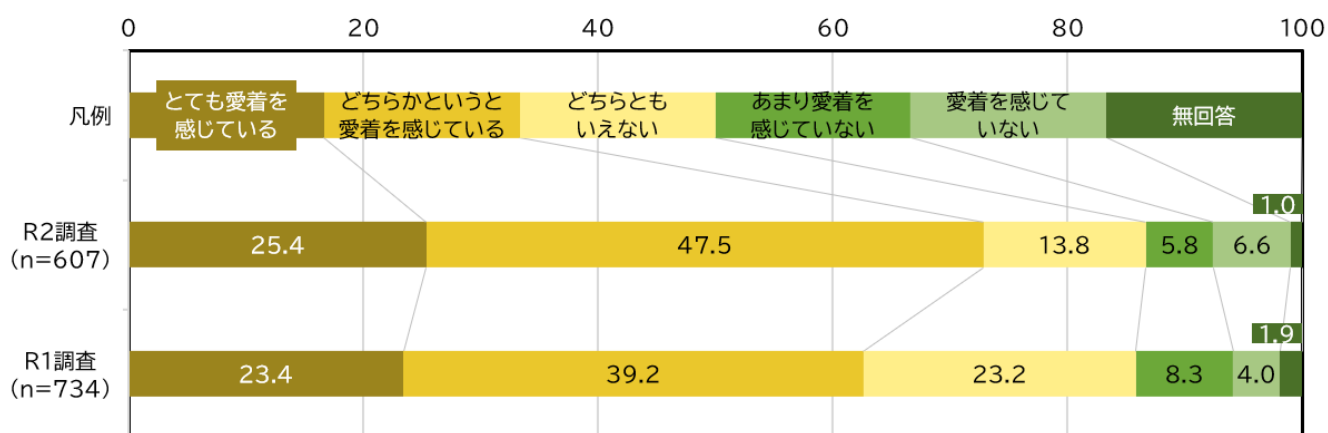
		n	固定電話	スマートフォン (スマホ)	携帯電話 (スマホ以外)	タブレット端末	パソコン	その他	無回答
全体		1173	32.9	36.9	9.6	6.7	13.7	0.2	0.0
地区	平岸地区	59	66.1	57.6	28.8	10.2	22.0	0.0	0.0
	茂尻・百戸・エルム地区	83	71.1	73.5	18.1	13.3	22.9	0.0	0.0
	住友地区(住友・日の出)	56	75.0	50.0	35.7	1.8	12.5	3.6	0.0
	赤平市街 (泉町・錦町・本町・大町・東大町)	74	52.7	73.0	17.6	18.9	36.5	0.0	0.0
	豊里地区 (昭和・桜木・宮下・豊栄・幸・美園)	118	62.7	79.7	13.6	15.3	31.4	0.0	0.0
	文京・豊丘・若木・赤間・ 東豊里・西豊里地区	172	64.0	79.1	15.1	15.1	28.5	0.0	0.0
	住吉・共和・幌岡地区	27	77.8	85.2	14.8	11.1	29.6	0.0	0.0

※網掛け部は各分類の中で回答者が一番多い項目

2. 赤平市への愛着度・定住意向

(1) 赤平市への愛着度

赤平市への愛着度は、「とても愛着を感じている」(25.4%)、「どちらかというとな愛着を感じている」(47.5%)の合計は72.9%となり、前回調査の62.6%を上回る結果となりました。



男女別・年齢別の集計

男女別・年齢別でみると、すべての項目で「どちらかというとな愛着を感じている」が最も多くなりました。

おおむね年齢が高くなるにつれて愛着度（「とても愛着を感じている」と「どちらかというとな愛着を感じる」の合計）が高くなる傾向となりました。

単位(%)

		n	とても愛着を感じている	どちらかというとな愛着を感じている	どちらともいえない	あまり愛着を感じていない	愛着を感じていない	無回答
全体		607	25.4	47.5	13.8	5.8	6.6	1.0
性別	男性	269	28.6	44.2	14.1	7.8	4.5	0.7
	女性	301	23.3	49.5	14.6	4.3	8.0	0.3
年齢	18～29歳	63	22.2	42.9	17.5	7.9	9.5	0.0
	30～39歳	80	18.8	48.8	13.8	11.3	7.5	0.0
	40～49歳	89	23.6	49.4	10.1	5.6	11.2	0.0
	50～59歳	99	27.3	46.5	14.1	4.0	7.1	1.0
	60～69歳	129	20.2	51.2	17.8	5.4	4.7	0.8
	70歳以上	131	35.1	47.3	10.7	3.8	2.3	0.8

※網掛け部は各分類の中で回答者が一番多い項目

居住地区別の集計

居住地区別にみると、愛着度が最も高くなったのは「住友地区（住友・日の出）」（80.4％）で、一番低かったのは「赤平市街（泉町・錦町・本町・大町・東大町）」（64.9％）となりました。

単位(%)

	n	とても愛着を感じている	どちらかという 愛着を感じている	どちらとも いえない	あまり愛着を感じていない	愛着を感じていない	無回答
全体	607	25.4	47.5	13.8	5.8	6.6	1.0
地区							
平岸地区	59	22.0	45.8	18.6	5.1	8.5	0.0
茂尻・百戸・エルム地区	83	16.9	48.2	20.5	6.0	8.4	0.0
住友地区（住友・日の出）	56	39.3	41.1	7.1	5.4	7.1	0.0
赤平市街 （泉町・錦町・本町・大町・東大町）	74	23.0	41.9	21.6	9.5	4.1	0.0
豊里地区 （昭和・桜木・宮下・豊栄・幸・美園）	118	25.4	53.4	8.5	2.5	9.3	0.9
文京・豊丘・若木・赤間・ 東豊里・西豊里地区	172	27.3	49.4	9.9	8.1	4.1	1.2
住吉・共和・幌岡地区	27	22.2	48.2	25.9	0.0	3.7	0.0

※網掛け部は各分類の中で回答者が一番多い項目

居住年数別の集計

居住年数別でみると、「30年以上」赤平市に住む方の愛着度が79.5％と最も高く、「10年未満」が54.4％となりました。

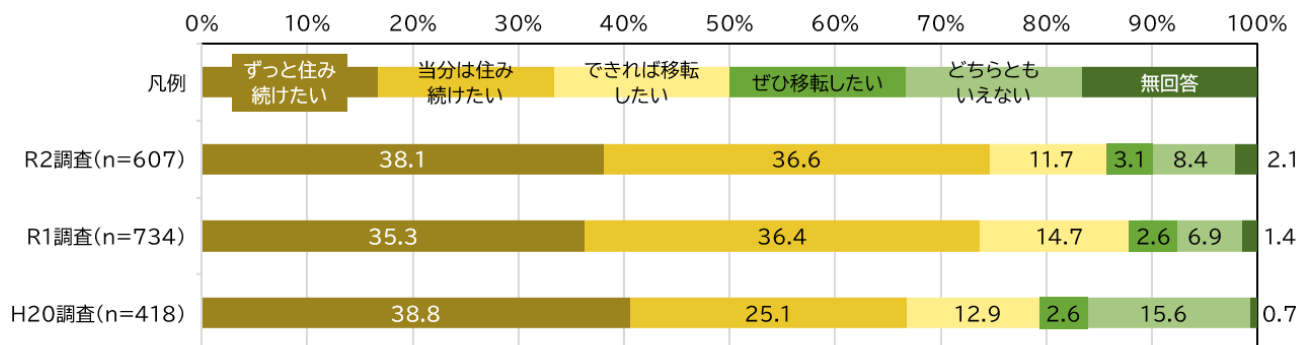
単位(%)

	n	とても愛着を感じている	どちらかという 愛着を感じている	どちらとも いえない	あまり愛着を感じていない	愛着を感じていない	無回答
全体	607	25.4	47.5	13.8	5.8	6.6	1.0
年数							
10年未満	57	8.8	45.6	15.8	7.0	22.8	0.0
10～19年	69	13.0	44.9	21.7	15.9	4.4	0.0
20～29年	80	22.5	47.5	17.5	7.5	5.0	0.0
30年以上	386	30.3	49.2	11.4	3.6	4.7	0.8

※網掛け部は各分類の中で回答者が一番多い項目

(2) 赤平市での定住意向

赤平市での定住意向は、「ずっと住み続けたい」（38.1％）と「当分は住み続けたい」（36.6％）の合計が74.7％で、「できれば移転したい」（11.7％）と「ぜひ移転したい」（3.1％）の合計14.8を大きく上回り、定住意向が増加していた前回調査時よりもさらに3.0ポイント増加しました。



男女別・年齢別の集計

- 男女別でみると、男女間で定住意向に大きな差異はみられませんでした。
- 年齢別でみると、年齢が高くなるにつれて定住意向が強く、「18～29 歳」は「できれば移転したい」(20.6%)と「ぜひ移転したい」(9.5%)の合計が30.1%となり、3割が赤平からの転出を希望している結果となりました。

		n	ずっと 住み続けたい	当分は 住み続けたい	できれば 移転したい	ぜひ 移転したい	どちらとも いえない	わからない	無回答
全体		607	38.1	36.6	11.7	3.1	8.4	0.0	2.1
性別	男性	269	39.8	35.3	11.9	3.4	8.6	0.0	1.1
	女性	301	35.2	37.9	13.0	3.3	8.6	0.0	2.0
年齢	18～29歳	63	11.1	46.0	20.6	9.5	12.7	0.0	0.0
	30～39歳	80	31.3	42.5	11.3	2.5	10.0	0.0	2.5
	40～49歳	89	29.2	39.3	15.7	3.4	10.1	0.0	2.3
	50～59歳	99	35.4	39.4	10.1	4.0	10.1	0.0	1.0
	60～69歳	129	43.4	36.4	10.9	0.8	7.0	0.0	1.6
	70歳以上	131	57.3	25.2	8.4	2.3	4.6	0.0	2.3

※網掛け部は各分類の中で回答者が一番多い項目

居住地区別の集計

- 「ずっと住み続けたい」と「当分は住み続けたい」の合計が最も多かったのは、「住吉・共和・幌岡地区」で85.1%となりました。
- 「できれば移転したい」と「ぜひ移転したい」の合計が最も多くなったのは、愛着度が一番低かった「赤平市街（泉町・錦町・本町・大町・東大町）」で31.1%となりました。

		n	ずっと 住み続けたい	当分は 住み続けたい	できれば 移転したい	ぜひ 移転したい	どちらとも いえない	わからない	無回答
全体		607	38.1	36.6	11.7	3.1	8.4	0.0	2.1
地区	平岸地区	59	40.7	44.1	10.2	3.4	1.7	0.0	0.0
	茂尻・百戸・エルム地区	83	25.3	44.6	10.8	6.0	10.8	0.0	2.4
	住友地区(住友・日の出)	56	51.8	28.6	8.9	3.6	7.1	0.0	0.0
	赤平市街 (泉町・錦町・本町・大町・東大町)	74	32.4	32.4	27.0	4.1	4.1	0.0	0.0
	豊里地区 (昭和・桜木・宮下・豊栄・幸・美園)	118	38.1	39.0	5.9	2.5	11.0	0.0	3.4
	文京・豊丘・若木・赤間・ 東豊里・西豊里地区	172	40.7	32.6	13.4	1.7	10.5	0.0	1.2
	住吉・共和・幌岡地区	27	40.7	44.4	3.7	3.7	3.7	0.0	3.7

※網掛け部は各分類の中で回答者が一番多い項目

居住年数別の集計

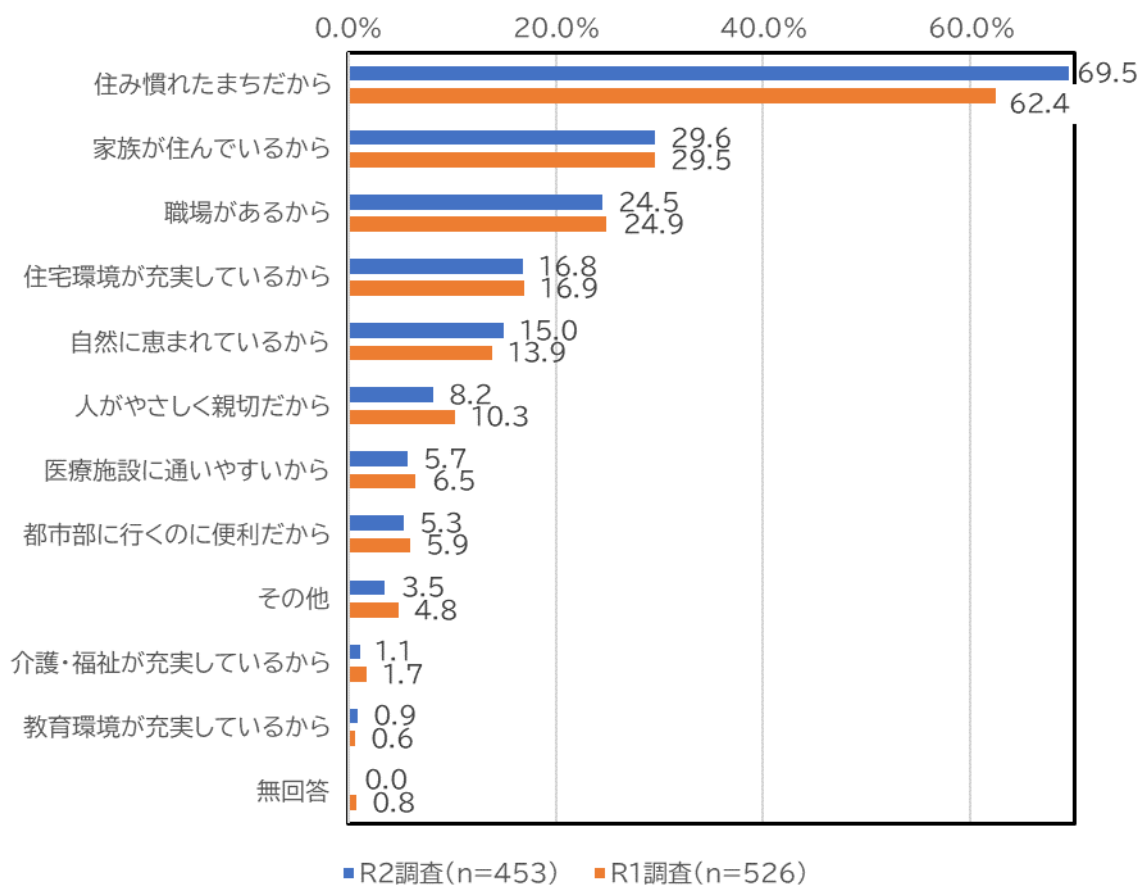
- 居住年数別でみると、定住意向は「30 年以上」が80.3%で最も高いですが、「10～19 年」と「10 年未満」では56%ほどと低い結果となりました。
- 移住意向が強かったのは「10～19 年」の31.9%と「10 年未満」の26.3%となりました。

		n	ずっと 住み続けたい	当分は 住み続けたい	できれば 移転したい	ぜひ 移転したい	どちらとも いえない	わからない	無回答
全体		607	38.1	36.6	11.7	3.1	8.4	0.0	2.1
年数	10年未満	57	12.3	43.9	22.8	3.5	15.8	0.0	1.8
	10～19年	69	20.3	36.2	23.2	8.7	11.6	0.0	0.0
	20～29年	80	30.0	46.3	8.8	3.8	11.3	0.0	0.0
	30年以上	386	46.6	33.7	9.1	2.1	6.2	0.0	2.3

※網掛け部は各分類の中で回答者が一番多い項目

(3) 赤平市に住み続けたい理由

定住意向がある方の赤平市に住み続けたい主な理由は、「住み慣れたまちだから」が69.5%で突出して多く、次いで「家族が住んでいるから」(29.6%)、「職場があるから」(24.5%)となっています。



その他の内容

- 実家が近いから
- 災害など少なく住みやすい
- 雑踏などのストレスがないから
- 持家を壊したいがお金が無く仕方なく住んでいる
- 夫の転勤地だから
- 赤平駅まで20分弱、高速バス停が近い
- 生まれ育ったところだから
- 子どもを転校させたくないから
- 友人知人が多く高齢になると他の街で一から始めることは大変
- 他に行くところがない
- 子育てしやすい
- 地震で停電になった時電気の復旧が早かったから
- お墓がある

男女別・年齢別の集計

- 男女別でみると、ともに「住み慣れたまちだから」が最も多く、どちらも約7割となっています。
- 年齢別でみると、すべての年齢で「住み慣れたまちだから」が最も多くなっていますが、年齢が低くなるにつれてその割合は減少傾向にあります。

単位(%)

	n	住み慣れている	家族が 住んでいる	職場がある	住宅環境が 充実している	自然に 恵まれている	人がやさしく 親切
全体	453	69.5	29.6	24.5	16.8	15.0	8.2
性別	男性	69.8	29.7	24.8	17.3	15.4	6.4
	女性	70.0	30.0	24.6	15.5	14.1	10.0
年齢	18～29歳	47.2	44.4	19.4	11.1	19.4	13.9
	30～39歳	61.0	32.2	35.6	8.5	20.3	5.1
	40～49歳	65.6	41.0	36.1	16.4	16.4	4.9
	50～59歳	77.0	35.1	29.7	14.9	12.2	5.4
	60～69歳	70.9	24.3	22.3	18.5	15.5	6.8
	70歳以上	78.7	17.6	11.1	24.1	10.2	13.0

単位(%)

	n	医療施設に 通いやすい	都市部に 行くのに便利	その他	介護・福祉が 充実している	教育環境が 充実している
全体	453	5.7	5.3	3.5	1.1	0.9
性別	男性	5.5	5.9	3.0	0.5	1.0
	女性	6.8	5.0	4.1	1.8	0.9
年齢	18～29歳	0.0	16.7	2.8	0.0	5.6
	30～39歳	1.7	10.2	6.8	0.0	3.4
	40～49歳	1.6	3.3	3.3	0.0	0.0
	50～59歳	1.4	2.7	2.7	0.0	0.0
	60～69歳	9.7	1.0	4.9	1.0	0.0
	70歳以上	12.0	5.6	1.9	3.7	0.0

※網掛け部は各分類の中で回答者が一番多い項目

居住地区別の集計

居住地区別でみると、すべての地区で「住み慣れたまちだから」が最も多くなっていますが、「赤平市街（泉町・錦町・本町・大町・東大町）」が52.1%と他の地区と比べて少なくなっています。

単位(%)

	n	住み慣れている	家族が 住んでいる	職場がある	住宅環境が 充実している	自然に 恵まれている	人がやさしく 親切
全体	453	69.5	29.6	24.5	16.8	15.0	8.2
地区	平岸地区	50	58.0	30.0	22.0	12.0	8.0
	茂尻・百戸・エルム地区	58	74.1	34.5	24.1	20.7	8.6
	住友地区(住友・日の出)	45	80.0	24.4	20.0	6.7	8.9
	赤平市街 (泉町・錦町・本町・大町・東大町)	48	52.1	20.8	31.3	20.8	12.5
	豊里地区 (昭和・桜木・宮下・豊栄・幸・美園)	91	75.8	36.3	18.7	15.4	16.5
	文京・豊丘・若木・赤間・ 東豊里・西豊里地区	126	69.1	27.0	28.6	19.1	15.9
	住吉・共和・幌岡地区	23	78.3	30.4	21.7	30.4	21.7

単位(%)

	n	医療施設に 通いやすい	都市部に 行くのに便利	その他	介護・福祉が 充実している	教育環境が 充実している
全体	453	5.7	5.3	3.5	1.1	0.9
地区	平岸地区	50	4.0	4.0	0.0	0.0
	茂尻・百戸・エルム地区	58	5.2	6.9	1.7	1.7
	住友地区(住友・日の出)	45	11.1	4.4	8.9	4.4
	赤平市街 (泉町・錦町・本町・大町・東大町)	48	8.3	12.5	8.3	0.0
	豊里地区 (昭和・桜木・宮下・豊栄・幸・美園)	91	6.6	3.3	2.2	1.1
	文京・豊丘・若木・赤間・ 東豊里・西豊里地区	126	4.8	4.0	1.6	0.0
	住吉・共和・幌岡地区	23	0.0	4.4	0.0	4.4

※網掛け部は各分類の中で回答者が一番多い項目

居住年数別の集計

居住年数別でみると、「10年未満」は「職場があるから」と「自然に恵まれているから」がともに31.3%で、他のすべての年齢は「住み慣れている」が最も多くなっています。

単位(%)

	n	住み慣れている	家族が 住んでいる	職場がある	住宅環境が 充実している	自然に 恵まれている	人がやさしく 親切
全体	453	69.5	29.6	24.5	16.8	15.0	8.2
年数							
10年未満	32	6.3	21.9	31.3	21.9	31.3	15.6
10～19年	39	43.6	30.8	28.2	12.8	23.1	7.7
20～29年	61	65.6	31.2	27.9	9.8	18.0	9.8
30年以上	310	80.3	29.7	22.3	18.7	11.6	7.1

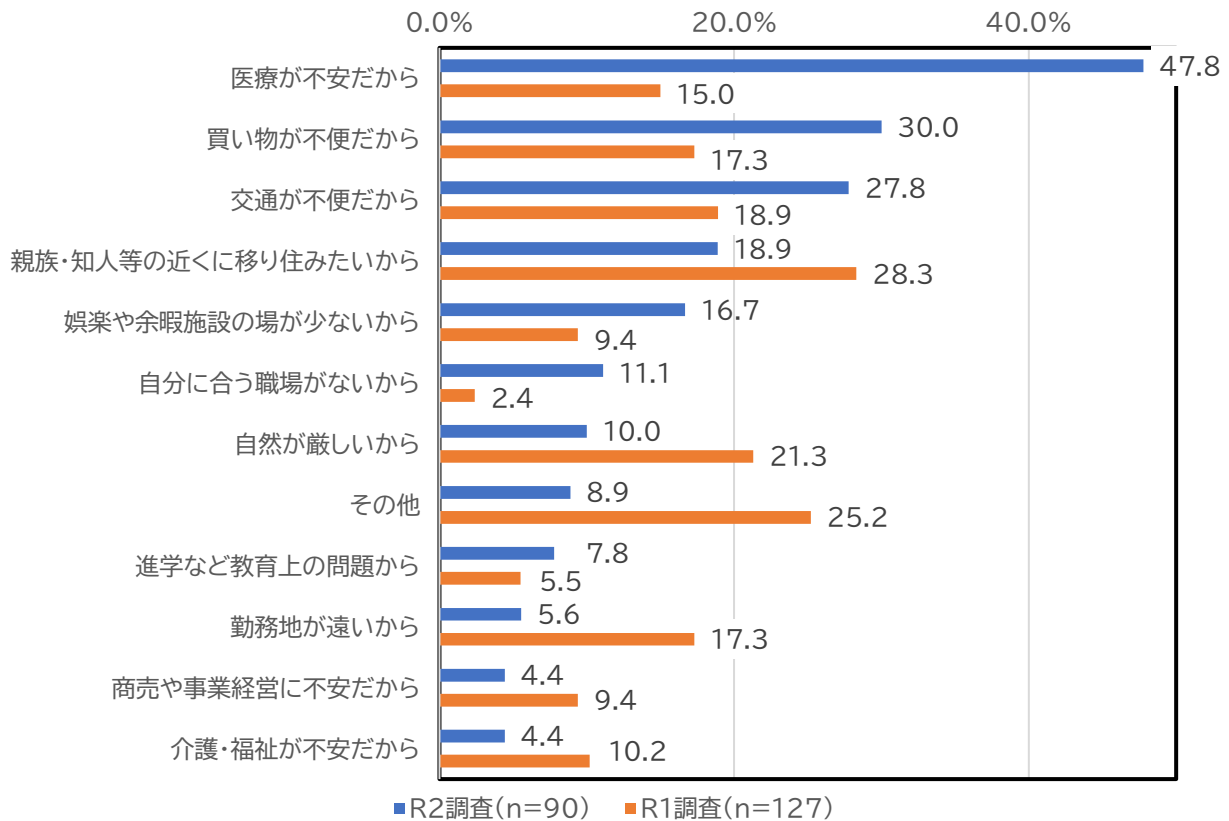
単位(%)

	n	医療施設に 通いやすい	都市部に 行くのに便利	その他	介護・福祉が 充実している	教育環境が 充実している
全体	453	5.7	5.3	3.5	1.1	0.9
年数						
10年未満	32	3.1	18.8	9.4	3.1	6.3
10～19年	39	2.6	5.1	7.7	0.0	0.0
20～29年	61	4.9	4.9	3.3	0.0	3.3
30年以上	310	6.8	3.9	2.6	1.3	0.0

※網掛け部は各分類の中で回答者が一番多い項目

(4) 赤平市から移転したいと思う理由

移転意向がある方の赤平市から移転したい主な理由は、「医療が不安だから」が47.8%で最も多く、次いで「買い物が不便だから」(30.0%)、「交通が不便だから」(27.8%)となっています。



その他の内容

- A コープが閉店になって買い物が不便
- より自然豊かなところに住みたい
- 村社会が嫌 民度が低く感じる
- 税金が高い
- 単身赴任だから
- 市役所の人（が嫌だから？）
- インフラ整備等不十分であり、申し出に対し、対応が悪く市民の声を考慮されていないから
- 住んでいる理由は、会社があるからのみ

男女別・年齢別の集計

- 男女別でみると、ともに「医療が不安だから」が最も高くなっています。
- 年齢別では、「18～29 歳」と「40～49 歳」が「交通が不便だから」が最も多く、「30～39 歳」と 50 歳以上の方は「医療が不安だから」が最も多くなっています。

単位(%)

		n	医療が不安	買い物が不便	交通が不便	親族・知人等の 近くに移住したい	娯楽や余暇を 楽しむ場が少ない	自分に合う 職場がない
全体		90	47.8	30.0	27.8	18.9	16.7	11.1
性別	男性	41	51.2	24.4	12.2	22.0	22.0	9.8
	女性	49	44.9	34.7	40.8	16.3	12.2	12.2
年齢	18～29歳	19	15.8	31.6	42.1	10.5	31.6	26.3
	30～39歳	11	54.6	18.2	9.1	0.0	18.2	0.0
	40～49歳	17	23.5	23.5	52.9	17.7	11.8	17.7
	50～59歳	14	85.7	42.9	21.4	14.3	14.3	7.1
	60～69歳	15	66.7	13.3	13.3	46.7	6.7	6.7
	70歳以上	14	57.1	50.0	14.3	21.4	14.3	0.0

単位(%)

		n	自然が厳しい	その他	進学など 教育上の問題	勤務地が遠い	商売や 事業経営が不安	介護・福祉が 不安
全体		90	10.0	8.9	7.8	5.6	4.4	4.4
性別	男性	41	7.3	17.1	7.3	2.4	7.3	2.4
	女性	49	12.2	2.0	8.2	8.2	2.0	6.1
年齢	18～29歳	19	0.0	0.0	5.3	10.5	0.0	0.0
	30～39歳	11	9.1	27.3	18.2	0.0	0.0	9.1
	40～49歳	17	11.8	11.8	11.8	5.9	5.9	0.0
	50～59歳	14	14.3	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0
	60～69歳	15	13.3	6.7	6.7	6.7	6.7	6.7
	70歳以上	14	14.3	14.3	7.1	0.0	14.3	14.3

※網掛け部は各分類の中で回答者が一番多い項目

居住地区別の集計

居住地区別でみると、「住友地区（住友・日の出）」は「親族・知人等の近くに移り住みたい」（42.9%）、「豊里地区（昭和・桜木・宮下・豊栄・幸・美園）」は「買い物が不便だから」（60.0%）、「住吉・共和・幌岡地区」は「交通が不便だから」（100.0%）で、他の地区は「医療が不安だから」が最も多くなっています。（複数回答のため合計が100%を超えています。）

		n	単位(%)				
			医療が不安	買い物 が不便	交通が不便	親族・知人等の 近くに移住したい	自分に合う 職場がない
全体		90	23.3	21.1	20.0	11.1	6.7
地区	平岸地区	8	87.5	25.0	37.5	0.0	0.0
	茂尻・百戸・エルム地区	14	57.1	21.4	14.3	21.4	35.7
	住友地区（住友・日の出）	7	28.6	14.3	0.0	42.9	14.3
	赤平市街 （泉町・錦町・本町・大町・東大町）	23	34.8	17.4	21.7	17.4	26.1
	豊里地区 （昭和・桜木・宮下・豊栄・幸・美園）	10	30.0	60.0	50.0	0.0	40.0
	文京・豊丘・若木・赤間・ 東豊里・西豊里地区	26	53.9	42.3	30.8	23.1	11.5
	住吉・共和・幌岡地区	2	50.0	0.0	100.0	50.0	0.0

		n	単位(%)				
			自然が厳しい	その他	進学など 教育上の問題	勤務地が遠い	商売や 事業経営が不安
全体		90	5.6	4.4	4.4	3.3	2.2
地区	平岸地区	8	12.5	12.5	25.0	0.0	0.0
	茂尻・百戸・エルム地区	14	0.0	0.0	7.1	0.0	21.4
	住友地区（住友・日の出）	7	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0
	赤平市街 （泉町・錦町・本町・大町・東大町）	23	4.4	21.7	8.7	4.4	13.0
	豊里地区 （昭和・桜木・宮下・豊栄・幸・美園）	10	20.0	10.0	0.0	20.0	0.0
	文京・豊丘・若木・赤間・ 東豊里・西豊里地区	26	15.4	3.9	3.9	3.9	0.0
	住吉・共和・幌岡地区	2	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0

※網掛け部は各分類の中で回答者が一番多い項目

居住年数別の集計

居住年数別でみると、すべての項目で「医療が不安だから」が最も多くなっています。

		n	単位(%)				
			医療が不安	買い物 が不便	交通が不便	親族・知人等の 近くに移住したい	自分に合う 職場がない
全体		90	23.3	21.1	20.0	11.1	6.7
年数	10年未満	15	33.3	26.7	33.3	20.0	0.0
	10～19年	22	40.9	22.7	36.4	9.1	22.7
	20～29年	10	40.0	30.0	30.0	20.0	20.0
	30年以上	43	58.1	34.9	20.9	23.3	11.6

		n	単位(%)				
			自然が厳しい	その他	進学など 教育上の問題	勤務地が遠い	商売や 事業経営が不安
全体		90	5.6	4.4	4.4	3.3	2.2
年数	10年未満	15	0.0	13.3	13.3	6.7	0.0
	10～19年	22	0.0	9.1	13.6	0.0	4.6
	20～29年	10	20.0	10.0	0.0	20.0	0.0
	30年以上	43	16.3	7.0	4.7	4.7	7.0

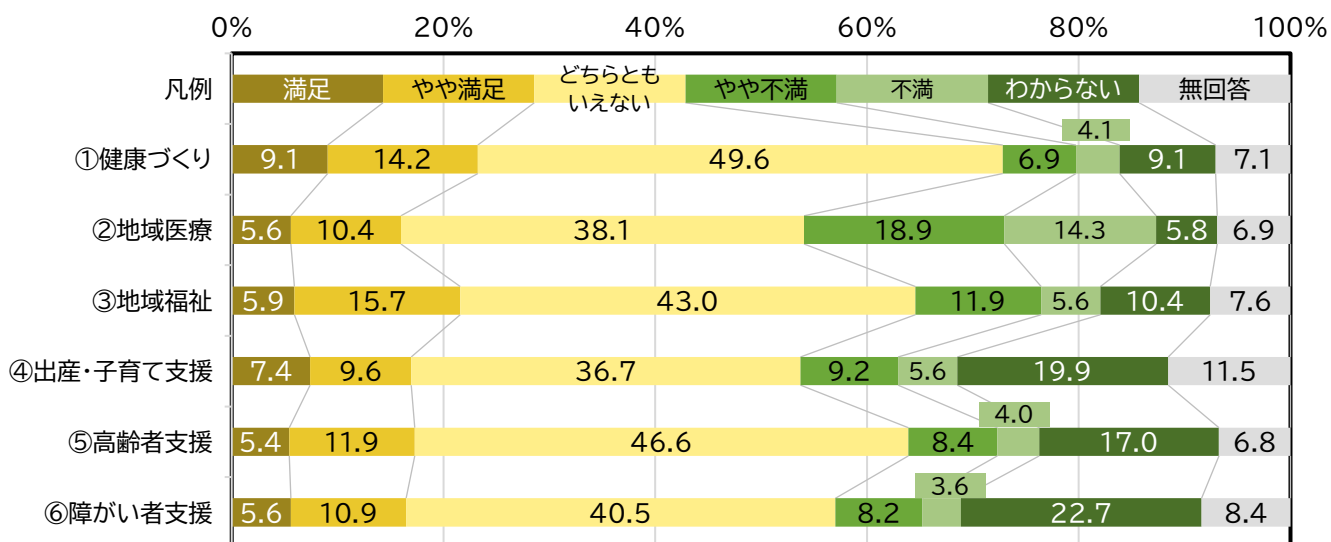
※網掛け部は各分類の中で回答者が一番多い項目

3. 赤平市の取組について

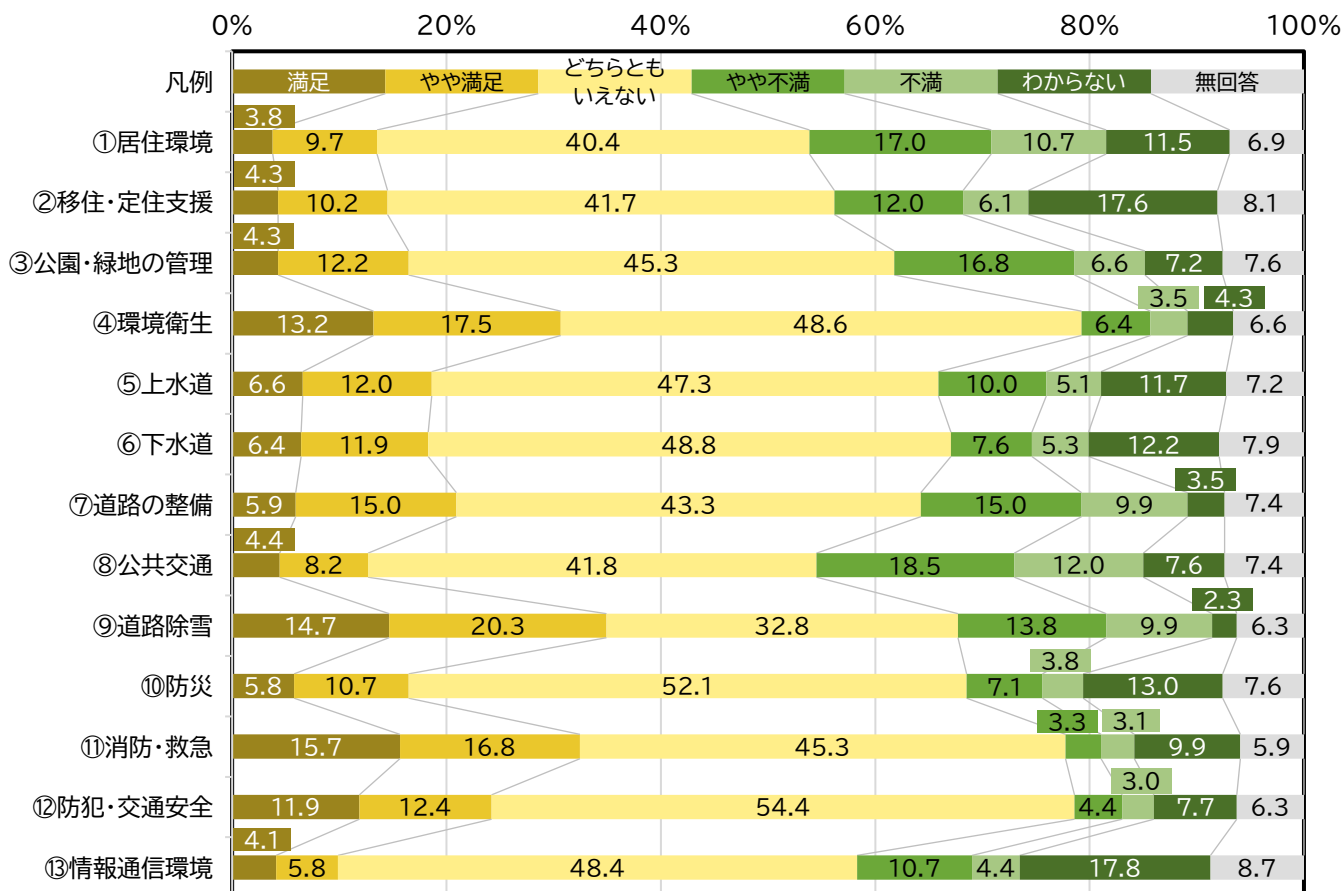
(1) 現状の満足度

赤平市の取組について現状どの程度満足しているのか聞いた結果を 100 分率で示します。

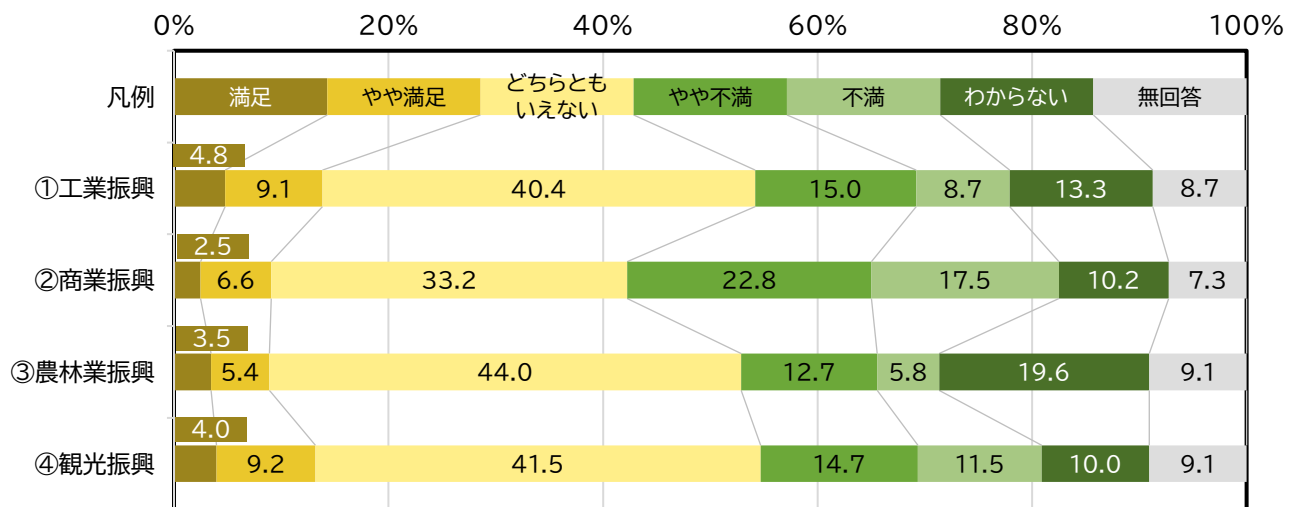
基本目標 1 健やかな暮らしをともに支え合うまち



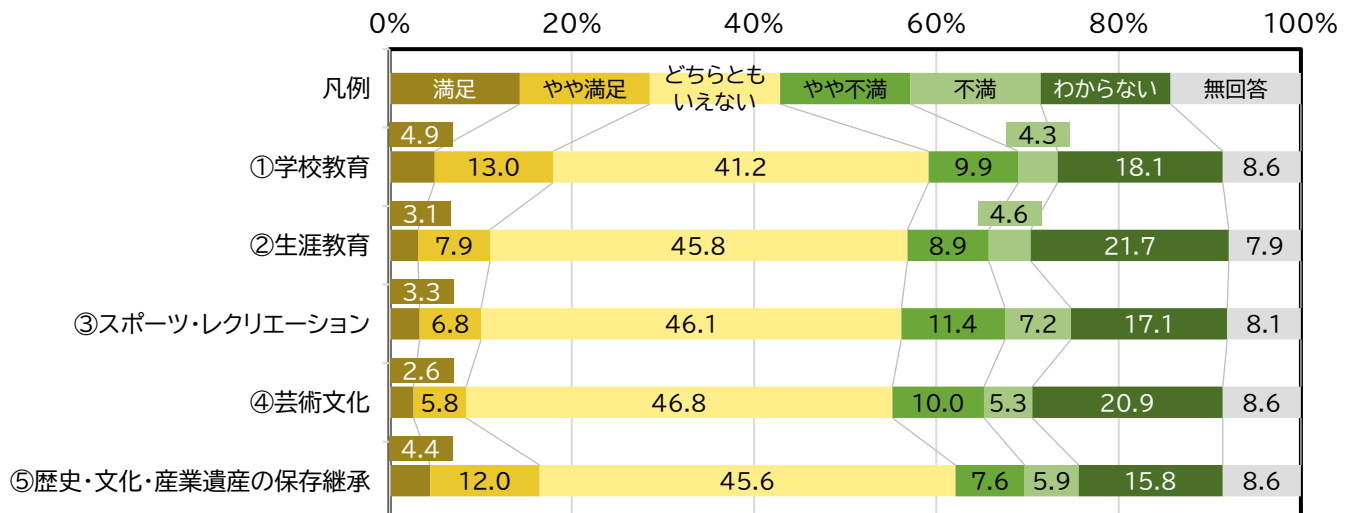
基本目標 2 安全・安心で快適に暮らせるまち



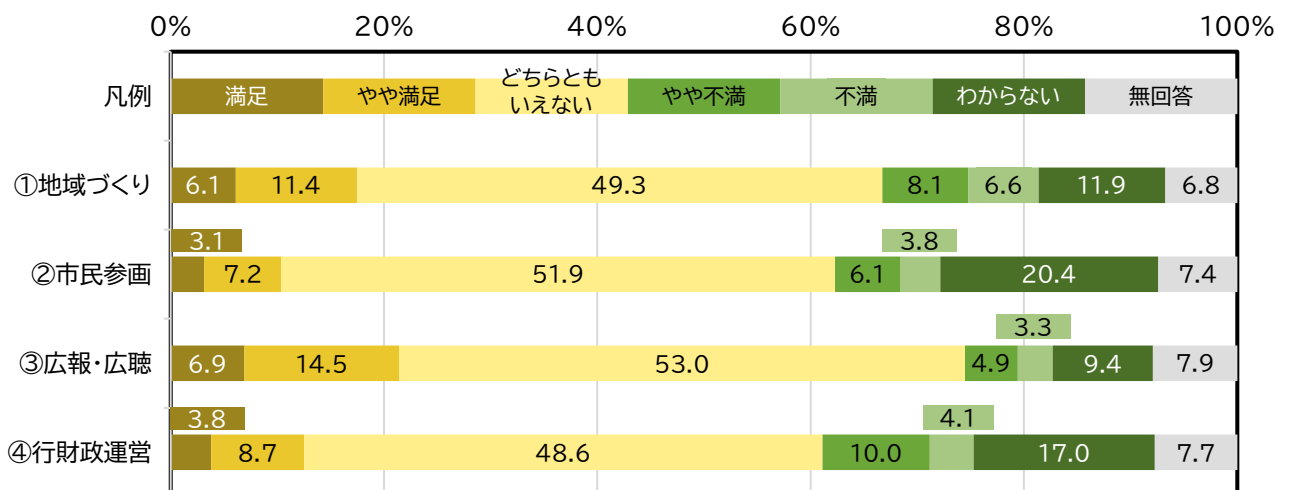
基本目標3 活力に満ちた魅力あふれるまち



基本目標4 とともに学び合い豊かな心を育むまち



基本目標5 ふれあいと交流で創る協働のまち



【満足度が高い施策項目】

- 各施策について、「満足」・「やや満足」と回答のあった上位 10 項目は下表のとおりとなっています。
- 最も合計値の高かった施策は「道路除雪」の 35.0%で、次いで「消防・救急」(32.5%)、「環境衛生」(30.7%)となりました。

単位(%)

順位	満足度の高い10項目	満足(A)	やや満足(B)	満足の合計 (A)+(B)
1	基本目標2 ⑨道路除雪	14.7	20.3	35.0
2	基本目標2 ⑪消防・救急	15.7	16.8	32.5
3	基本目標2 ④環境衛生	13.2	17.5	30.7
4	基本目標2 ⑫防犯・交通安全	11.9	12.4	24.3
5	基本目標1 ①健康づくり	9.1	14.2	23.3
6	基本目標1 ③地域福祉	5.9	15.7	21.6
7	基本目標5 ③広報・広聴	6.9	14.5	21.4
8	基本目標2 ⑦道路の整備	5.9	15.0	20.9
9	基本目標2 ⑤上水道	6.6	12.0	18.6
10	基本目標2 ⑥下水道	6.4	11.9	18.3

満足度が低い（不満度の高い）施策項目

- 各施策について、「やや不満」・「不満」と回答のあった上位 10 項目（満足度下位 10 項目）は下表のとおりとなっています。
- 最も合計値の高かった施策は「商業振興」の 40.3%で、次いで「地域医療」(33.2%)、「公共交通」(30.5%)となりました。

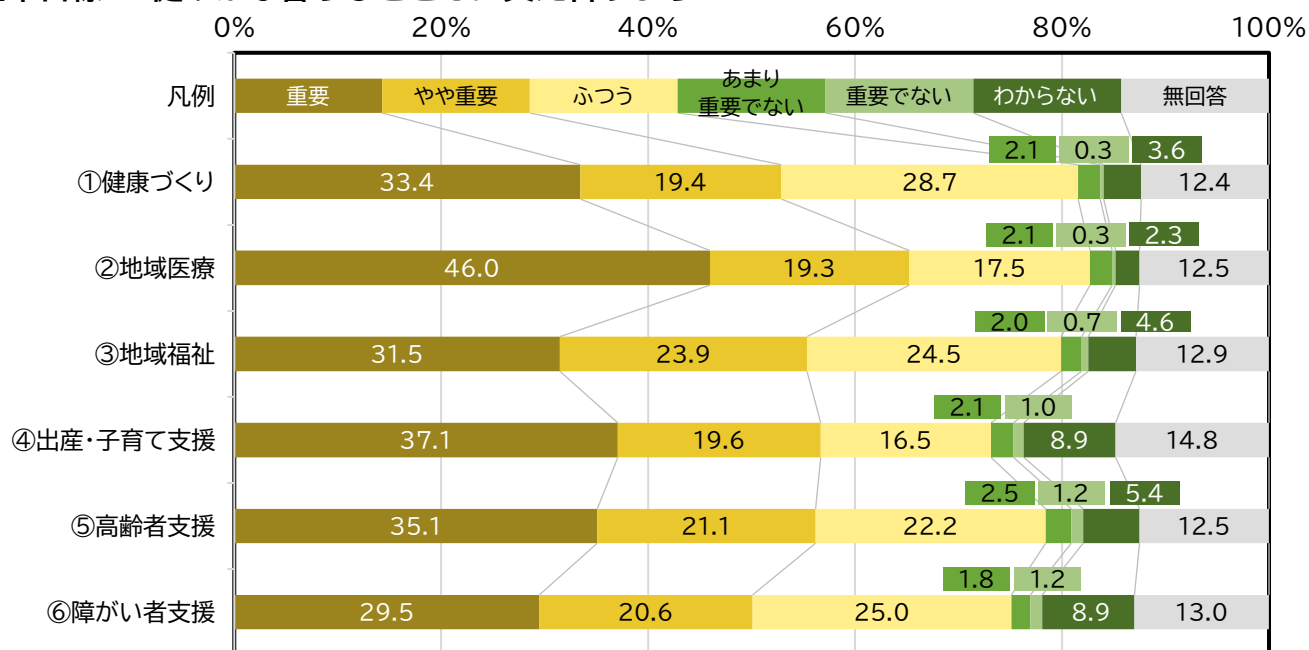
単位(%)

順位	不満度の高い10項目	やや不満(C)	不満(D)	不満の合計 (C)+(D)
1	基本目標3 ②商業振興	22.8	17.5	40.3
2	基本目標1 ②地域医療	18.9	14.3	33.2
3	基本目標2 ⑧公共交通	18.5	12.0	30.5
4	基本目標2 ①居住環境	17.0	10.7	27.7
5	基本目標3 ④観光振興	14.7	11.5	26.2
6	基本目標2 ⑦道路の整備	15.0	9.9	24.9
7	基本目標2 ⑨道路除雪	13.8	9.9	23.7
8	基本目標3 ①工業振興	15.0	8.7	23.7
9	基本目標2 ③公園・緑地の管理	16.8	6.6	23.4
10	基本目標4 ③スポーツ・レクリエーション	11.4	7.2	18.6

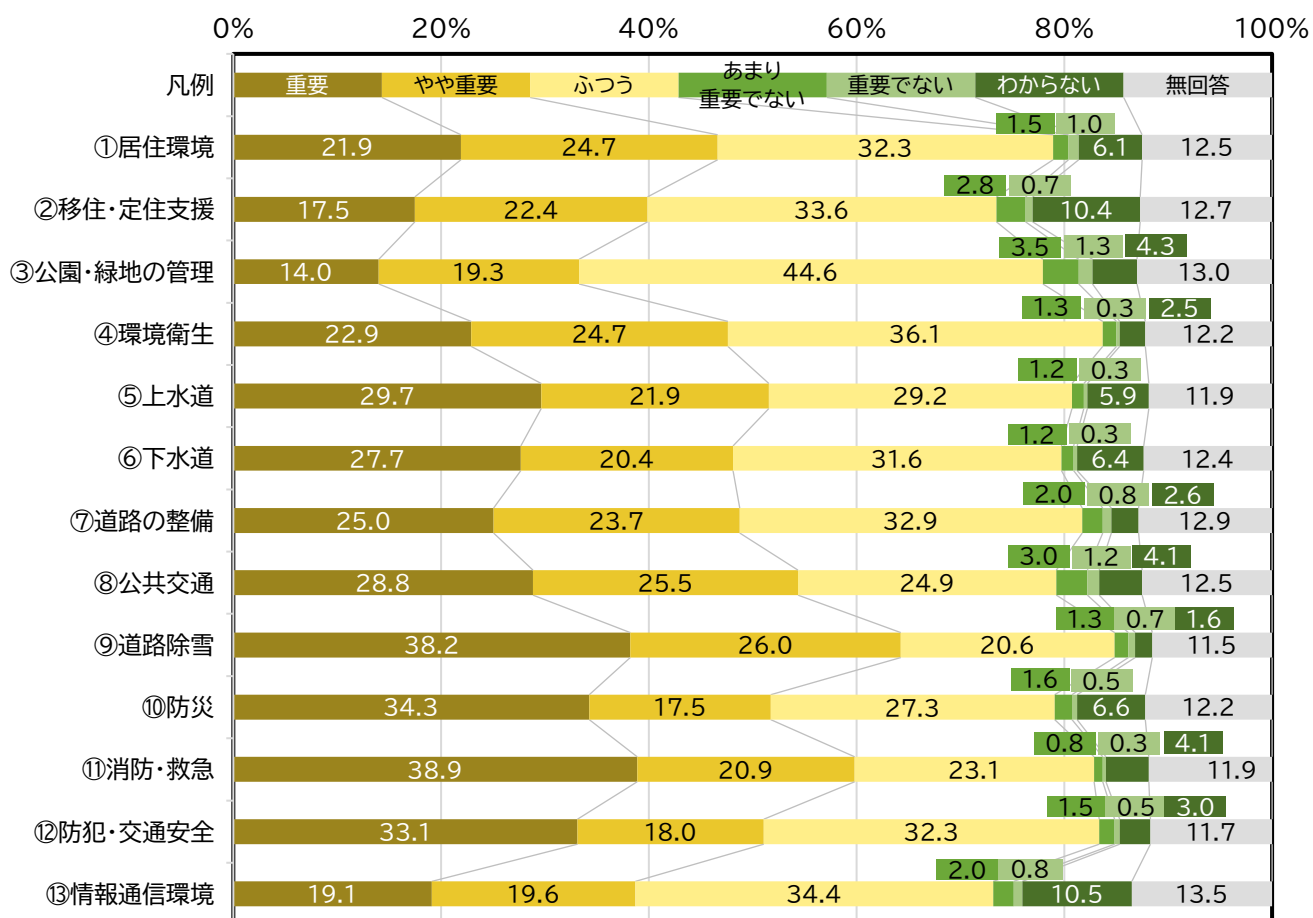
(2) 今後の重要度

赤平市の取組について今後の重要度について聞いた結果を 100 分率で示します。

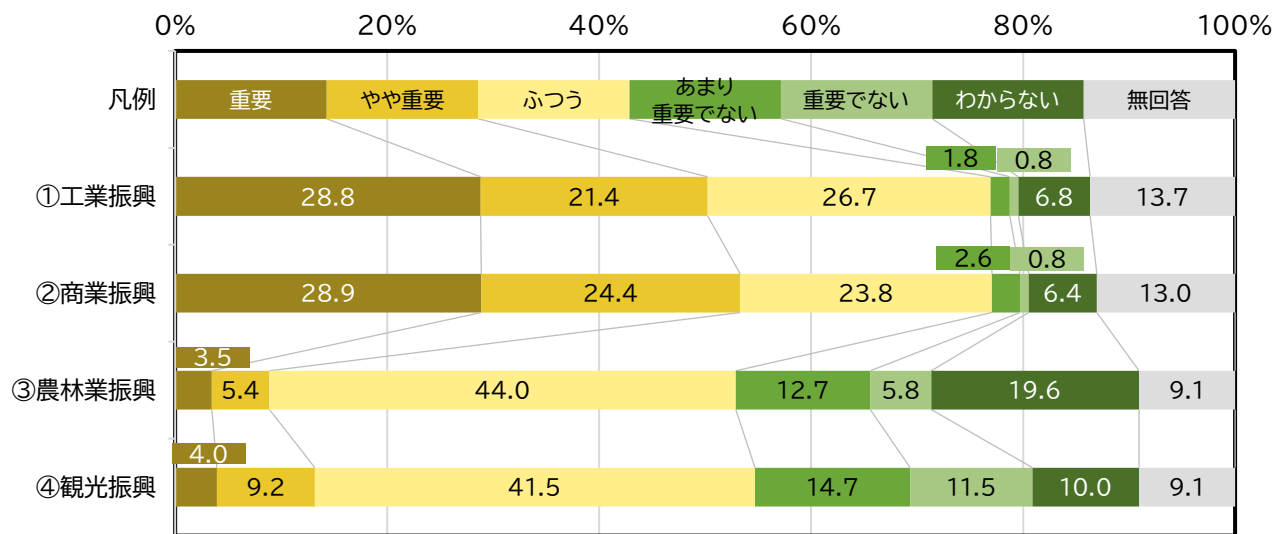
基本目標 1 健やかな暮らしをともに支え合うまち



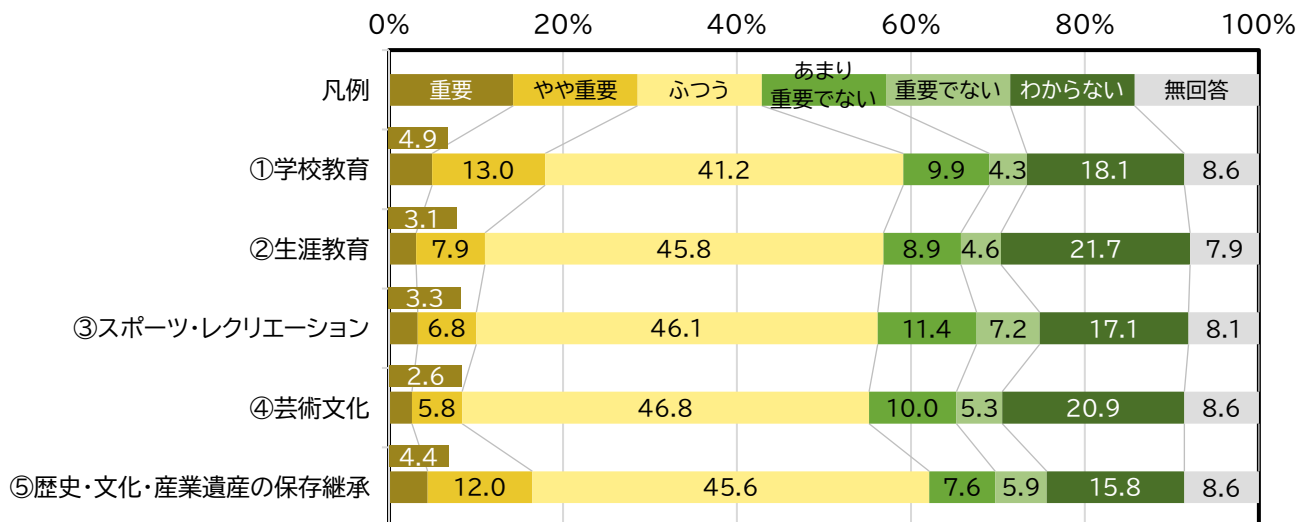
基本目標 2 安全・安心で快適に暮らせるまち



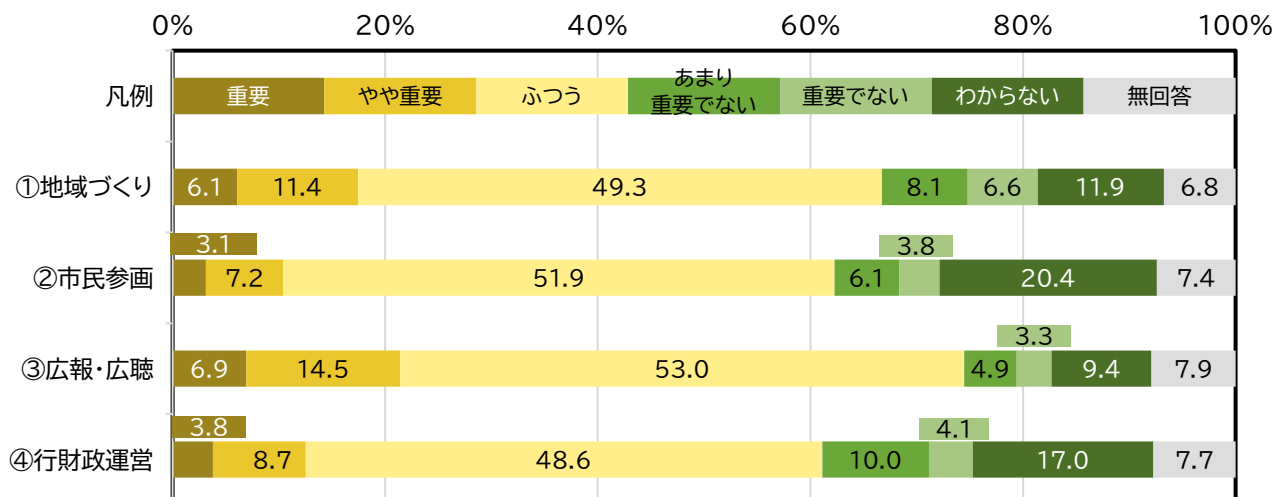
基本目標3 活力に満ちた魅力あふれるまち



基本目標4 とともに学び合い豊かな心を育むまち



基本目標5 ふれあいと交流で創る協働のまち



重要度が高い施策項目

- 各施策について、「重要」・「やや重要」と回答のあった上位 10 項目は下表のとおりとなっています。
- 最も合計値の高かった施策は「地域医療」の 65.3%で、次いで「道路除雪」(64.2%)、「消防・救急」(59.8%)となりました。

単位(%)

順位	重要度の高い10項目	重要(E)	やや重要(F)	重要の合計 (E)+(F)
1	基本目標1 ②地域医療	46.0	19.3	65.3
2	基本目標2 ⑨道路除雪	38.2	26.0	64.2
3	基本目標2 ⑪消防・救急	38.9	20.9	59.8
4	基本目標1 ④出産・子育て支援	37.1	19.6	56.7
5	基本目標1 ⑤高齢者支援	35.1	21.1	56.2
6	基本目標1 ③地域福祉	31.5	23.9	55.4
7	基本目標2 ⑧公共交通	28.8	25.5	54.3
8	基本目標3 ②商業振興	28.9	24.4	53.3
9	基本目標1 ①健康づくり	33.4	19.4	52.8
10	基本目標2 ⑩防災	34.3	17.5	51.8

重要度が低い施策項目

- 各施策について、「あまり重要でない」・「重要でない」と回答のあった上位 10 項目（重要度下位 10 項目）は下表のとおりとなっています。
- 最も合計値の高かった施策は「観光振興」の 26.2%で、次いで「スポーツ・レクリエーション」(18.6%)、「農林業振興」(18.5%)となりました。

単位(%)

順位	重要度が低い10項目	あまり 重要でない (G)	重要でない (H)	重要でない 合計 (G)+(H)
1	基本目標3 ④観光振興	14.7	11.5	26.2
2	基本目標4 ③スポーツ・レクリエーション	11.4	7.2	18.6
3	基本目標3 ③農林業振興	12.7	5.8	18.5
4	基本目標4 ④芸術文化	10.0	5.3	15.3
5	基本目標5 ①地域づくり	8.1	6.6	14.7
6	基本目標4 ①学校教育	9.9	4.3	14.2
7	基本目標5 ④行財政運営	10.0	4.1	14.1
8	基本目標4 ②生涯教育	8.9	4.6	13.5
9	基本目標4 ⑤歴史・文化・産業遺産の保存継承	7.6	5.9	13.5
10	基本目標5 ②市民参画	6.1	3.8	9.9

(3) 評価点による評価

評価点の計算方法について

各施策の満足度・重要度に関して、評価点での分析を行います。

分野別の各項目に関して、満足度及び重要度の回答者数に点数を掛け、その平均値（加重平均）を使用して計算を行います。

●満足度の評価点（加重平均）の算出方法

$$\text{評価点} = \left(\begin{array}{ll} \text{「満足している」の回答者数} & \times 10 \text{点} \\ + \\ \text{「やや満足」の回答者数} & \times 5 \text{点} \\ + \\ \text{「どちらともいえない」の回答者数} & \times 0 \text{点} \\ + \\ \text{「やや不満」の回答者数} & \times -5 \text{点} \\ + \\ \text{「不満で」の回答者数} & \times -10 \text{点} \end{array} \right) \div \text{無回答以外の回答者数}$$

●重要度の評価点（加重平均）の算出方法

$$\text{評価点} = \left(\begin{array}{ll} \text{「重視している」の回答者数} & \times 10 \text{点} \\ + \\ \text{「やや重視である」の回答者数} & \times 5 \text{点} \\ + \\ \text{「どちらともいえない」の回答者数} & \times 0 \text{点} \\ + \\ \text{「あまり重視でない」の回答者数} & \times -5 \text{点} \\ + \\ \text{「重視ではない」の回答者数} & \times -10 \text{点} \end{array} \right) \div \text{無回答以外の回答者数}$$

満足度の評価点

施策項目	全体	居住地区別							
		平岸地区	茂尻・百戸・ エルム地区	住友地区	赤平市街地区	豊里地区	文京・豊丘・若木・奈陽・ 東豊里・西豊里地区	住吉・共和・ 幌岡地区	
健康づくり	1.02	1.19	0.60	0.50	1.69	0.99	0.86	1.40	
地域医療	1.49	2.39	1.90	1.13	0.54	1.62	1.79	1.46	
地域福祉	0.27	0.79	0.65	0.40	1.21	0.59	0.27	0.95	
出産・子育て支援	0.29	0.45	0.45	0.51	1.11	0.33	0.46	1.39	
高齢者支援	0.42	1.71	0.69	0.70	1.09	0.26	0.57	1.19	
障がい者支援	0.48	1.25	0.33	0.98	1.54	1.20	0.04	0.83	
居住環境	1.29	0.90	2.03	0.00	0.90	1.38	1.64	2.14	
移住・定住支援	0.37	0.38	1.47	0.60	0.00	0.88	0.23	0.95	
公園・緑地の管理	0.54	0.92	0.98	0.83	0.08	0.89	0.63	1.14	
環境衛生	1.71	2.35	0.63	1.63	1.99	1.62	1.74	2.80	
上水道	0.30	0.34	0.66	0.64	1.23	0.29	0.14	0.75	
下水道	0.41	0.23	0.17	0.33	1.13	0.80	0.29	1.36	
道路の整備	0.44	0.41	1.45	1.37	0.30	0.42	0.43	0.20	
公共交通	1.49	1.04	2.35	0.92	0.29	2.23	1.39	3.33	
道路除雪	0.87	0.59	0.27	0.28	2.27	1.21	0.69	0.96	
防災	0.48	0.88	0.98	0.33	0.95	0.35	0.59	1.67	
消防・救急	2.29	1.63	1.74	2.92	2.15	2.38	2.01	3.65	
防犯・交通安全	1.49	1.28	0.85	1.70	2.02	1.92	1.07	2.12	
情報通信環境	0.38	0.51	0.85	0.56	0.08	0.33	0.41	1.25	
工業振興	0.89	0.75	2.13	1.44	0.25	0.71	0.59	1.19	
商業振興	2.80	2.98	3.44	2.56	2.61	2.57	2.62	3.33	
農林業振興	0.83	1.18	1.08	0.88	1.14	0.49	0.73	0.95	
観光振興	1.27	0.57	2.12	0.91	1.59	0.77	1.40	1.82	
学校教育	0.30	0.43	0.34	0.60	0.26	0.55	0.50	1.59	
生涯教育	0.28	0.00	0.46	0.60	0.55	0.17	0.56	0.71	
スポーツ・レクリエーション	0.84	0.41	1.64	1.11	0.00	0.59	1.35	1.67	
芸術文化	0.68	0.54	1.20	0.38	0.36	0.71	1.00	1.67	
歴史・文化・産業遺産の保存継承	0.10	1.28	0.43	0.48	0.48	0.00	0.31	0.68	
地域づくり	0.14	0.83	0.55	0.31	0.55	0.05	0.00	0.83	
市民参画	0.01	0.83	0.31	0.57	0.41	0.22	0.24	0.23	
広報・広聴	1.02	1.63	0.39	1.02	1.29	1.11	0.90	0.40	
行財政運営	0.13	0.29	1.00	0.22	0.08	0.10	0.12	0.00	

※数値が大きいほど満足度が高い。

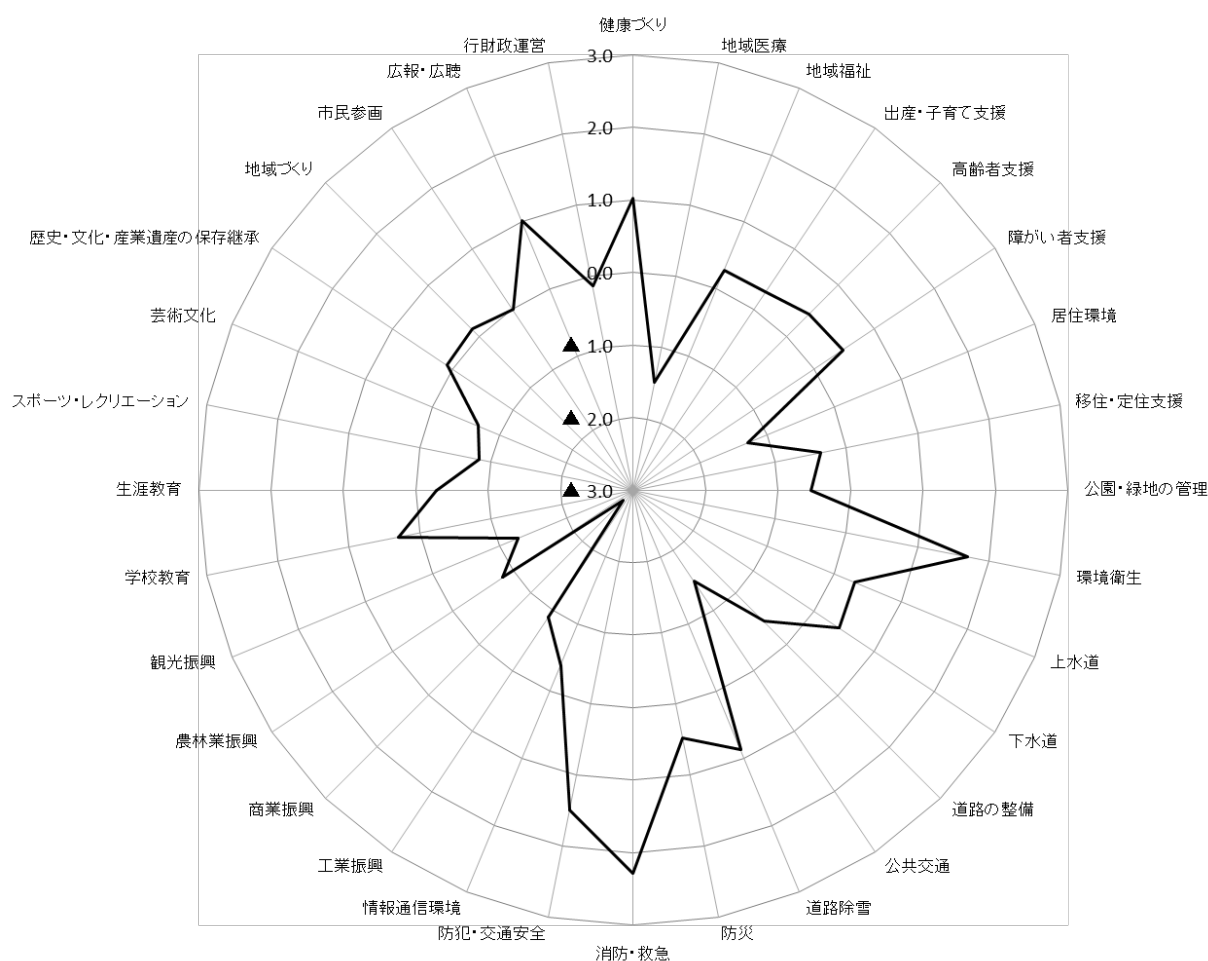
また、プラス値は満足の方が、マイナス値は不満の方がそれぞれ多い。

満足度評価／全体

順位	満足度評価	上位5項目	評価点
1	基本目標2	①消防・救急	2.29
2	基本目標2	④環境衛生	1.71
3	基本目標2	⑫防犯・交通安全	1.49
4	基本目標1	①健康づくり	1.02
5	基本目標5	③広報・広聴	1.02

順位	満足度評価	下位5項目	評価点
1	基本目標3	②商業振興	-2.80
2	基本目標2	⑧公共交通	-1.49
3	基本目標1	②地域医療	-1.49
4	基本目標2	①居住環境	-1.29
5	基本目標3	④観光振興	-1.27

- 評価点による満足度においては、「消防・救急」が 2.29 で最も高く、次いで、「環境衛生」(1.71)、「防犯・交通安全」(1.49)となっています。
- 一方、「商業振興」は-2.80 と最も低く、次いで「公共交通」と「地域医療」が並んで-1.49 となっています。



重要度の評価点

施 策 項 目	全体	居住地区別						
		平岸地区	茂原・白戸・ 工ルハ地区	住友地区	赤平市街地区	豊里地区	又京・豊丘・吉木・赤堀・ 東豊里・西豊里地区	住吉・共和・ 絹岡地区
健康づくり	4.97	4.35	4.85	5.45	5.45	5.19	4.53	6.30
地域医療	6.36	6.28	5.51	6.44	6.49	6.50	6.51	7.61
地域福祉	5.06	4.64	5.00	4.89	5.48	5.10	4.90	6.25
出産・子育て支援	5.87	5.13	6.15	5.66	6.39	5.76	5.75	6.52
高齢者支援	5.27	5.35	5.61	5.76	5.39	5.19	4.82	6.25
障がい者支援	4.83	5.37	5.40	5.12	4.51	4.39	4.78	5.22
居住環境	4.00	4.20	4.06	4.10	3.93	3.80	3.78	4.76
移住・定住支援	3.46	3.21	3.45	3.14	3.47	3.35	3.68	3.91
公園・緑地の管理	2.49	2.77	2.08	2.00	2.50	2.50	2.91	2.17
環境衛生	4.02	4.17	4.03	4.69	3.31	4.14	4.04	3.86
上水道	4.83	5.00	4.68	5.21	4.38	4.76	4.93	5.45
下水道	4.55	5.44	4.37	5.11	4.10	4.50	4.41	5.00
道路の整備	4.15	4.57	4.38	4.38	3.49	4.23	3.95	4.38
公共交通	4.67	5.64	5.40	4.39	3.85	5.00	4.35	5.00
道路除雪	5.75	6.22	5.81	5.98	4.77	6.03	5.66	6.67
防災	5.13	5.47	5.16	4.56	5.08	4.71	5.11	7.17
消防・救急	5.78	6.41	6.23	6.25	5.08	5.54	5.31	7.00
防犯・交通安全	4.79	4.69	5.30	4.48	4.45	4.71	4.50	6.00
情報通信環境	3.57	4.23	3.42	3.72	3.55	3.37	3.46	4.35
工業振興	4.75	4.17	4.84	5.00	4.84	4.60	4.72	5.53
商業振興	4.84	5.24	4.92	5.57	4.23	4.46	4.66	6.94
農林業振興	4.00	4.27	2.71	4.02	4.07	3.66	4.22	7.50
観光振興	3.74	3.64	2.70	4.55	3.65	3.42	4.21	4.50
学校教育	5.85	5.11	5.87	5.75	5.67	5.82	6.18	5.95
生涯教育	3.68	3.78	3.03	4.00	3.53	3.67	3.80	4.00
スポーツ・レクリエーション	3.14	3.81	3.20	3.29	3.00	2.99	3.32	2.14
芸術文化	2.03	2.50	2.67	2.44	1.29	1.89	1.91	1.43
歴史・文化・産業遺産の保存継承	2.16	2.50	1.33	3.25	2.08	2.22	2.15	1.43
地域づくり	2.68	2.17	2.34	3.67	3.63	2.08	2.53	4.05
市民参画	1.96	1.90	1.57	2.97	2.21	1.33	1.97	3.57
広報・広聴	2.77	3.18	2.54	3.88	3.33	1.76	2.84	3.64
行財政運営	3.98	3.72	3.79	4.43	4.11	3.38	4.24	5.00

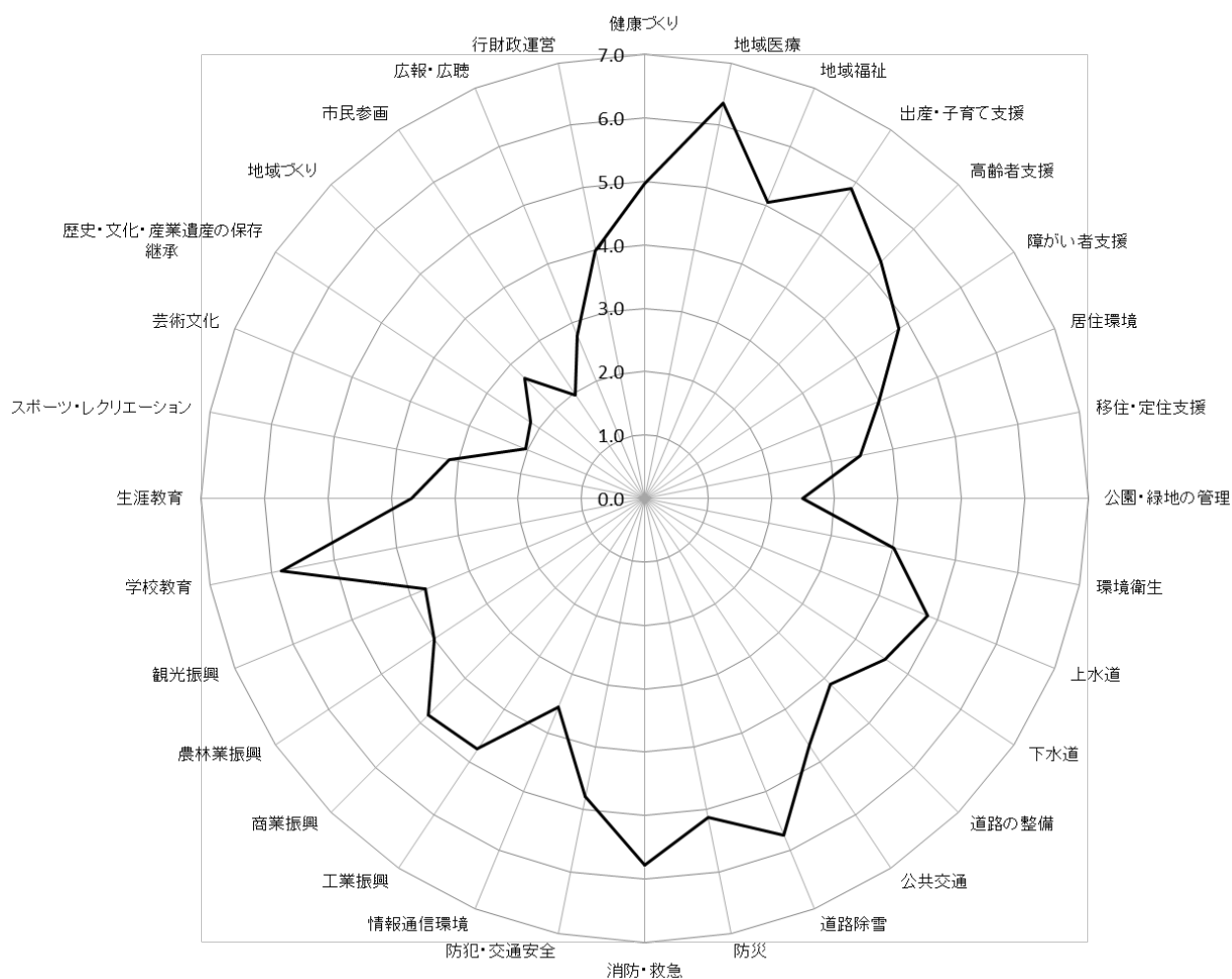
※数値が大きいほど重要度が高い。

重要度評価／全体

順位	重要度評価	上位5項目	評価点
1	基本目標1	②地域医療	6.36
2	基本目標1	④出産・子育て支援	5.87
3	基本目標4	①学校教育	5.85
4	基本目標2	⑪消防・救急	5.78
5	基本目標2	⑨道路除雪	5.75

順位	重要度評価	下位5項目	評価点
1	基本目標5	②市民参画	1.96
2	基本目標4	④芸術文化	2.03
3	基本目標4	⑤歴史・文化・産業遺産の保存継承	2.16
4	基本目標2	③公園・緑地の管理	2.49
5	基本目標5	①地域づくり	2.68

- 評価点による重要度においては、「地域医療」が6.36と最も高く、次いで「出産・子育て支援」(5.87)、「学校教育」(5.85)となっています。
- 一方、「市民参画」は1.96で最も低く、次いで「芸術文化」(2.03)、「歴史・文化・産業遺産の保存継承」(2.16)となっています。



(4) 今後力を入れるべき項目

全体の満足度偏差値と重要度偏差値

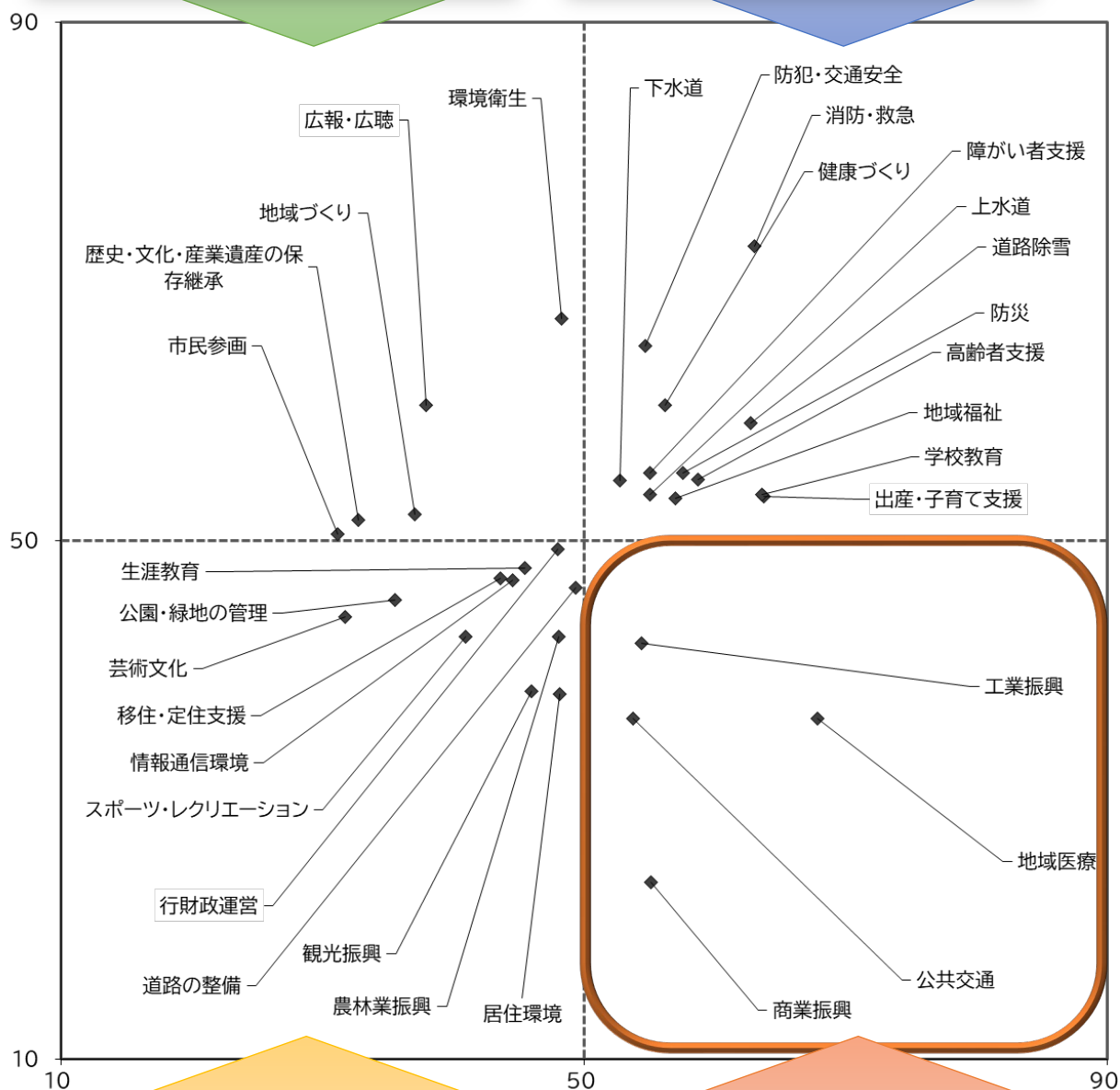
施策項目	重要度 偏差値	満足度 偏差値	改善度	改善の 優先度
健康づくり	56.23	60.49	-0.28	23
地域医療	67.86	36.27	4.22	2
地域福祉	56.98	53.26	0.17	12
出産・子育て支援	63.78	53.42	0.80	5
高齢者支援	58.74	54.70	0.22	11
障がい者支援	55.07	55.26	-0.01	16
居住環境	48.12	38.18	0.87	4
移住・定住支援	43.61	47.12	-0.17	22
公園・緑地の管理	35.53	45.42	-1.17	25
環境衛生	48.26	67.13	-1.78	28
上水道	55.06	53.58	0.05	15
下水道	52.76	54.62	-0.06	18
道路の整備	49.40	46.37	0.07	14
公共交通	53.76	36.26	1.74	3
道路除雪	62.74	59.07	0.30	9
防災	57.58	55.24	0.12	13
消防・救急	63.03	72.72	-1.19	26
防犯・交通安全	54.71	65.05	-0.86	24
情報通信環境	44.53	46.97	-0.11	20
工業振興	54.41	42.08	0.73	7
商業振興	55.11	23.65	6.49	1
農林業振興	48.10	42.63	0.29	10
観光振興	46.00	38.37	0.71	8
学校教育	63.58	53.57	0.76	6
生涯教育	45.48	47.93	-0.08	19
スポーツ・レクリエーション	40.97	42.57	-0.14	21
芸術文化	31.71	44.11	-1.98	29
歴史・文化・産業遺産の保存継承	32.76	51.59	-2.42	31
地域づくり	37.08	52.01	-1.38	27
市民参画	31.15	50.53	-2.80	32
広報・広聴	37.90	60.44	-2.29	30
行財政運営	47.99	49.38	-0.02	17

満足度が高く、重要度が低い

重要度は低いが、現状の水準を維持すべき施策

満足度も重要度も高い

現状の水準を引き続き、重点的に維持すべき施策



満足度も重要度も低い

重要度は低いが、満足度の向上を意識して改善すべき施策

満足度が低く、重要度が高い

最優先で改善すべき施策

4. 外出について

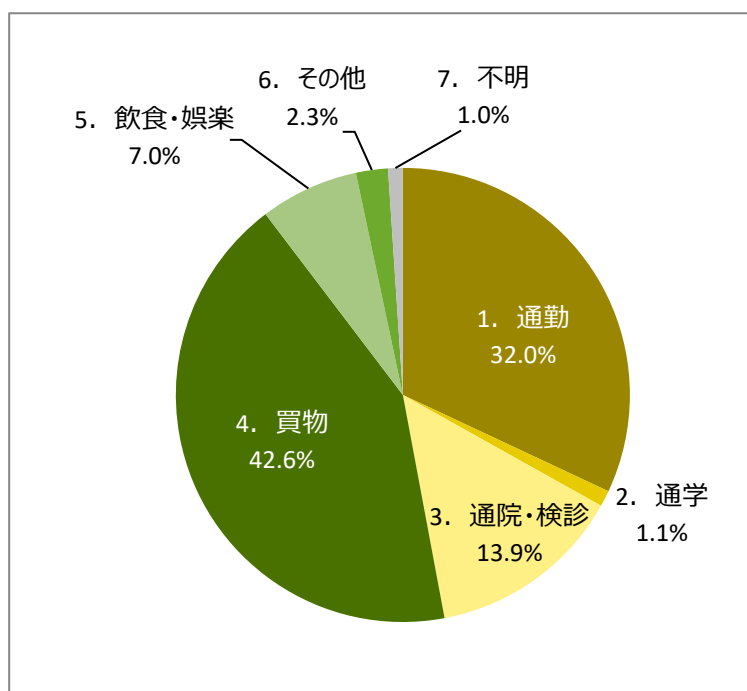
(1) 普段の外出目的、頻度、時間、目的地、移動手段について

① 主な外出目的

普段の外出の主な目的は「4. 買物」が4割強と最も多く、続いて「1. 通勤」が3割、「3. 通院・検診」が1割となっています。

図表 普段の外出の主な目的

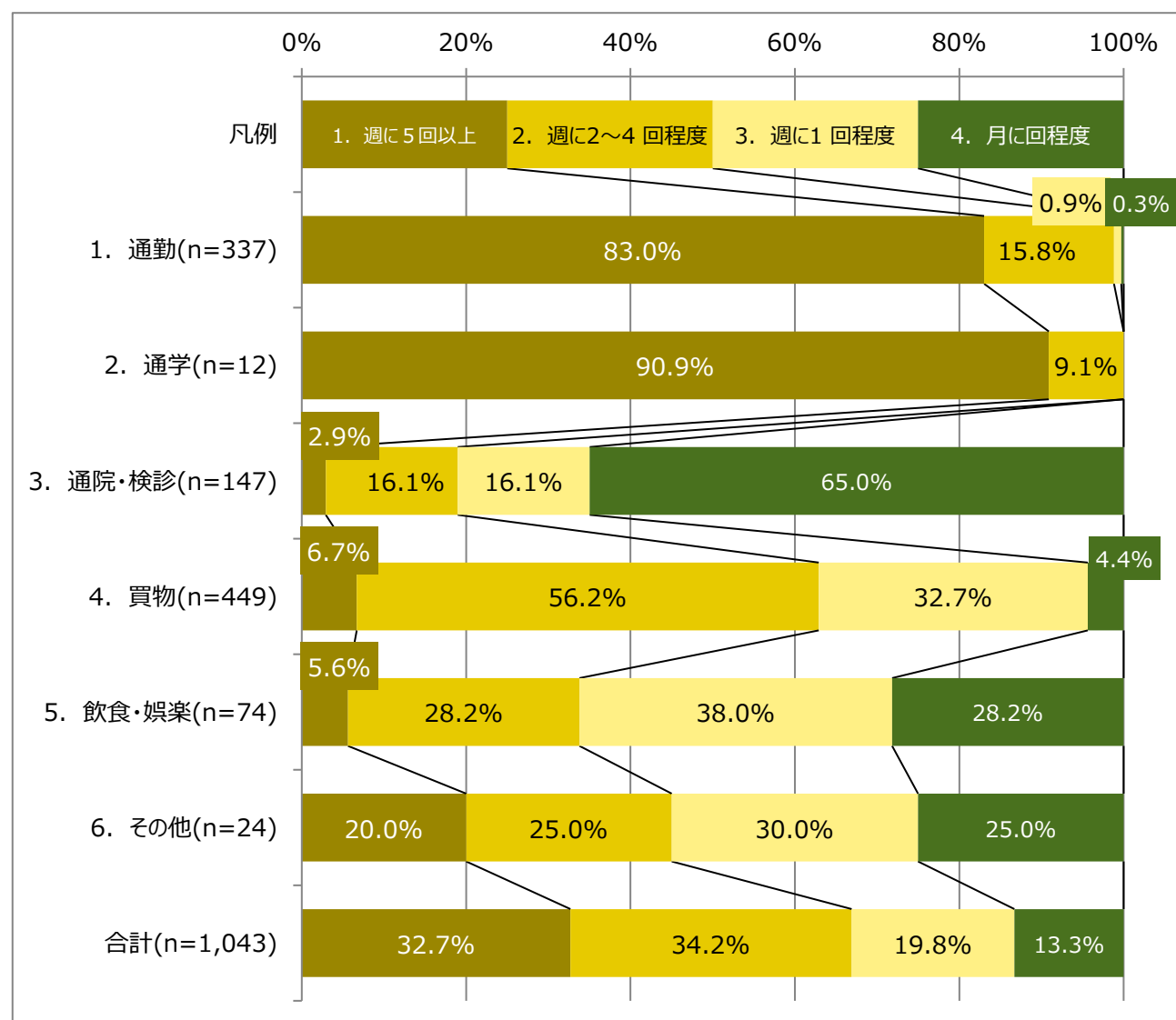
項目	回答
1. 通勤	337
2. 通学	12
3. 通院・検診	147
4. 買物	449
5. 飲食・娯楽	74
6. その他	24
7. 不明	11
合計	1,054



② 外出頻度

外出頻度は「1. 通勤」と「2. 通学」が「1. 週に5回以上」が最も多く、それぞれ8割強と9割を占めます。また、「3. 通院・検診」は「4. 月に数回程度」が7割弱、「4. 買物」は「2. 週に2～4回」が6割弱、「5. 飲食・娯楽」は「3. 週に1回程度」が4割弱となっています。

図 外出頻度（外出目的別）



③ 外出・帰宅の時間

外出のピーク時間帯は8時台が169件と最も多く、続いて10時台が155件、9時台が116件の順となっています。

帰宅のピーク時間帯は18時台が156件と最も多く、続いて17時台が140件、19時台が94件の順となっています。

これを外出目的別に見ると「1. 通勤」が朝、夕にピークがあることに対し、「3. 通院・検診」は8時台～12時台、「4. 買物」は10時台～18時台が一定程度の外出と帰宅が見受けられます。

図 外出数・帰宅数（時間帯別）

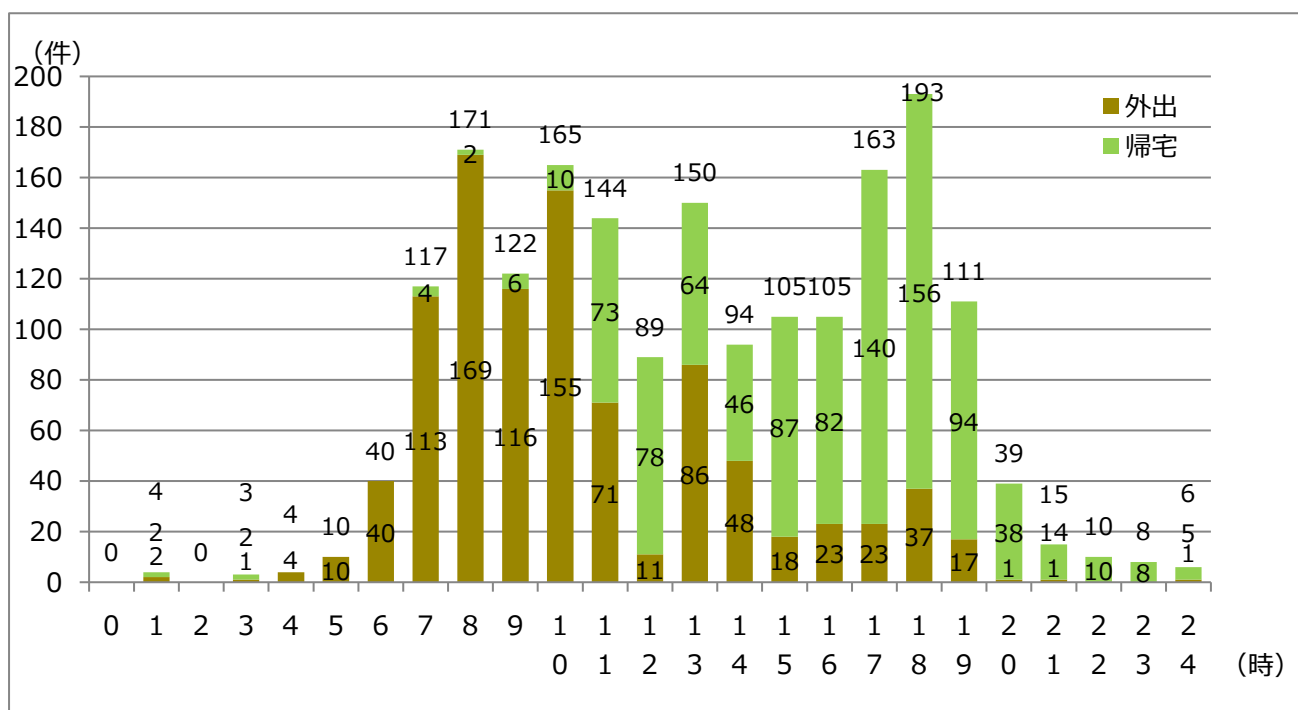
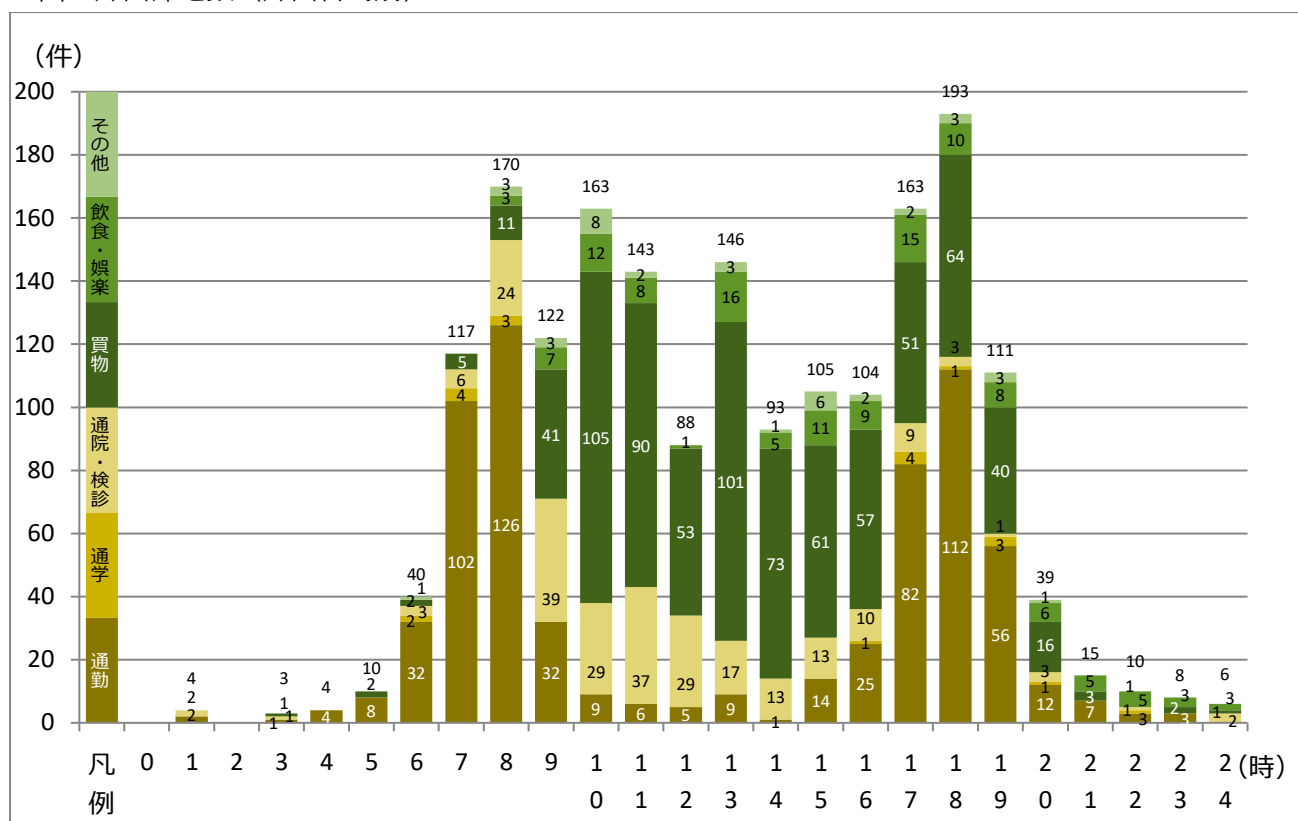


図 外出帰宅数（外出目的別）



④ 外出先

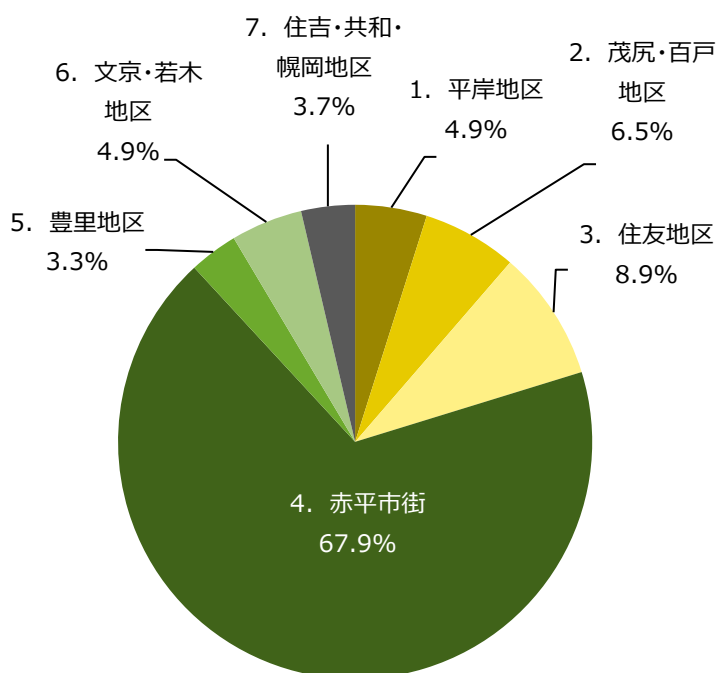
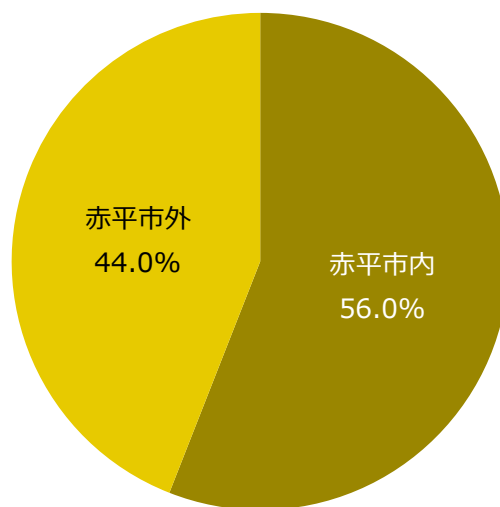
外出の行先は6割弱が赤平市内、4割強が赤平市外となっています。

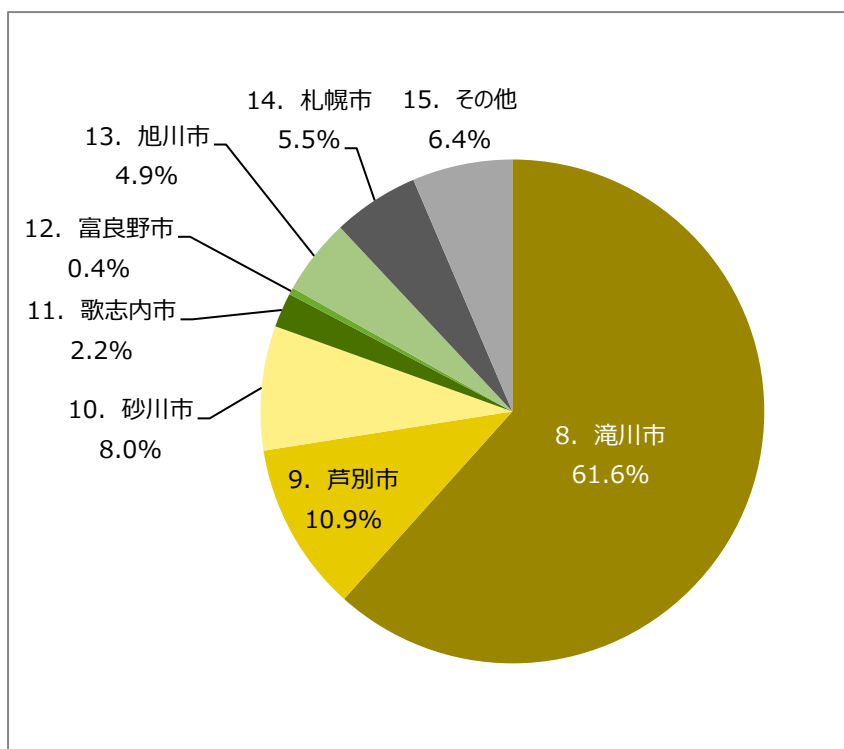
それぞれの内訳を見ると、赤平市内は「4. 赤平市街」が7割弱と最も多く、続いて「3. 住友地区」と「2. 茂尻・百戸地区」が1割弱となっています。

赤平市外は「8. 滝川市」が6割強と最も多く、続いて「9. 赤平市」と「10. 砂川市」1割前後となっています。

図表 外出する際の行き先

項 目	回答
1. 平岸地区	28
2. 茂尻・百戸地区	37
3. 住友地区	51
4. 赤平市街	389
5. 豊里地区	19
6. 文京・若木地区	28
7. 住吉・共和・幌岡地区	21
8. 滝川市	278
9. 芦別市	49
10. 砂川市	36
11. 歌志内市	10
12. 富良野市	2
13. 旭川市	22
14. 札幌市	25
15. その他	29
16. 不明	30
合計	1,054





その他内訳

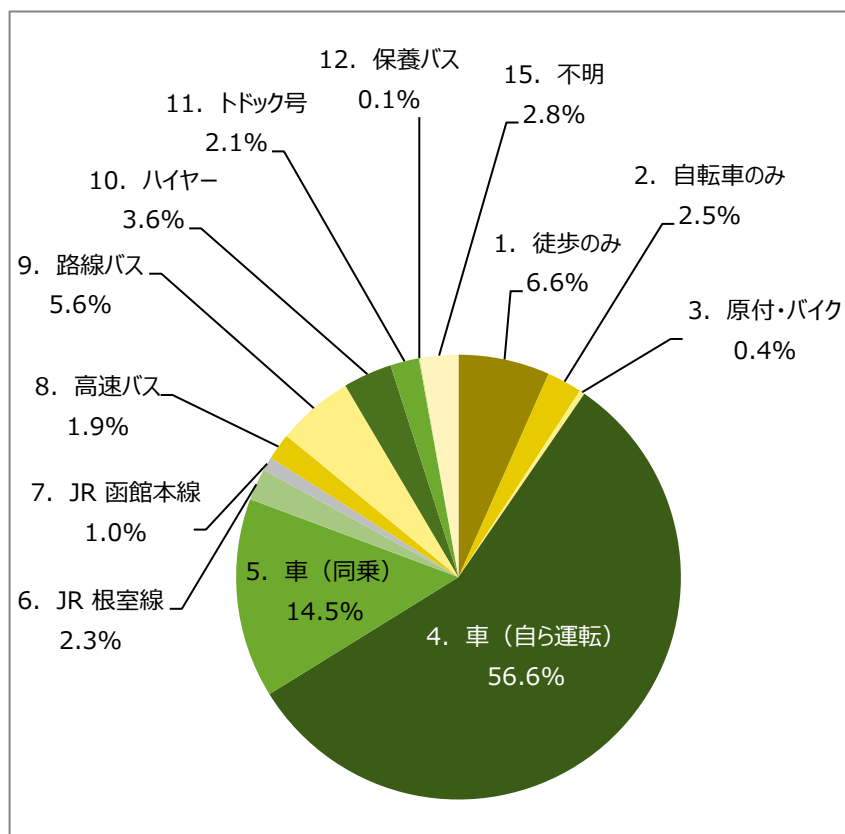
- ・遊びに行く目的に応じ (1)
- ・上砂川町 (1)
- ・空知管内 (1)
- ・他県 (1)
- ・奈井江町 (1)
- ・沼田町 (1)
- ・三笠市 (1)
- ・妹背牛町 (1)
- ・流動的 (1)
- ・岩見沢市 (2)
- ・現場のある場所 (2)
- ・新十津川町 (3)
- ・道内 (3)
- ・深川市 (3)

⑤ 移動手段

交通手段は「4. 車（自ら運転）」が6割弱と最も多く、続いて「5. 車（同乗）」が1割強、「1. 徒歩のみ」と「9. 路線バス」が1割弱となっています。

図表 外出する際の移動手段

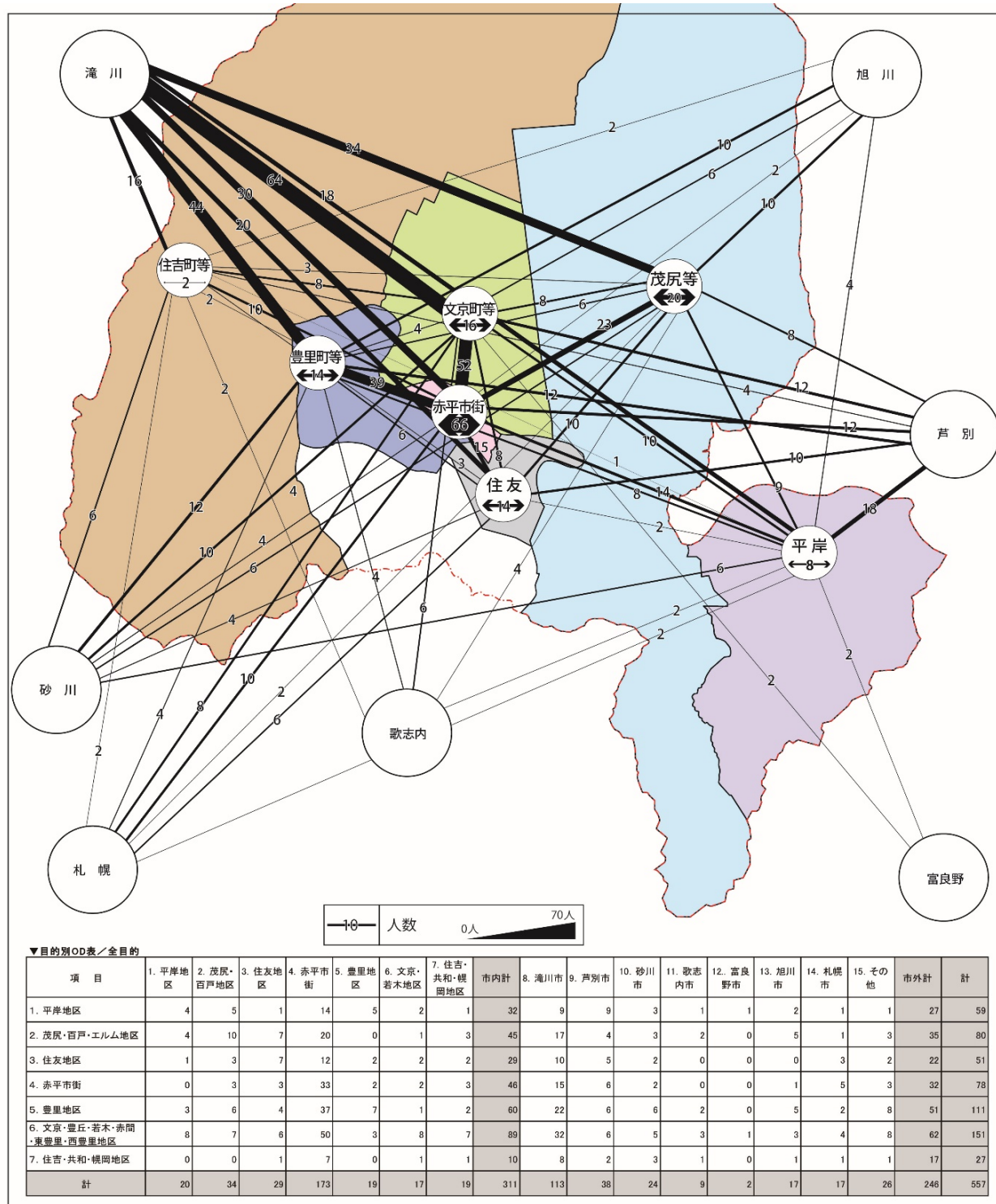
項 目	回答
1. 徒歩のみ	86
2. 自転車のみ	33
3. 原付・バイク	5
4. 車（自ら運転）	733
5. 車（同乗）	188
6. JR 根室線	30
7. JR 函館本線	13
8. 高速バス	25
9. 路線バス	72
10. ハイヤー	46
11. トドック号	27
12. 保養バス	1
13. 浴場バス	0
14. その他	0
15. 不明	36
合計	1,295



【参考】1日当たりの交通分布図

外出頻度について1日当たりの交通量に換算して、交通分布（地域移動）として集計・分析すると次のとおりとなります。

移動が多い地域間移動について、市内では「4. 赤平市街」を中心に「6. 文京・豊丘・若木・赤間・東豊里・西豊里地区（文京町等）」、「5. 豊里地区」の間、市外では「8. 滝川市」と「5. 豊里地区」、「6. 文京町等」及び「2. 茂尻・百戸・エルム地区」となっています。



5. 既存の公共交通・各種送迎サービス

(1) JR 根室線について

① 利用頻度

JR 根室線の利用回数は、「6. 利用していない」が7割弱と最も多く、続いて「5. 年に数回程度」が2割となっています。

これを年齢階層別に見た場合、全体と大差がない状況です。

図表 JR 根室線の利用回数

項 目	回答
1. 週に5回以上	9
2. 週に2～4回程度	1
3. 週に1回程度	2
4. 月に数回程度	13
5. 年に数回程度	123
6. 利用していない	409
7. 不明	50
合計	607

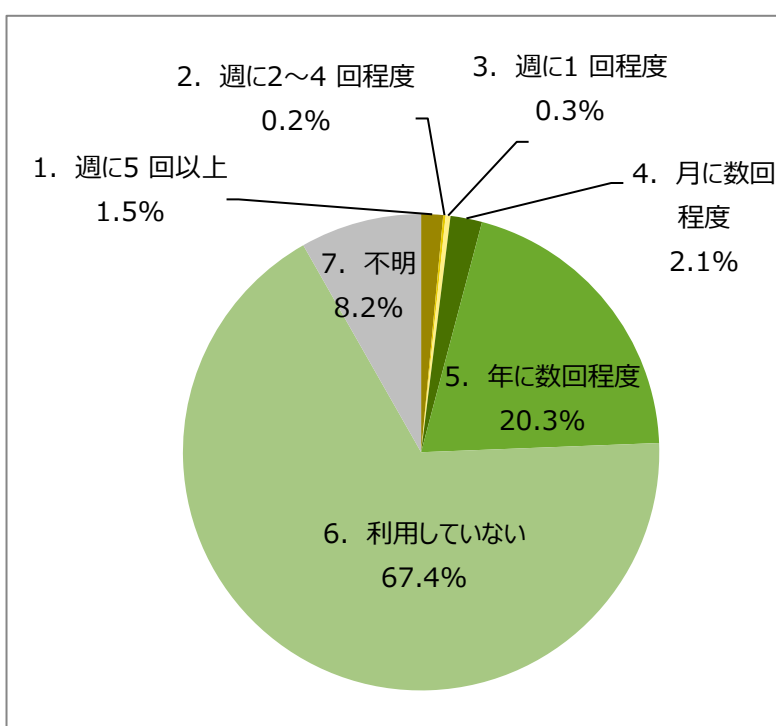
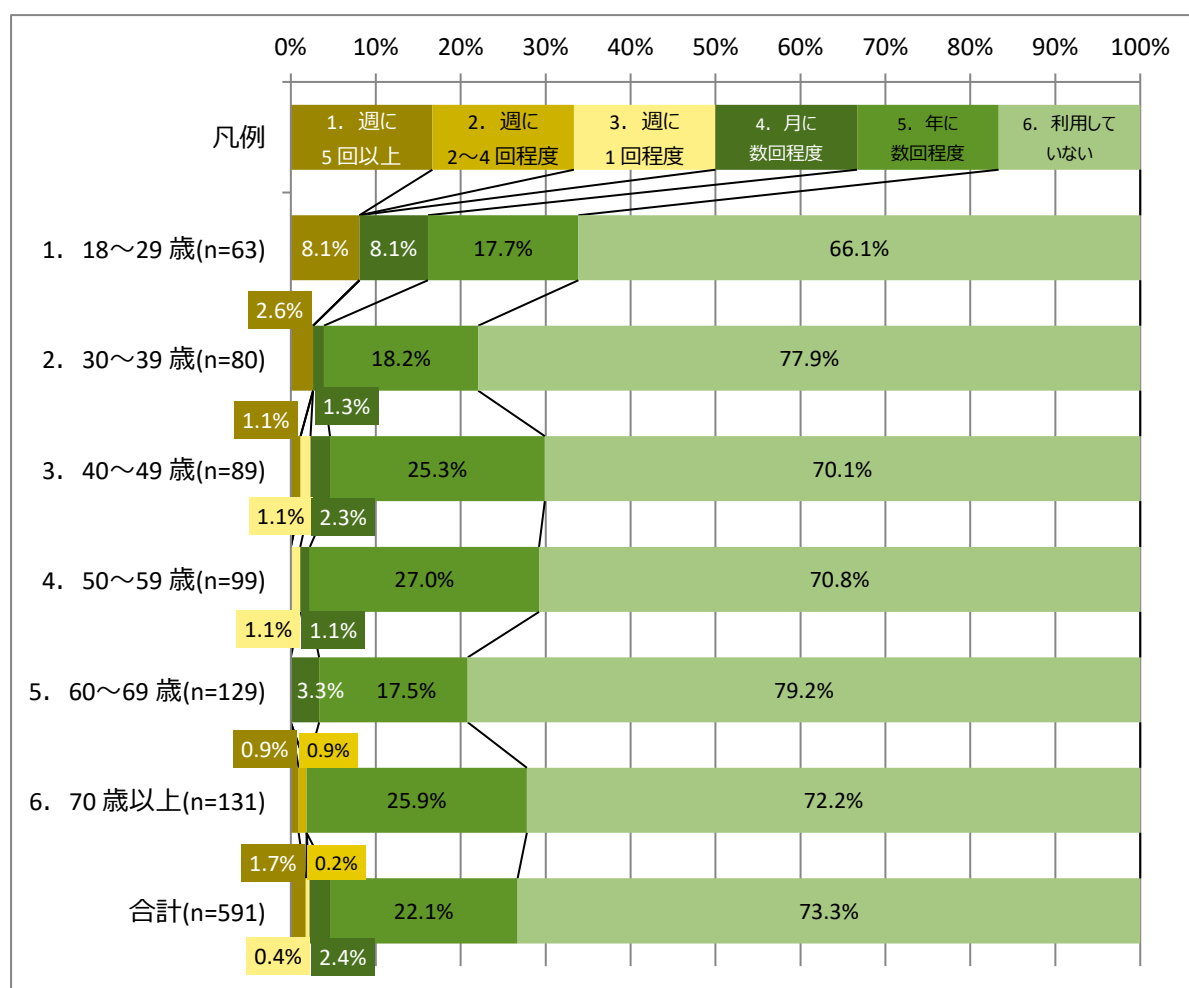


図 JR 根室線の利用状況（年齢別）

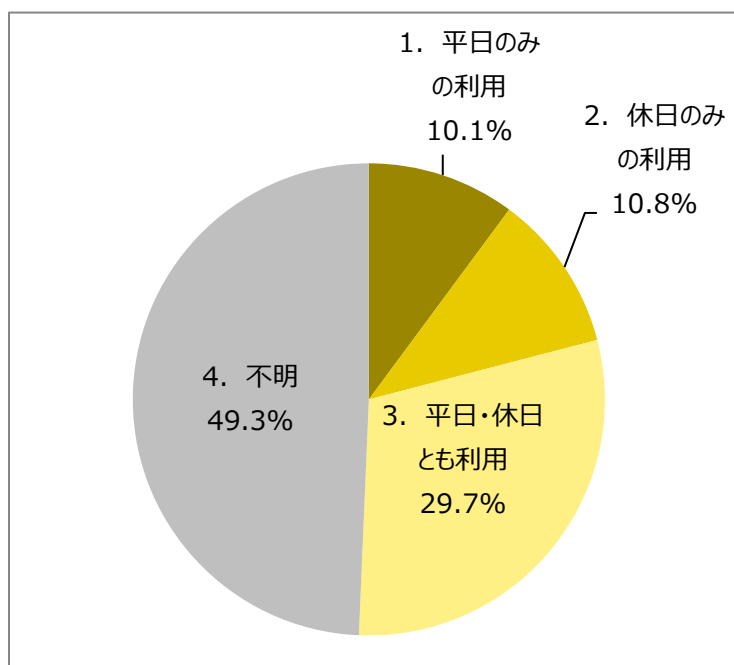


② 平日・休日の利用

JR 根室線利用の平日・休日区分は、「3. 平日・休日とも利用」が3割と最も多く、続いて「1. 平日のみ利用」と「2. 休日のみ利用」はともに1割となっています。

図表 JR 根室線利用の平日・休日区分

項 目	回答
1. 平日のみの利用	15
2. 休日のみの利用	16
3. 平日・休日とも利用	44
4. 不明	73
合計	148

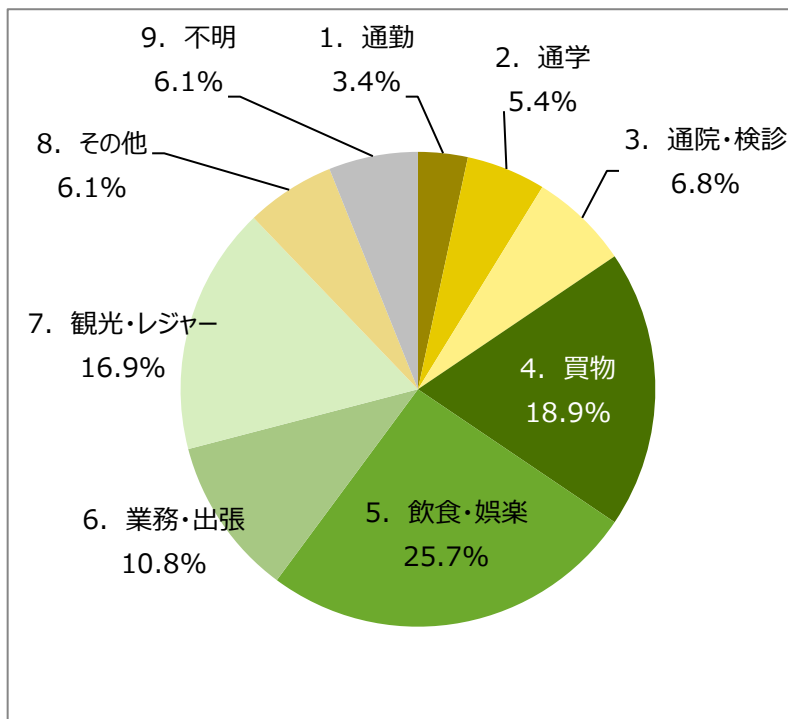


③ 利用目的

JR 根室線の主な利用目的は、「5. 飲食・娯楽」が3割弱と最も多く、続いて「4. 買物」と「7. 観光・レジャー」がともに2割弱となっています。

図表 JR根室線の主な利用目的

項 目	回答
1. 通勤	5
2. 通学	8
3. 通院・検診	10
4. 買物	28
5. 飲食・娯楽	38
6. 業務・出張	16
7. 観光・レジャー	25
8. その他	9
9. 不明	9
合計	148



その他内訳

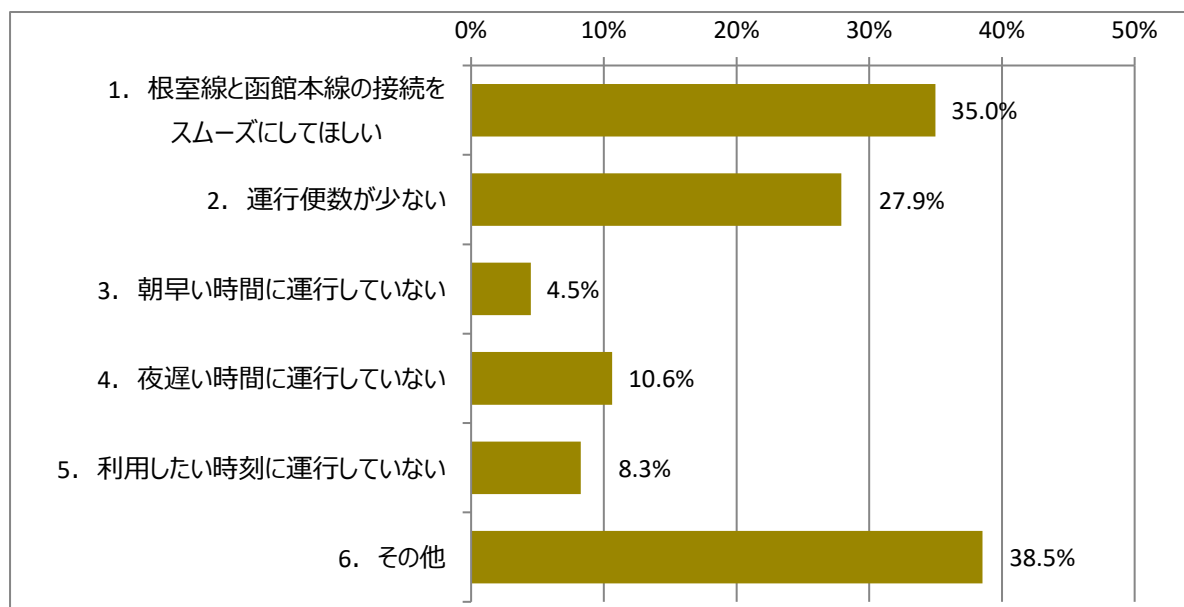
- ・帰省
- ・子ども達を乗せる為
- ・子どものところに行く
- ・身内との付き合い
- ・親族への所要

④ 改善してほしいこと

JR 根室線の利用に際し、改善してほしいことは「1. 根室線と函館本線の接続をスムーズにしてほしい」が4割弱と最も多く、続いて「2. 運行便数が少ない」が3割弱となっています。

図表 JR根室線の改善してほしいこと

項 目	回答
1. 根室線と函館本線の接続をスムーズにしてほしい	148
2. 運行便数が少ない	118
3. 朝早い時間に運行していない	19
4. 夜遅い時間に運行していない	45
5. 利用したい時刻に運行していない	35
6. その他	163
合計	528



その他内訳

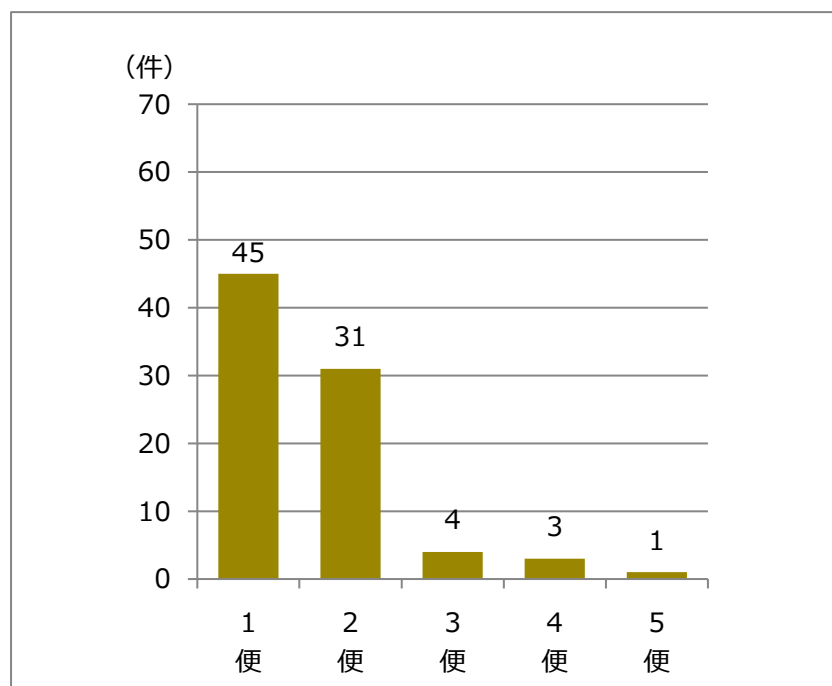
- ・JR北海道には改善不可能と考えます。
- ・あまり期待していない。学生・子どもたちの通学を大切にしてください。
- ・維持費が大変であればバスへの配置転換増便の方がウインウインになる。
- ・下り便、11時から13時の間に1便を希望。
- ・上記を希望しても実現不可能と考えるため。
- ・滝川乗るためあまり気にならない。
- ・利用するときは時間にあわせている。
- ・滝川乗るためあまり気にならない。
- ・利用するときは時間にあわせている。

- ・車があるので今は必要ないが、子どもが通学で使うときには1両編成でなんだか嫌かも。朝日と人がいっぱい乗っているのを見てきつそうだなと思った。
- ・現状維持でよい。
- ・子供が通学に毎日通うので、無くならないでほしい。
- ・たまにしか利用しないが通勤通学には必要性が高いと思う。
- ・駅に着くバスの時間と電車の時間を考えると行ったほうが早いと思ってしまう。乗り場がわかりにくい（ホーム）。
- ・同じプラットホームでの乗換え。特急料金が安い。合計でバス並みの料金なら。
- ・無人駅で物騒。
- ・跨線橋やホームに出るまでの階段が長くてつらい。（2）
- ・運賃が高い。（3）
- ・便数を増やしてほしい。（4）
- ・駅まで遠い。（7）
- ・利用していない。（80）

1) 希望する1時間当たりの便数

「2. 運行便数が少ない」を回答した方が希望する運行便数は、1時間当たり1便が45件と最も多くなっています。

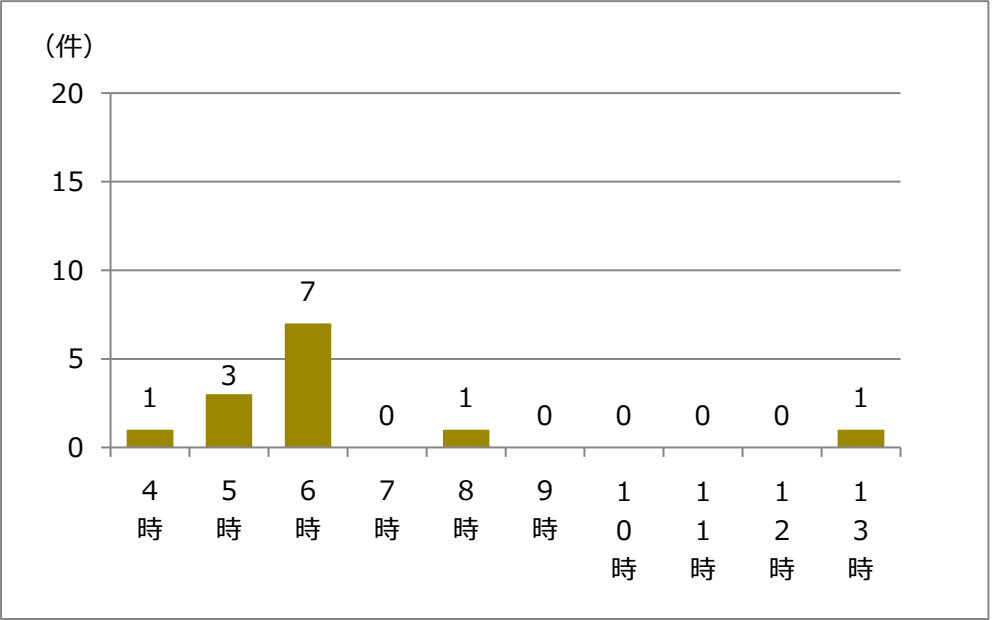
図 1時間当たりの希望運行便数



2) 希望する始発時間帯

「3. 朝早い時間に運行していない」を回答した方が希望する始発時間帯は、「6 時台」が7 件と最も多くなっています。

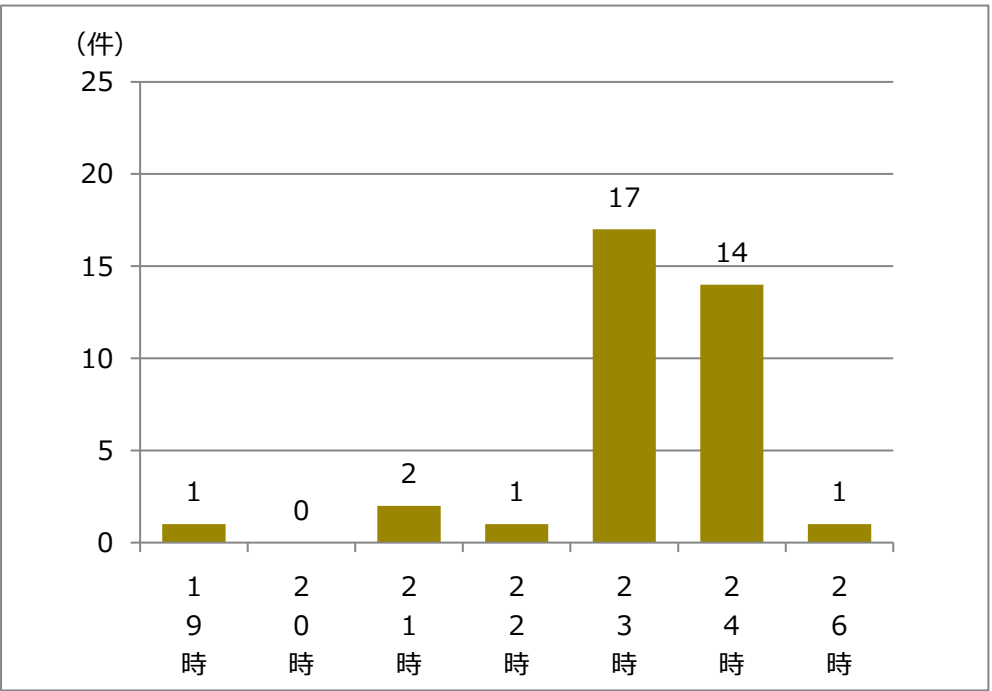
図 希望する始発時間帯



3) 希望する最終時間帯

「4. 夜遅い時間に運行していない」を回答した方が希望する最終時間帯は、「23 時台」が17 件と最も多く、続いて「24 時台」が14 件となっています。

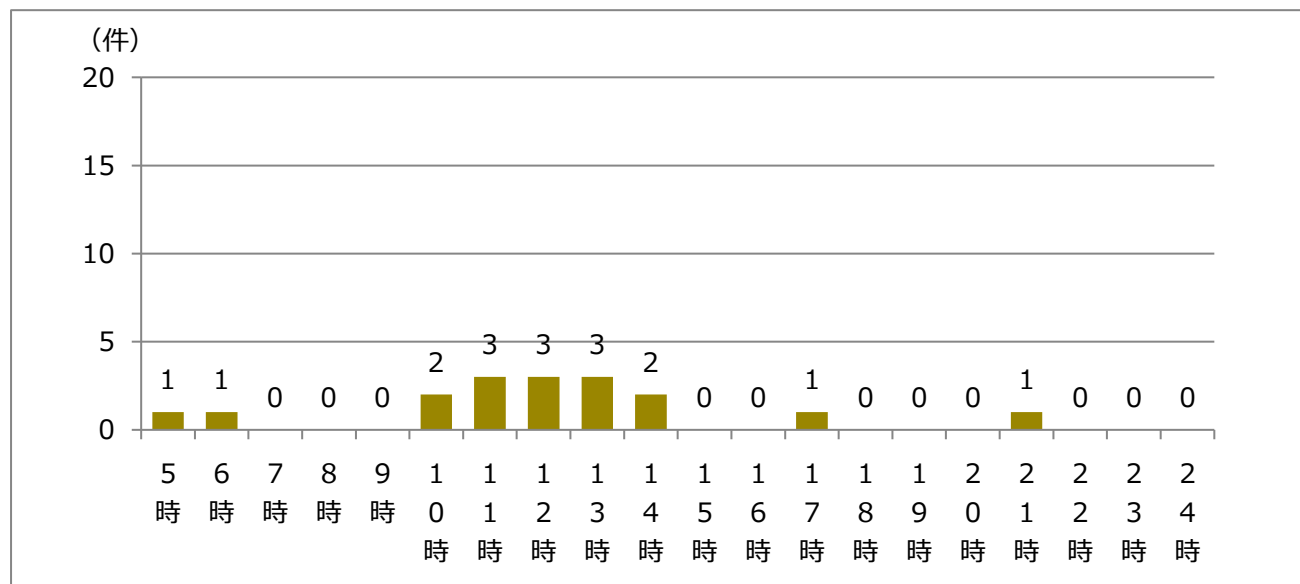
図 希望する最終時間帯



4) 希望する運行時間帯

「5. 利用したい時刻に運行していない」を回答した方が希望する運行時間帯は、数のとおりとなっています。

図 運行を希望する時間帯



⑤ 利用促進策

利用促進として、「1. いつも自家用車を利用している状況を改め、時々JR を利用する」、「2. 根室線と函館本線の接続がスムーズになれば、利用する」及び「3. 便数が増えれば、利用する」の3つの選択肢については、1割強から2割弱の回答となっています。

なお、これを年齢別に見た場合、各年齢階層で傾向が異なる箇所は特にみられない状況です。

図表 利用促進について

項 目	回答
1. いつも自家用車を利用している状況を改め、時々JR を利用する	79
2. 根室線と函館本線の接続がスムーズになれば、利用する	104
3. 便数が増えれば、利用する	100
4. 乗ることはない	165
5. わからない	150
6. その他	36
合計	634

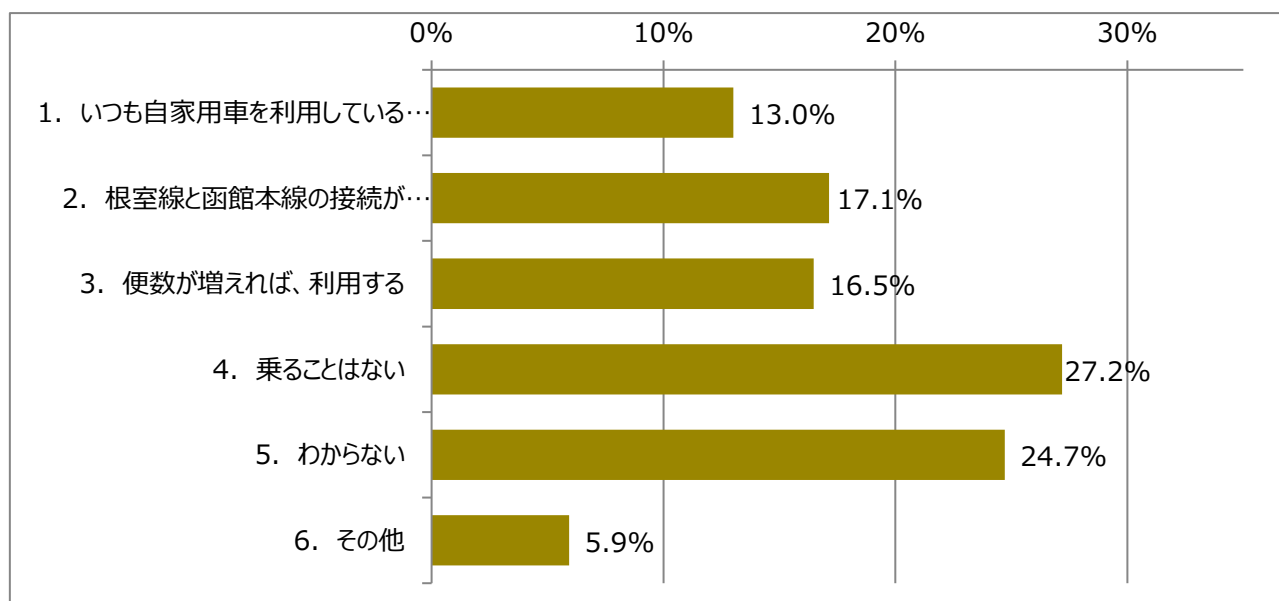
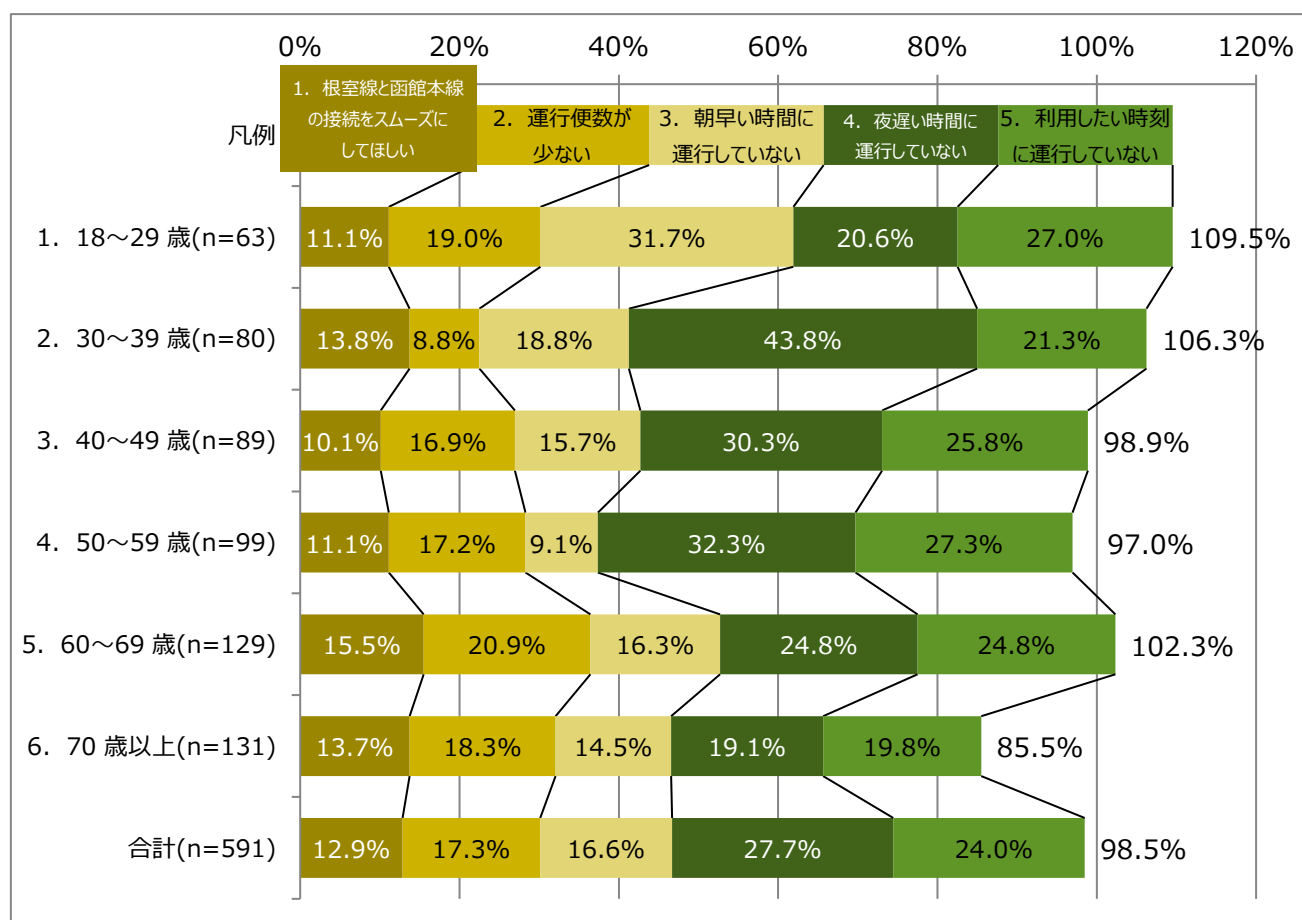


図 利用促進について（年齢別）



⑥ 支援について（1つに○印）

JR 根室線への行政の支援については、「1. 維持するためには、ある程度の財政負担はやむを得ない」が3割強と最も多く、続いて「4. わからない」が3割弱、「3. 廃止してもやむを得ない」が2割弱となっています。

なお、これを年齢別に見た場合、各年齢階層で傾向が異なる箇所は特にみられない状況です。

図表 支援について

項 目	回答
1. 維持するためには、ある程度の財政負担はやむを得ない	211
2. 財政支援はすべきではない	23
3. 廃止してもやむを得ない	94
4. わからない	175
5. その他	19
6. 不明	85
合計	607

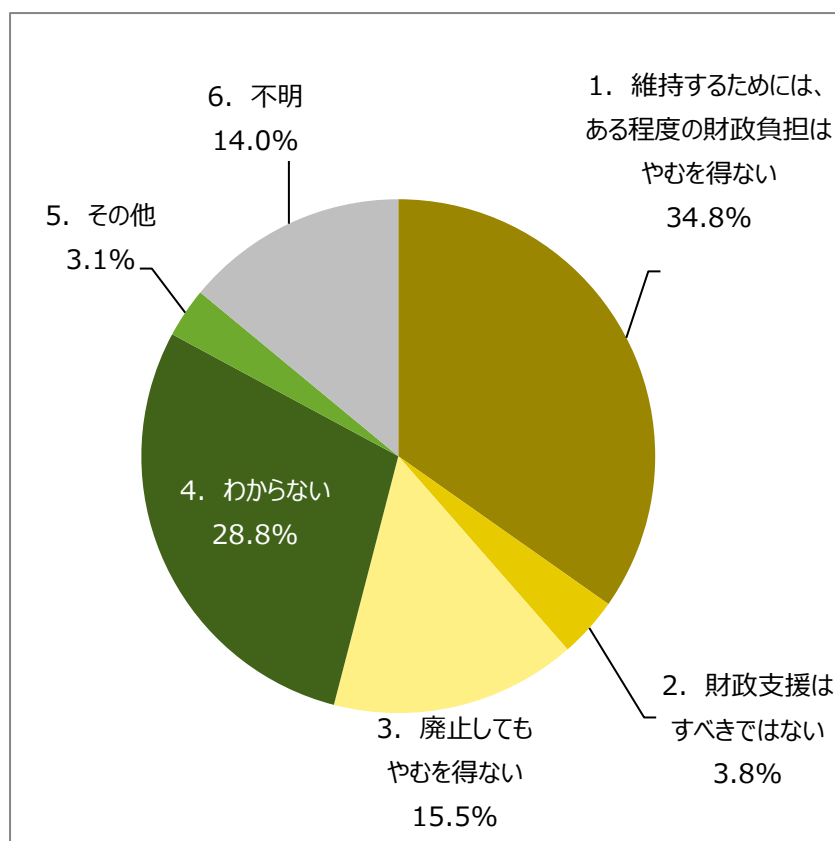
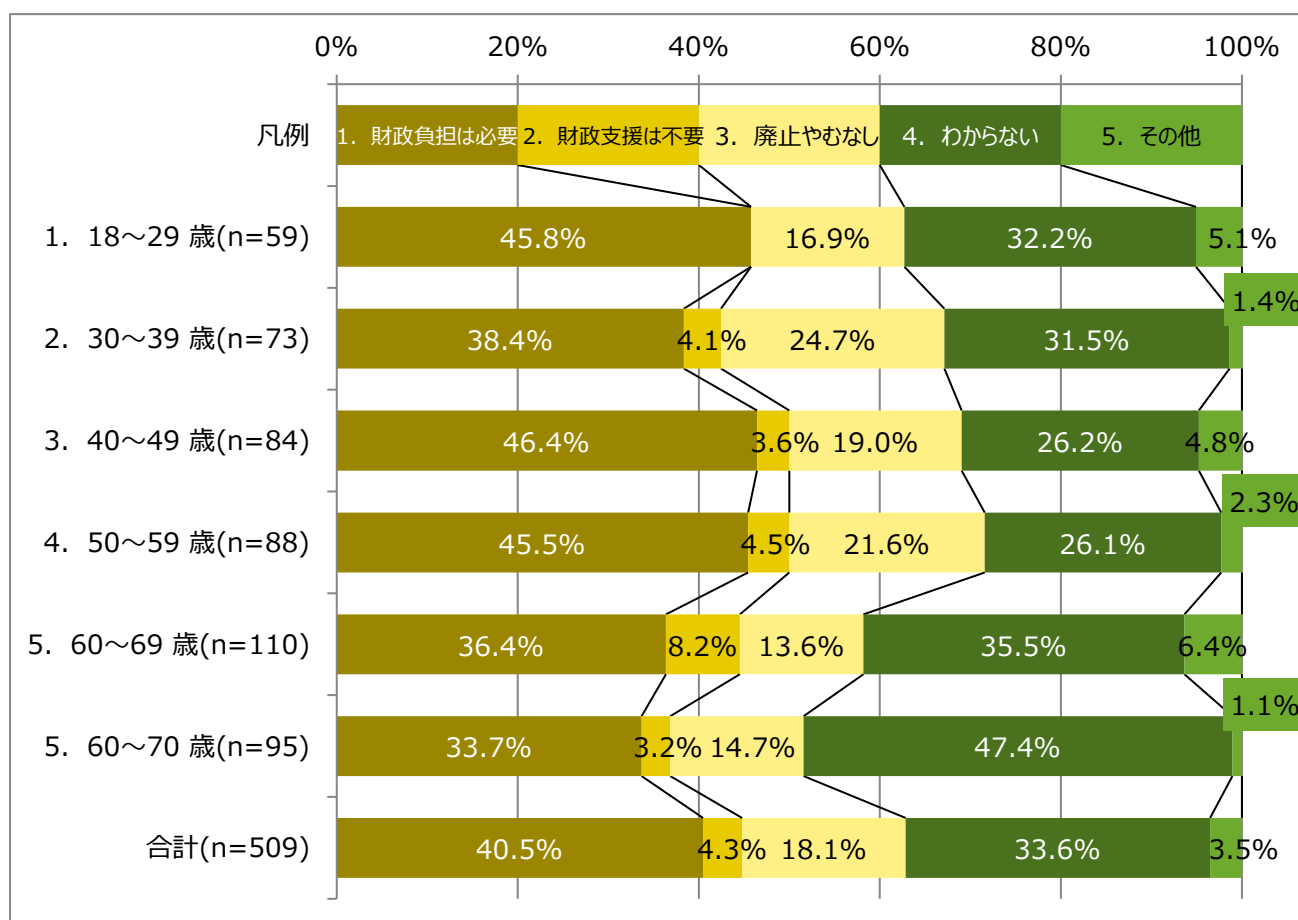


図 支援について（年齢別）



(2)中央バスについて

① 利用頻度

中央バスの利用回数は、「6. 利用していない」が4割強と最も多く、続いて「5. 年に数回程度」が3割強となっています。

「6. 利用していない」を年齢階層別に見た場合、「2. 30～39歳」は6割強に対し、「6. 70歳以上」が3割弱となっており、年齢が上昇するに伴って利用している方が多くなる傾向となっています。

図表 中央バスの利用回数

項 目	回答
1. 週に5回以上	14
2. 週に2～4回程度	18
3. 週に1回程度	13
4. 月に数回程度	59
5. 年に数回程度	197
6. 利用していない	264
7. 不明	42
合計	607

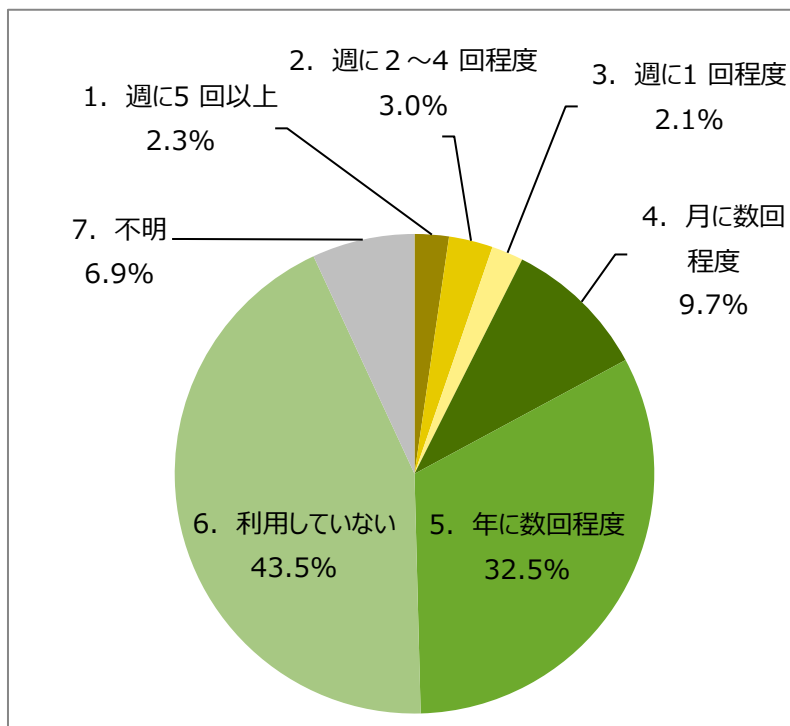
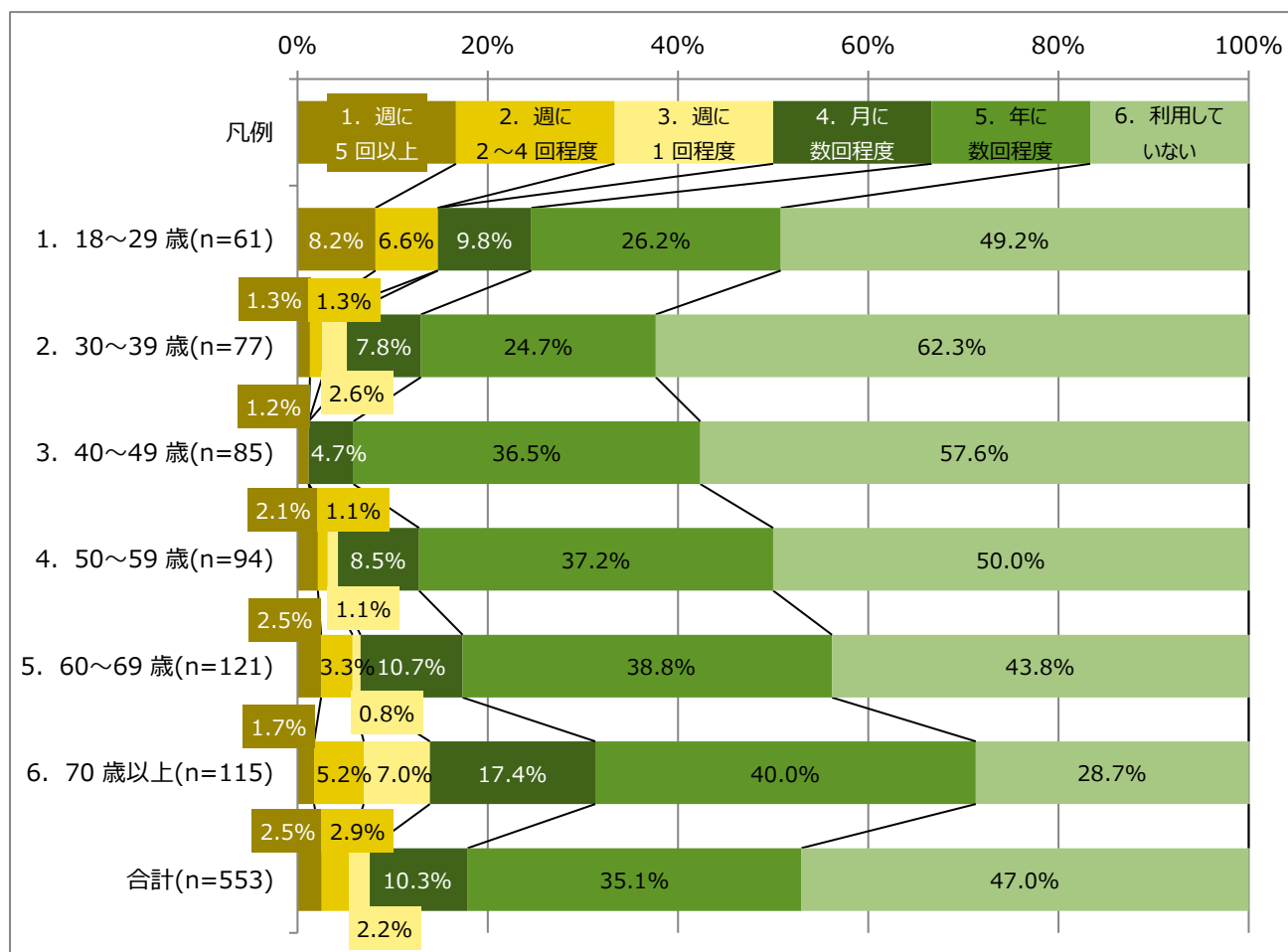


図 中央バスの利用状況（年齢別）

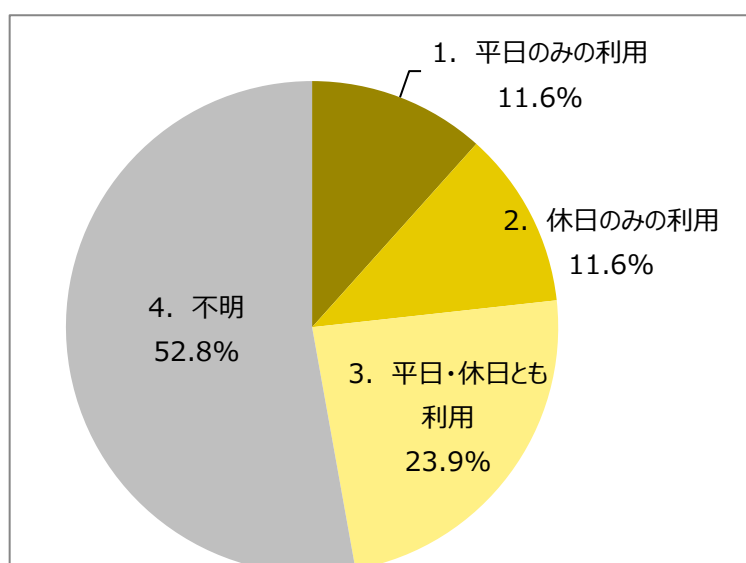


② 平日・休日の利用

中央バスの平日・休日区分は、「3. 平日・休日とも利用」が2割強、「1. 平日のみ利用」と「2. 休日のみ利用」はともに1割強となっています。

図表 中央バスの平日・休日区分

項 目	回答
1. 平日のみの利用	35
2. 休日のみの利用	35
3. 平日・休日とも利用	72
4. 不明	159
合計	301

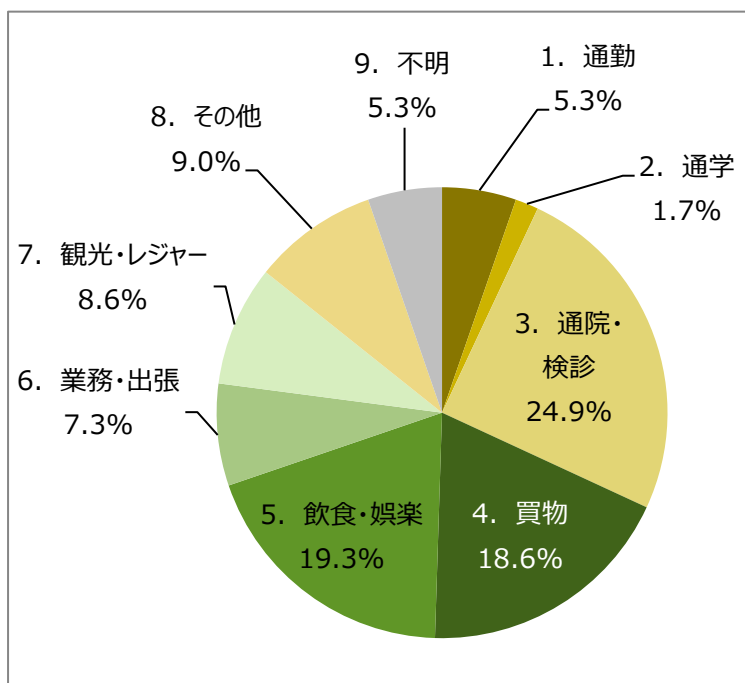


③ 利用目的

中央バスの主な利用目的は、「3. 通院・検診」が2割強と最も多く、続いて「5. 飲食・娯楽」と「4. 買物」がともに2割弱となっています。

図表 中央バスの主な利用目的

項 目	回答
1. 通勤	16
2. 通学	5
3. 通院・検診	75
4. 買物	56
5. 飲食・娯楽	58
6. 業務・出張	22
7. 観光・レジャー	26
8. その他	27
9. 不明	16
合計	301



その他内訳

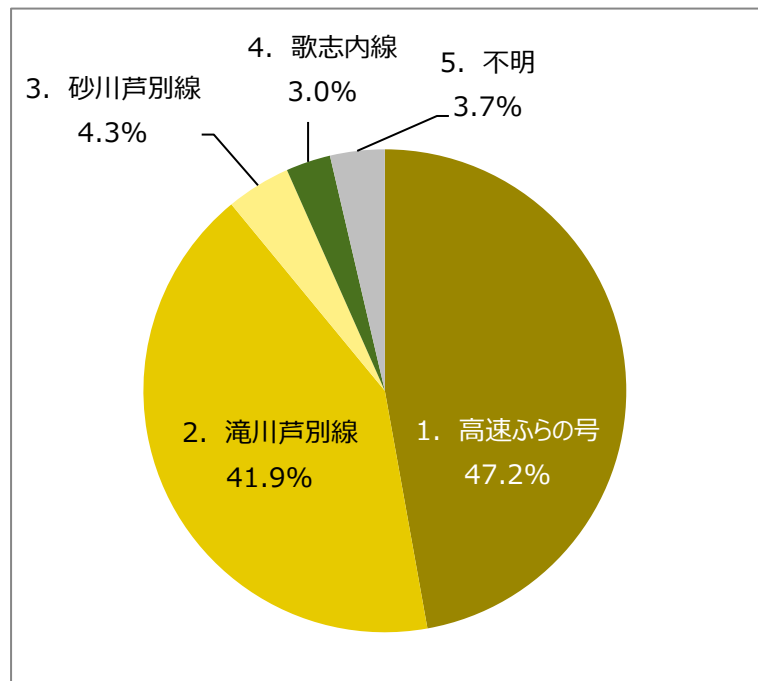
- ・出張・検診・娯楽
- ・JRへの接続のため
- ・高速バスを利用（札幌、岩見沢方面）（2）
- ・札幌での用事（2）
- ・気分転換・買い物や趣味（4）
- ・帰省や親族への所要（9）

④ 利用しているバス路線

主に利用している中央バス路線は「1. 高速ふらの号」が5割弱と最も多く、続いて「2. 滝川芦別線」が4割強となっています。

図表 主に利用している中央バス路線

項 目	回答
1. 高速ふらの号	142
2. 滝川芦別線	126
3. 砂川芦別線	13
4. 歌志内線	9
5. 不明	11
合計	301

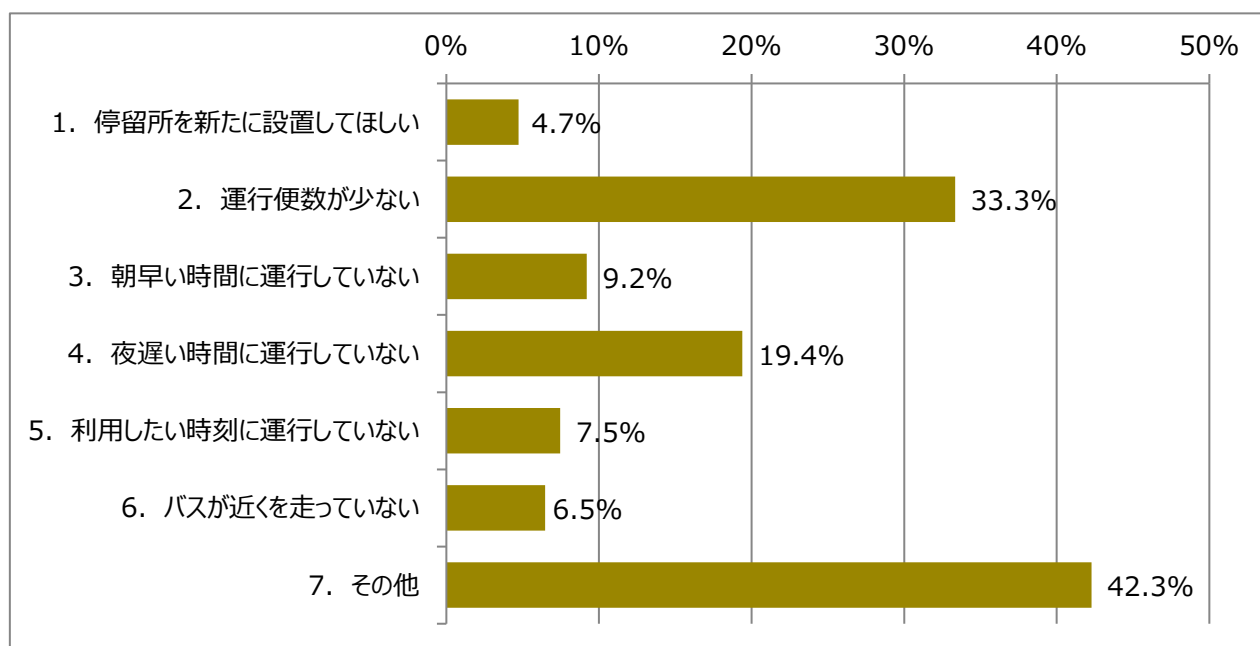


⑤ 改善してほしいこと

中央バスの利用に際し、改善してほしいことは「2. 運行便数が少ない」が3割強と最も多く、続いて「4. 夜遅い時間に運行していない」が2割弱となっています。

図表 中央バスの改善してほしいこと

項 目	回答
1. 停留所を新たに設置してほしい	19
2. 運行便数が少ない	134
3. 朝早い時間に運行していない	37
4. 夜遅い時間に運行していない	78
5. 利用したい時刻に運行していない	30
6. バスが近くを走っていない	26
7. その他	170
合計	494



その他の内容

- ・J Rとの接続。
- ・JR とバス両方自分の都合に合わせている。
- ・朝、夕方の便を増やしてほしい。
- ・以前にあった高速の住友地区の復活。
- ・今のところバス停も近いので。
- ・いない。生協のバス。
- ・お年寄りの方には重要な乗り物だと思います。

- ・学生中心の時刻で運行を希望。
- ・学生は朝の便など本数を増やしてほしいと思う。
- ・高校へ通学する子供達の為の適した時刻の運行を希望。帰りの便数が少ない。
- ・高速バス以外の路線バスでの電子決済システムの導入。
- ・高速バスの混雑状況をリアルタイムで知りたい。
- ・高速バスの乗り場まで乗りかえ場所のため不便（豊里地区）。
- ・高速バスのバス停が文京町にあるので大変ありがたいです。
- ・高速バス乗り場の場所を新光町にしてほしい。
- ・高速便との接続。
- ・高速ふらの号が混雑していて、赤平からだに乗れない時がある。混む時間帯のみ増便して欲しい。
- ・高速ふらの号が住友地区にも止まってほしい。
- ・高速ふらの号どの時間帯も混んでいる。
- ・交通系 IC の普及。
- ・高齢者の対する配慮を。その対応をお願いしたい。
- ・自家用自動車が多く不便さはまだわからない。
- ・自家用車運転が不可になったら利用したくなと思っています。
- ・時間より早く行ってしまう。
- ・昭和→文京町→滝川方面へ運行してほしい。通勤に使いたい。
- ・昭和町から滝川へ行く便があれば良いと思う。
- ・人口が減っているのであまり希望しない。
- ・砂川の病院に通う時予約時間に間に合う時間帯に運行されると助かる。
- ・停留所（待機→雨風除け）が有っても良い。
- ・停留所が歩いて 5 分ぐらいなので満足している。
- ・到着まで時間がかかる。
- ・バスの利用はバスあわせるので。
- ・バスを小型で運行。経費削減（持続可能）。
- ・便数が少ない。待ち時間が長い。
- ・ふらの号の便数減らさないでほしい。
- ・孫が利用しているので、通学に便利な仕組みをお願いしたい。
- ・利用する人が限定（通勤・通学・通院等）。
- ・現状維持でよい。（10）
- ・運賃が高い。（13）
- ・利用していない。（13）
- ・車を利用している。（17）

1) 希望する停留所

「1. 停留所を新たに設置して欲しい」と回答した方が希望する停留所は、以下のとおりです。

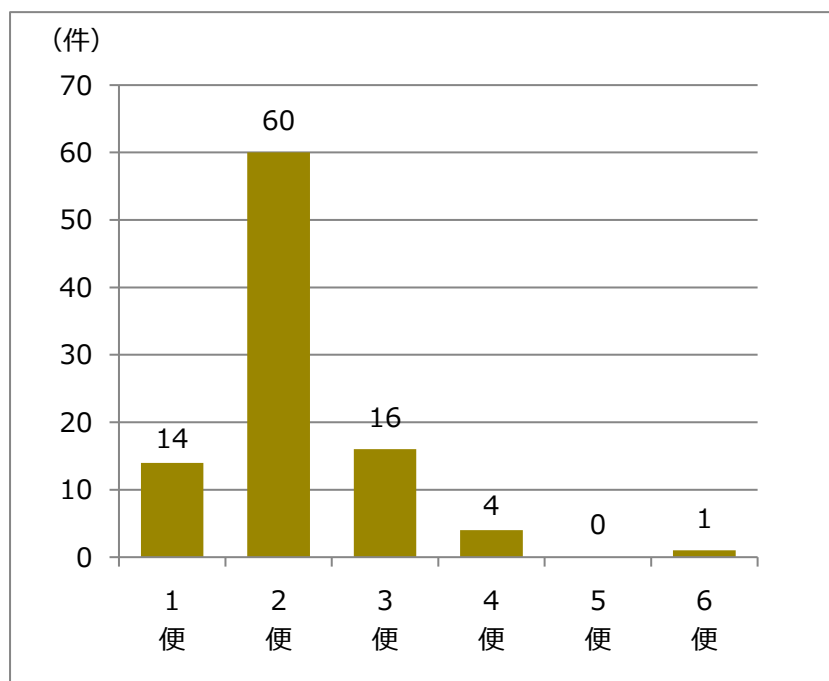
表 希望する停留所

・昭和町（1）
・豊里（1）
・バイパス沿い（1）
・東大町の付近（1）
・百戸付近に設置（1）
・ゆったり温泉入り口近く（1）
・住友地区（2）
・文京町（2）
・宮下町桜木町付近（2）
・マックスバリューの付近（3）

2) 希望する運行便数

「2. 運行便数が少ない」を回答した方が希望する運行便数は、1時間当たり2便が60件と最も多くなっています。

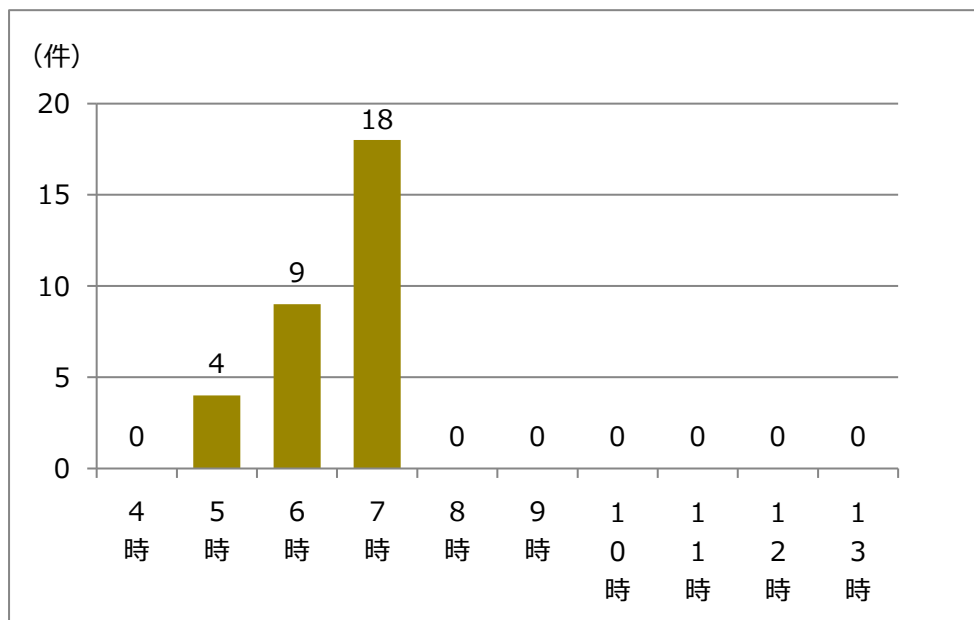
図 1時間当たりの希望運行便数



3) 希望する始発時間帯

「3. 朝早い時間に運行していない」を回答した方が希望する始発時間帯は、「7時台」が18件と最も多くなっています。

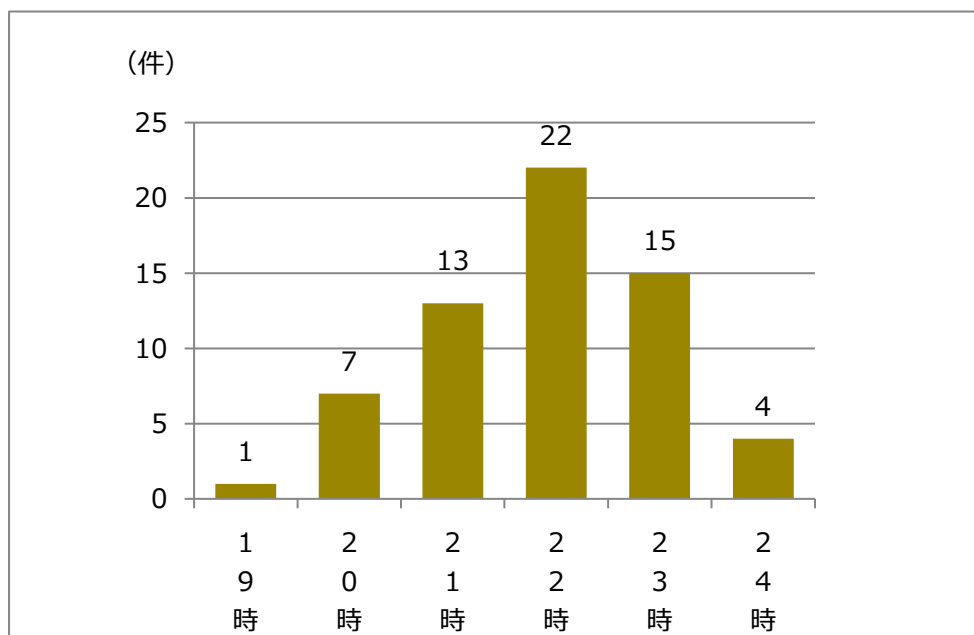
図 希望する始発時間帯



4) 希望する最終時間帯

「4. 夜遅い時間に運行していない」を回答した方が希望する最終時間帯は、「22時台」が22件と最も多く、続いて「23時台」が15件、「21時台」が13件となっています。

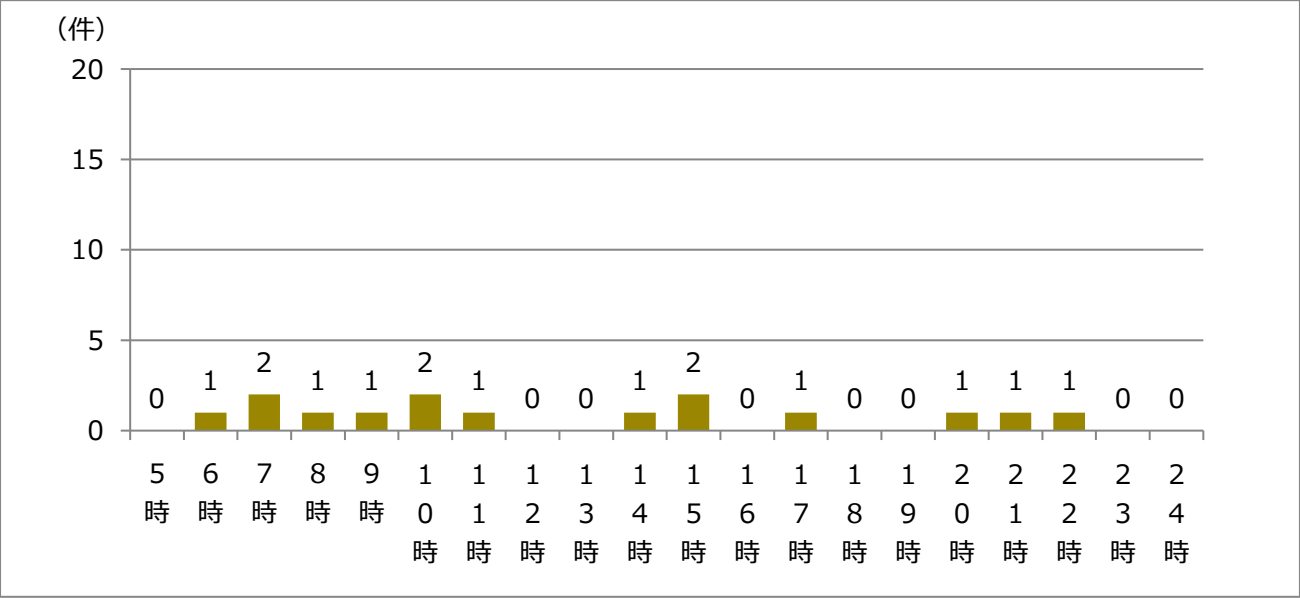
図 希望する最終時間帯



5) 希望する運行時間帯

「5. 利用したい時刻に運行していない」を回答した方が希望する運行時間帯は、下図のとおりとなっています。

図 運行を希望する時間帯



6) 運行を希望する地域

「6. バスが近くを走っていない」を回答した方のお住まいは、下図のとおりとなっています。

表 バスが近くを走っていない方のお住まい

・昭和町 (1)
・住吉 (1)
・豊丘町 (1)
・東豊里町 (1)
・文京町 (1)
・豊栄町 (1)
・幌岡町 (1)
・茂尻栄町 (1)
・宮下町 (2)
・北文京町 (3)
・百戸地区 (7)

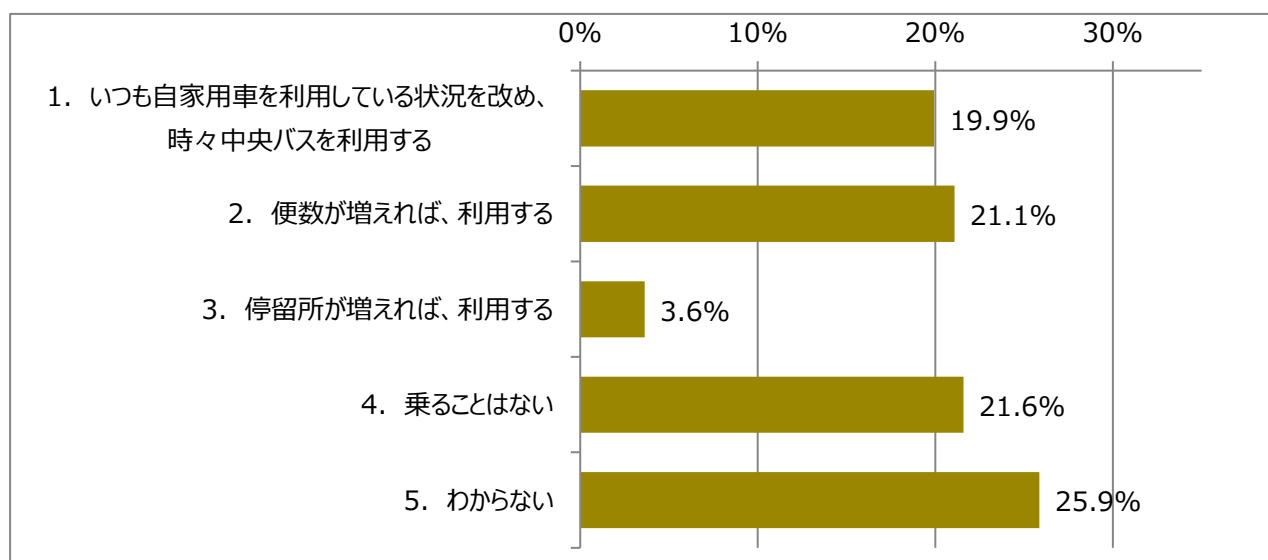
⑥ 利用促進策

利用促進として、「1. いつも自家用車を利用している状況を改め、時々中央バスを利用する」、「2. 便数が増えれば、利用する」の2つの選択肢については、2割前後の回答となっています。

なお、これを年齢別に見た場合、各年齢階層で傾向が異なる箇所は特にみられない状況です。

図表 利用促進について

項 目	回答
1. いつも自家用車を利用している状況を改め、時々中央バスを利用する	121
2. 便数が増えれば、利用する	128
3. 停留所が増えれば、利用する	22
4. 乗ることはない	131
5. わからない	157
6. その他	63
合計	622

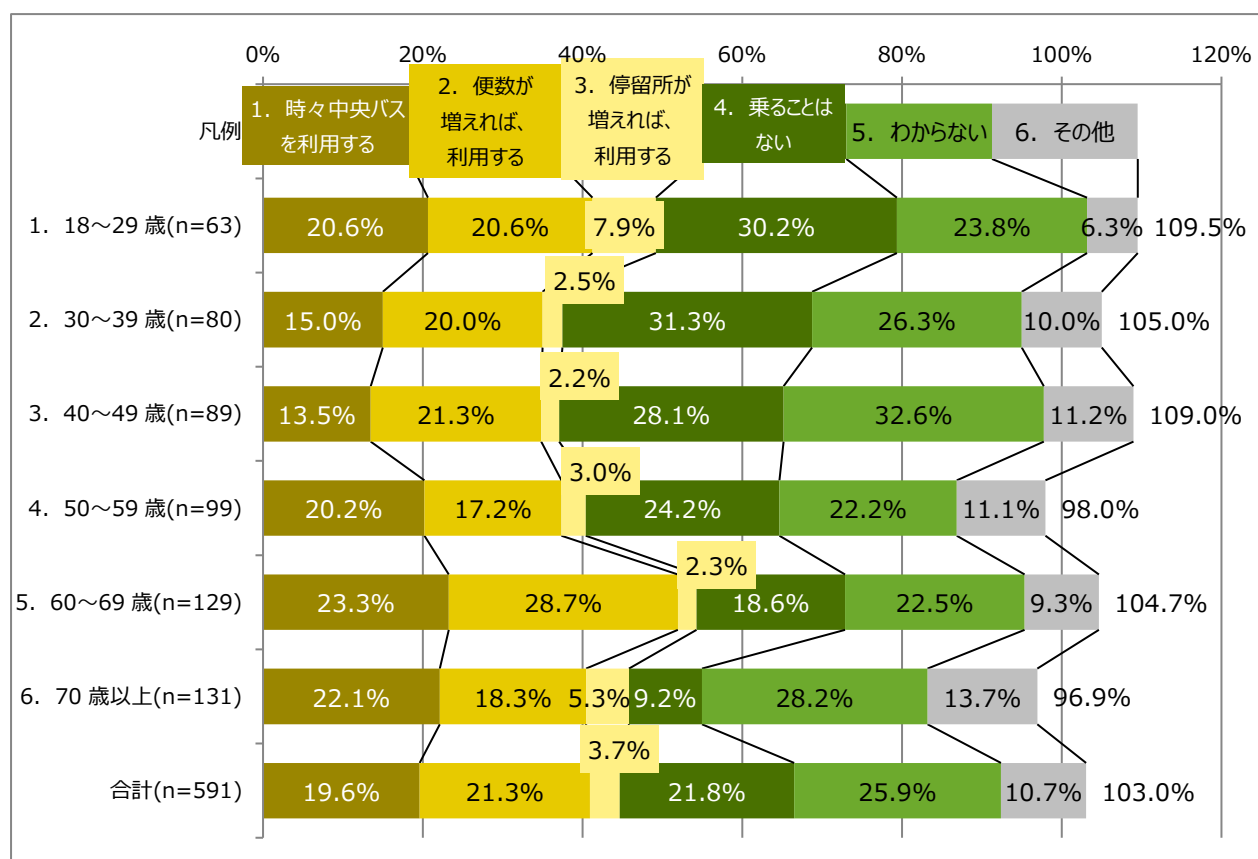


その他の内容

- ・ I C が普及されれば利用する。
- ・ 運賃が現在よりさらに値上げする場合は乗らない可能性が高い。
- ・ 学生の為に考えて欲しい。利用者にもっと意見を聞き、効率的なダイヤにすべき。
- ・ 車がないので買い物又は外出の時は中央バス。減便は困る。
- ・ 減便や値上げがおこればなおさら使わない。
- ・ 高速ふらの号がマックスバリュの前に止まってほしい。
- ・ 高齢化により免許の返納が近い。中央バスが頼りとなる。
- ・ 子供が利用する。
- ・ 子どもたちが高校へ進学している方は利用するかも。

- ・子どもたちが通学の時にバスを利用しています。
- ・子どもたちが使っているが、必要な時間の便数が少ない。
- ・子供たちが出かけやすい時間に合えば乗る。
- ・子ども達のために増やしてほしい。
- ・この先子供たちが利用することになるので、減便や値上げはしてほしくありません。
- ・これ以上の減便はきつい。市で走らせてはどうでしょう。またバス停が増えればもっと市内に出る人も増えるはず。
- ・これ以上の減便は困ります。が、値上げは利用者が減ると思います。
- ・コロナが落ち着いたら、また、利用します。
- ・札幌・赤平間の運行で札幌の出発時間が遅ければ利用したい。
- ・札幌に行くとき富良野号に乗ります。
- ・自家用車がないので必ず利用することになる。
- ・上記運行が出来れば利用する。
- ・将来的に乗るかもしれない。
- ・滝川芦別線とＪＲの滝川駅での接続を改善。
- ・地方に出かける時駅まで利用。
- ・中央バスは市内・市外への重要な交通手段です。今後も利用します。
- ・通院で札幌へ行くので回数券を利用しますが、４月に運賃が上がりきついです。
- ・妻が利用している。
- ・特に冬場徒歩５分くらいなら利用する。
- ・ネットで利用客を予約制にして運行時間、バスの大きさ、便の増減をしたら良い。
- ・乗る機会があれば使用したい。
- ・バス停までが遠い。
- ・文京町に停まってくれるので大変感謝している。
- ・孫が利用しているので利用者の要望を受け入れてほしい。
- ・最寄りのバス停が目的地の方に行くなら利用する。
- ・利用回数は今まで同様。
- ・現状維持で良い。(2)
- ・利用することもあるのでないと困る。(4)
- ・料金が安くなれば利用する。(4)
- ・車の運転を止めたときには利用せざるを得ない。(11)

図 利用促進について（年齢別）



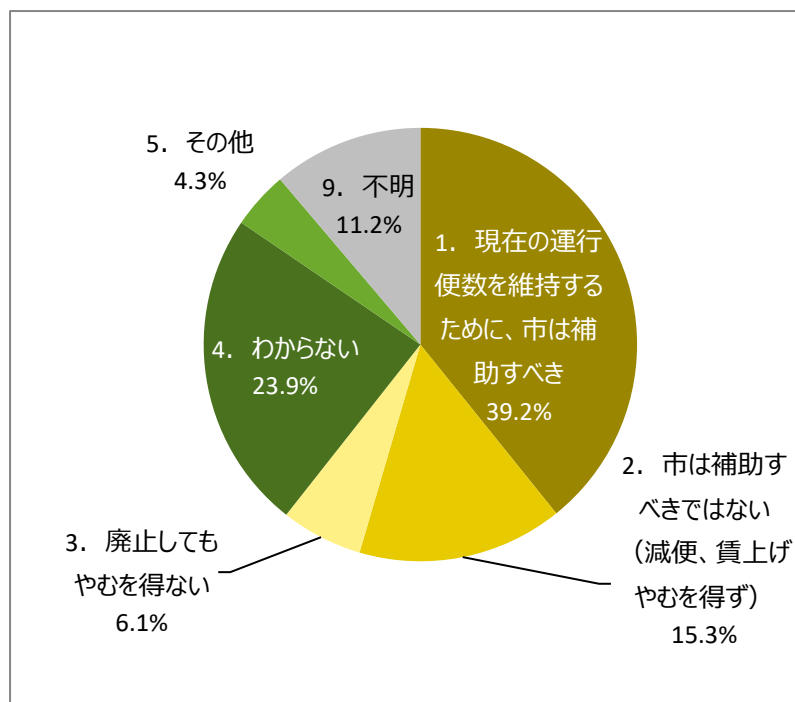
⑦支援について

中央バスへの行政の支援については、「1. 現在の運行便数を維持するために、市は補助すべき」が4割と最も多く、続いて「4. わからない」が2割強、「3. 廃止してもやむを得ない」が2割弱となっています。

なお、これを年齢別に見た場合、各年齢階層で傾向が異なる箇所は特にみられない状況です。

図表 支援について

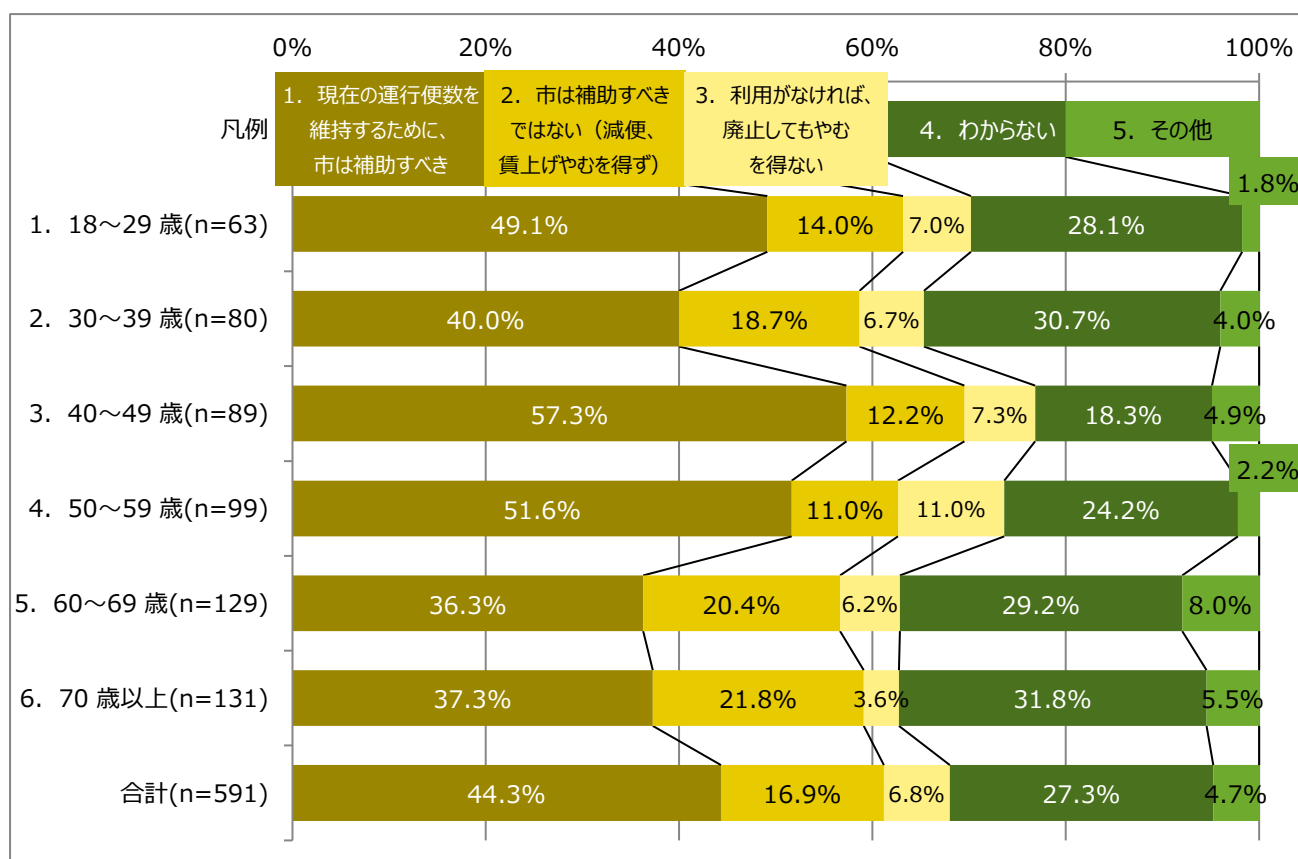
項 目	回答
1. 現在の運行便数を維持するために、市は補助すべき	238
2. 利用者減による減便や運賃の値上げ等はやむを得ないので、市は補助すべきではない	93
3. 利用がなければ、廃止してもやむを得ない	37
4. わからない	145
5. その他	26
9. 不明	68
合計	607



その他の内容

- ・運賃についてなんらかの支援を市がすべき。
- ・車がない家庭には必要。赤平にいてわかるはず。
- ・高齢者が増え免許返納者が増えると思います。
- ・通勤通学で利用している人、お年寄りで通院している人もいます。是非お願いしたいです。
- ・廃止されたら大変困ります。
- ・現在の運航便数を維持するために市は補助すべきだと思いますが、まずはニーズがどれだけあるかだと思います。
- ・減便しないで運賃値上げやむなし。
- ・補助できないのであれば、市でバスを走らせてほしい。
- ・学生、お年寄り（通院など）には補助券などを出してはどうか。
- ・利用促進が②であるが、市は補助すべきではない。
- ・運転免許証の返納後の対応を考えてほしい。今の状況がわからないので。バスやハイヤーの割引など
- ・支援しても利用者が大きく増えるとは考えにくい。
- ・バスを必要としている人がどの地区にどれだけいるか把握して、検討すべきと思う。
- ・小型バスに方向転換し、便数を多くしたりできないか。
- ・市の財政による。
- ・通学・通勤・通院に必要な便数を維持するための補助は必要と思う。
- ・乗車数が少ないように見えるので、利用しない便は廃止しても良いと思う。市の補助はなし。
- ・減便、値上げはやむを得ないかもしれませんが、補助に関しては、赤平市以外の各市も関係してくることなので、難しいと思います。
- ・ある程度の財政負担はやむを得ない。
- ・難しい問題です。
- ・大型バスをやめ、マイクロバス等、利用者数に合うサイズかバスに変更し、支援する。
- ・ＪＲとバス両方の維持は難しいと思う。路線的にはバスの方が便利と思うので、維持するための方策が必要と思う。
- ・運賃の値上げ。

図 支援について（年齢別）



(3)その他の交通手段について

① 送迎交通等の利用状況

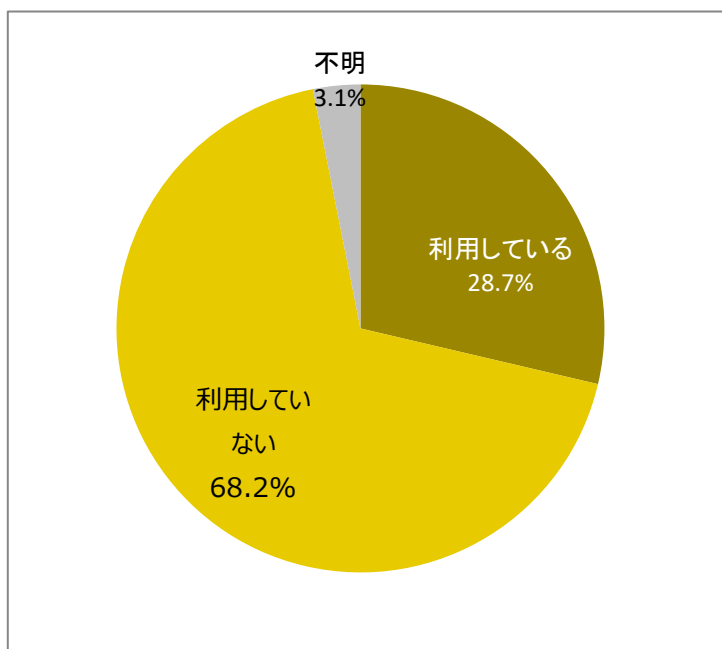
様々な交通手段の利用状況は、「利用していない」が7割弱と「利用している」の3割弱を上回っています。

利用している方の交通手段は、「1. ハイヤー」が2割弱、「2. トドック号」が1割弱となっています。

これを年齢階層別に見ると、「1. ハイヤー」は「2. 30～39歳」以上の年齢階層が2割前後、「2. トドック号」は「6. 70歳以上」において2割の利用があります。

図表 様々な交通手段の利用状況

項 目	回答
利用している	174
利用していない	414
不明	19
合計	607



項 目	回答
1. ハイヤー	115
2. トドック号	48
3. 保養バス	8
4. 共同浴場バス	3
5. 利用していない	414
6. 不明	19
合計	607

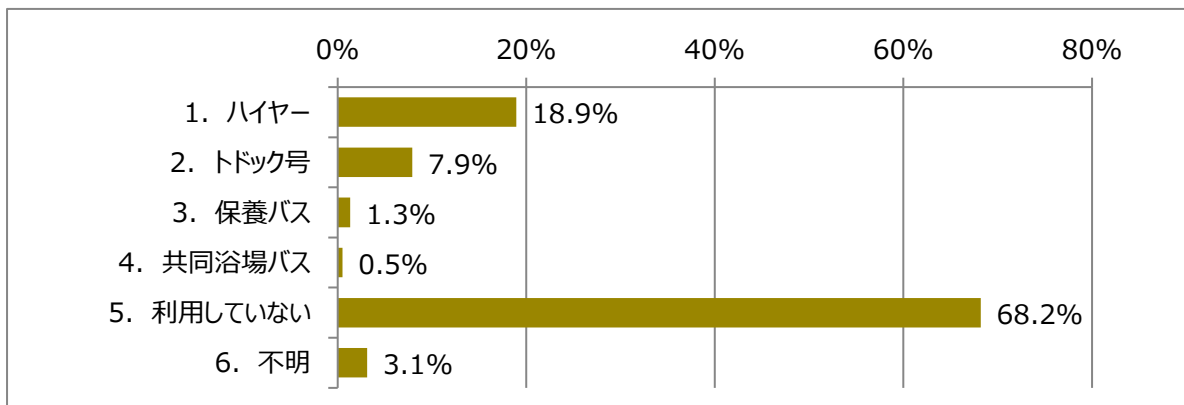
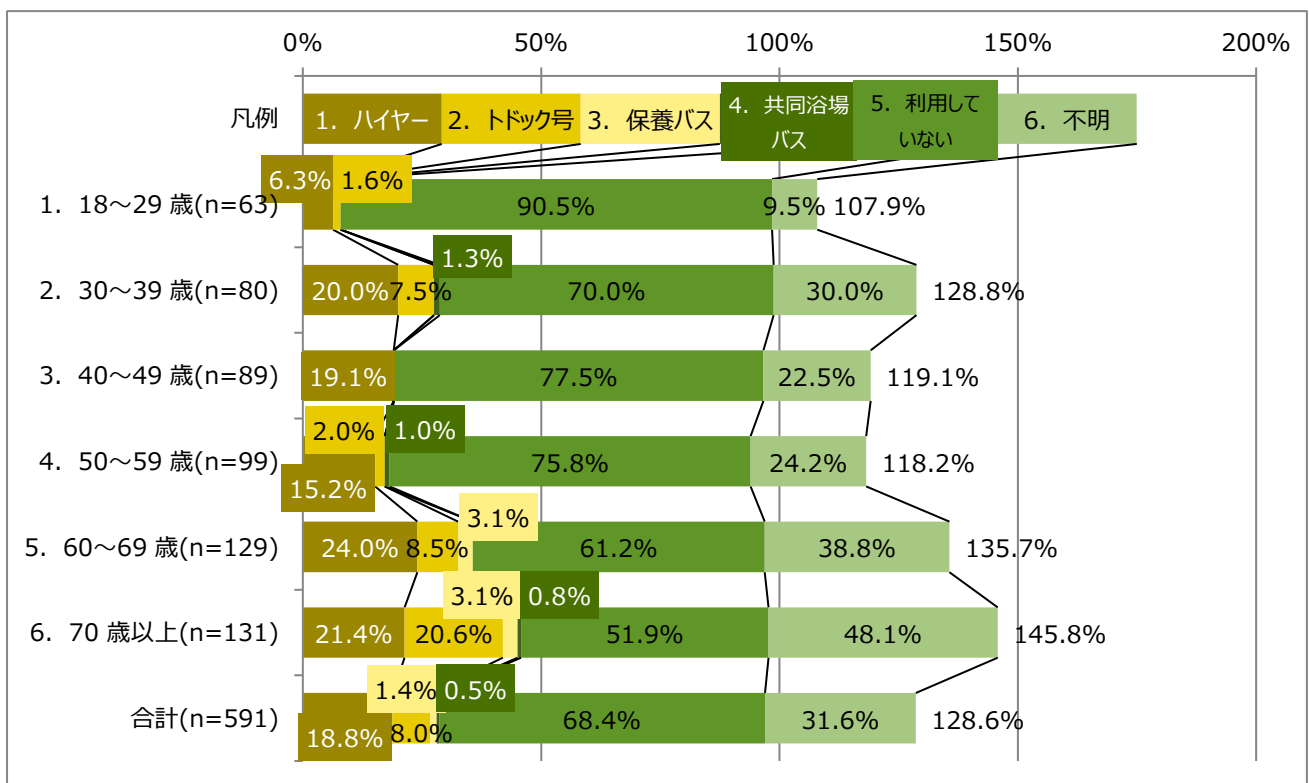


図 様々な交通手段の利用状況（年齢別）



② 送迎交通等に対して不便に感じること

不便に感じている交通手段は「1. ハイヤー」と「2. トドック号」で、それぞれの内容は以下のとおりである。

交通手段	不便に感じている内容
1. ハイヤー	・依頼しても時間がかかる事が多い。 ・車の台数が少ない。 ・深夜 2 時から朝 7 時まで利用できないのはとても不安です。病気であれば救急車が使えるが、それ以外の用事（緊急時）にとっても不安です。 ・全ての時間によって左右される。すごく少ない。時間によっては待たされる。ターゲットを絞った交通のあり方が必要。 ・台数が少ないためか滝川や砂川など距離があると嫌な顔をされることがある。自営なのでお客さんのためにハイヤーを呼ぶが、お客さん（ちょっと変わった人が利用するとき）次第で混でるから待ってねと言われたきり、来てくれなかったりすることがあった。 ・台数が少ないので来るまでに時間がかかる。 ・昔は住所を言ったらすぐ来てくれたが、最近のドライバーさんは道がわからないようで迷う。わざと遠回りされたこともある。 ・夜中に具合が悪くなったときが心配。 ・料金が高いが、夫も自家用車を手放してからは、高くても。 ・代行がない。（2） ・24 時間営業していない。（4） ・夜の便、時間帯に限りがある。（8）
2. トドック号	・バスが小型過ぎる。 ・トドック号は高齢者の便利だがそのせいで中央バスが使用されないのではないですか。 ・今まで文京町に停車していたので利用していましたが、とても不便です。高齢者には歩いて行くには遠すぎます。 ・文京町から乗れなくなったとのことで、買い物に行くのに不便です。 ・距離が短い。 ・16～17 時台のバスがない。（2） ・便数が少ない。（5）

※「3. 保養バス」「4. 共同浴場バス」は自由記述なし。

6. 免許・自家用車について

(1) 免許の有無、自動車の保有・運転状況等

① 自動車運転免許証等の保有状況

自動車運転免許証の保有状況は、「1. 持っていて、運転もしている」が7割強と、「4. 持っていない」の2割弱を大きく上回っています。

これを年齢階層別に見ると、「3. 40～49 歳」では「1. 持っていて、運転もしている」が9割強に対し、年齢が高くなるにつれて減少し、「6. 70 歳以上」では6割強となっています。

図表 自動車運転免許証の保有状況

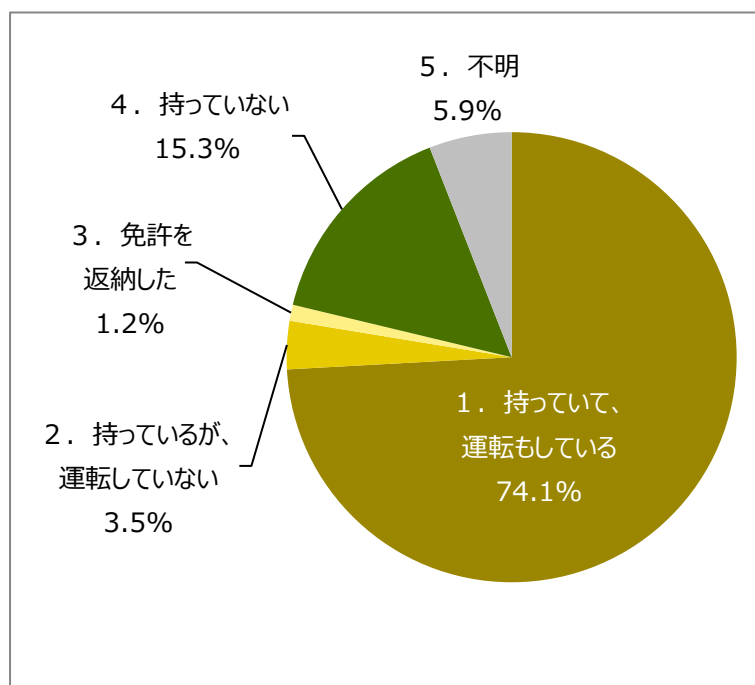
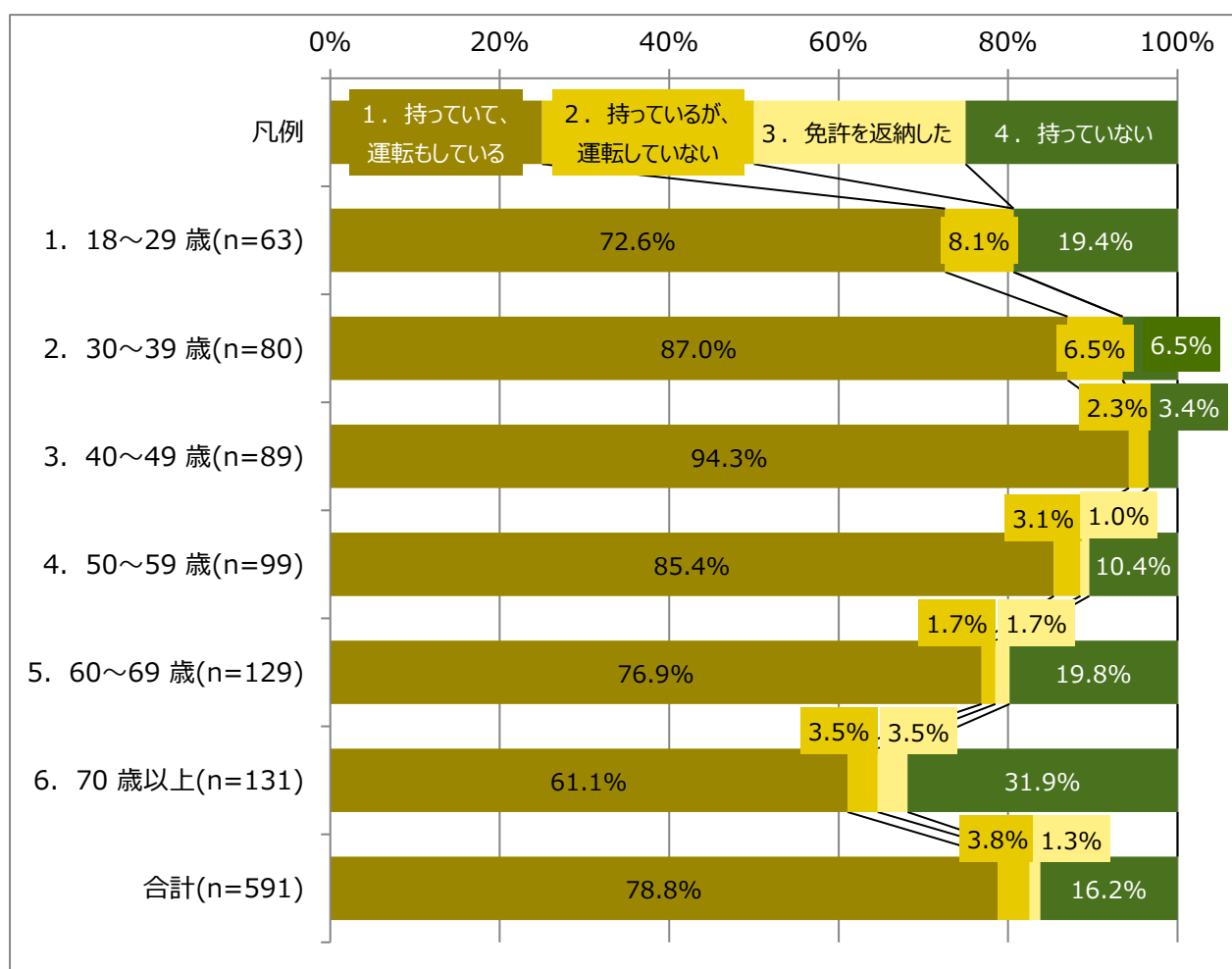


図 自動車運転免許証の保有状況（年齢別）



② 運転免許証の返納予定

免許を返納しようという年齢は、「3. 75 歳頃」が3割強と最も多く、続いて「4. 80 歳頃」が3割弱、「2. 70 歳頃」が2割弱となっています。

これを年齢階層別に見ると、「5. 60～69 歳」では「3. 75 歳頃」、「6. 70 歳以上」では「4. 80 歳頃」が最も多く、年齢が高くなるにつれて、免許返納年齢が高くなる傾向となっています。

図表 免許を返納しようという年齢

項 目	回答
1. 65 歳頃	17
2. 70 歳頃	70
3. 75 歳頃	148
4. 80 歳頃	114
5. 85 歳頃	38
6. 返納しない	50
合計	437

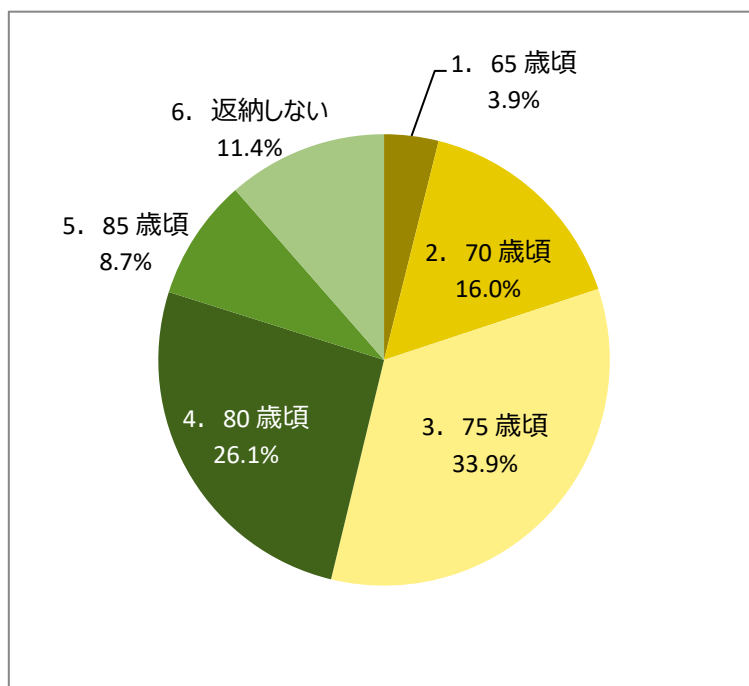
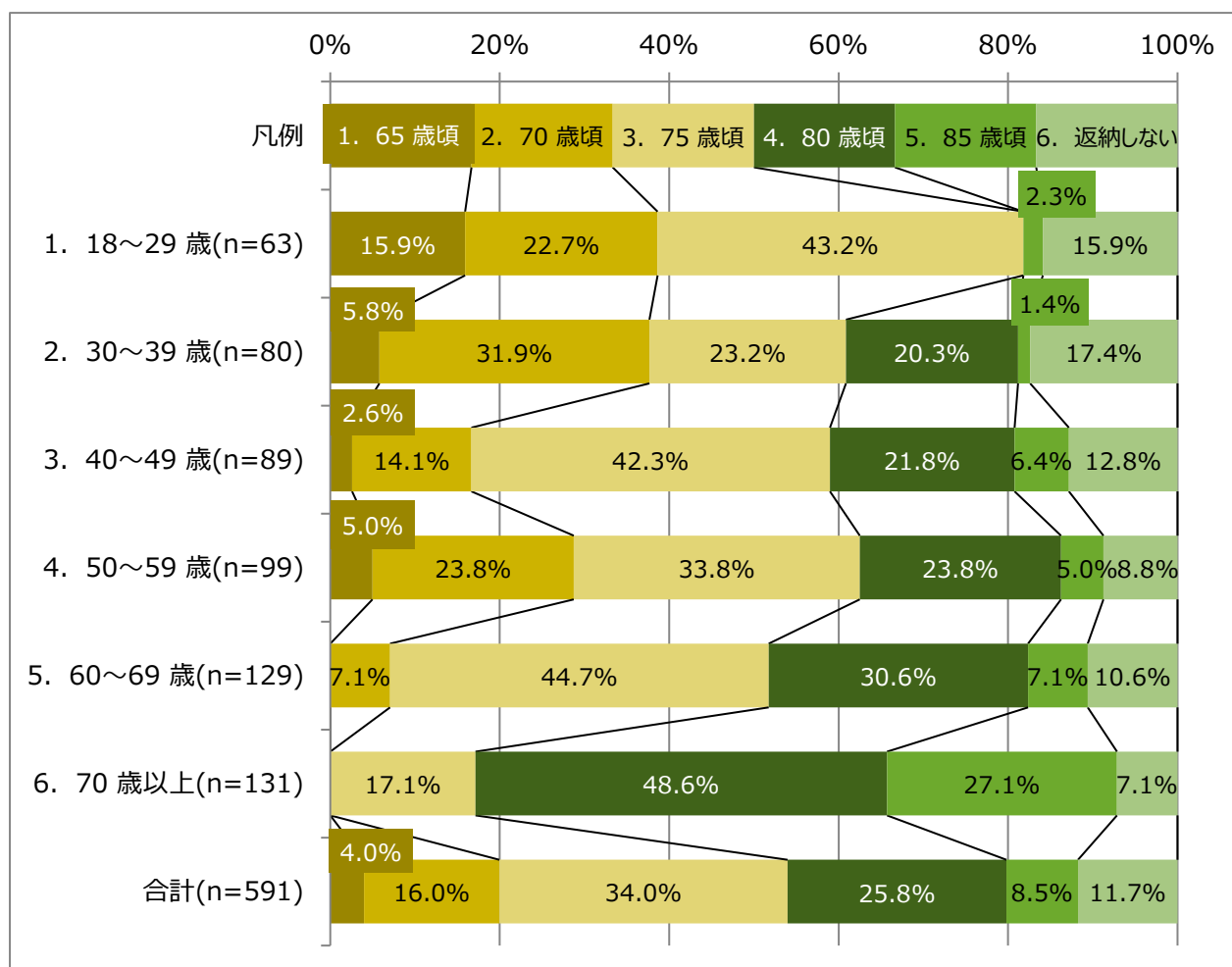


図 免許を返納しようという年齢（年齢別）

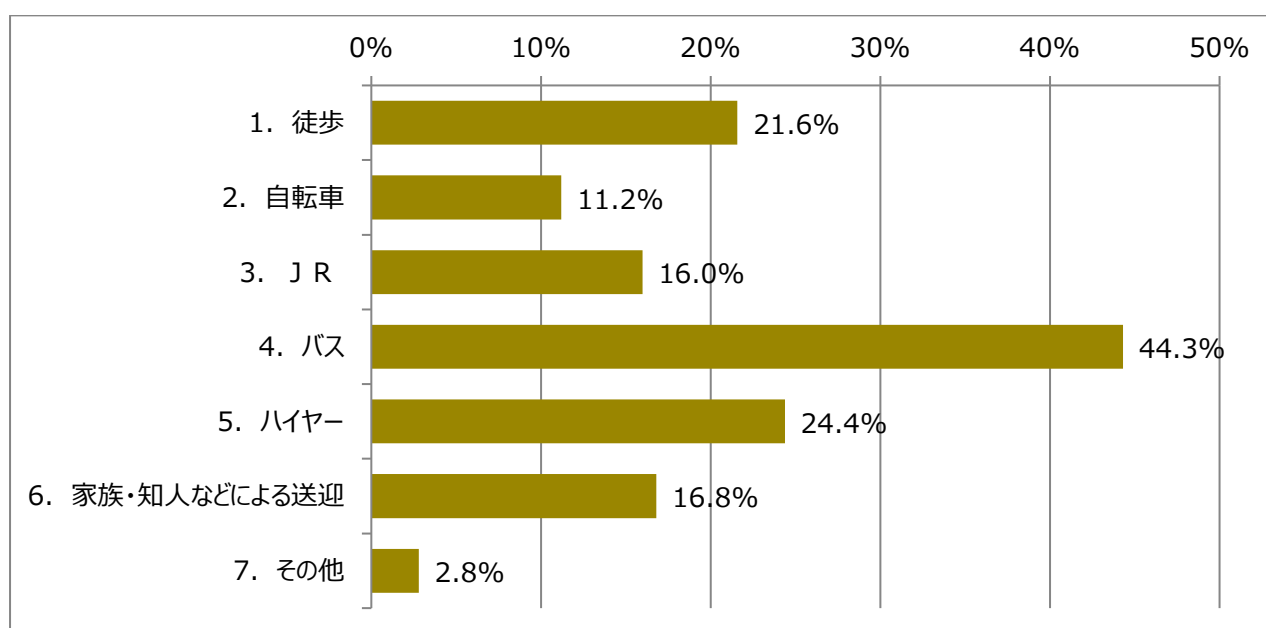


③ 免許返納後に利用を考えている移動手段

免許返納後に利用を考えている移動手段は、「4. バス」が4割強と最も高く、続いて「5. ハイヤー」と「1. 徒歩」が2割強となっています。

図表 免許返納後に利用を考えている移動手段

項 目	回答
1. 徒歩	131
2. 自転車	68
3. J R	97
4. バス	269
5. ハイヤー	148
6. 家族・知人などによる送迎	102
7. その他	17
合計	832



④ 運転への自信

運転への自信の有無は、「2. ふつう」が8割弱と最も多く、「1. 自信がある」の1割強を大きく上回っています。

これを年齢階層別に見ると、「1. 18～29 歳」以外の年齢階層で「2. ふつう」が7～8割程度となっており、一般的な加齢による運動神経の衰えが反映されていない状況となっています。

図表 運転への自信

項 目	回答
1. 自信がある	66
2. ふつう	359
3. 自信がない	37
4. 運転しない	9
合計	471

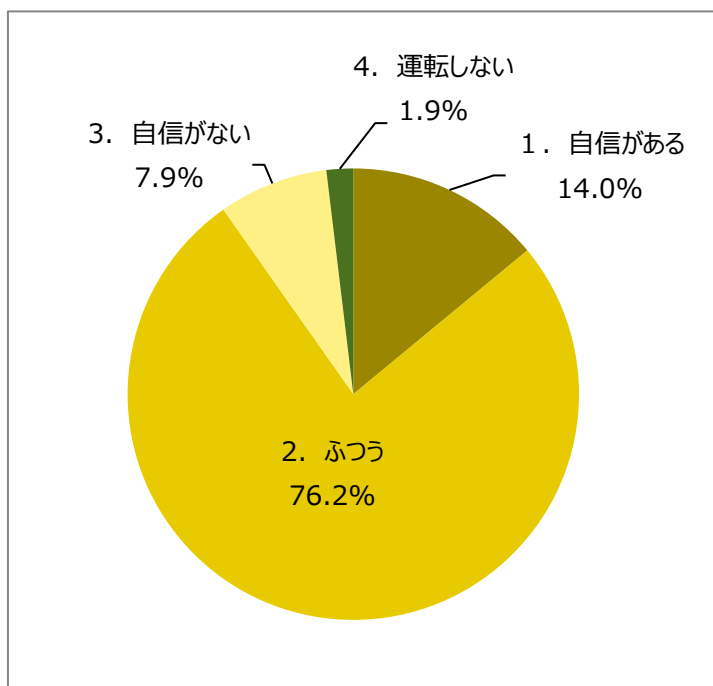
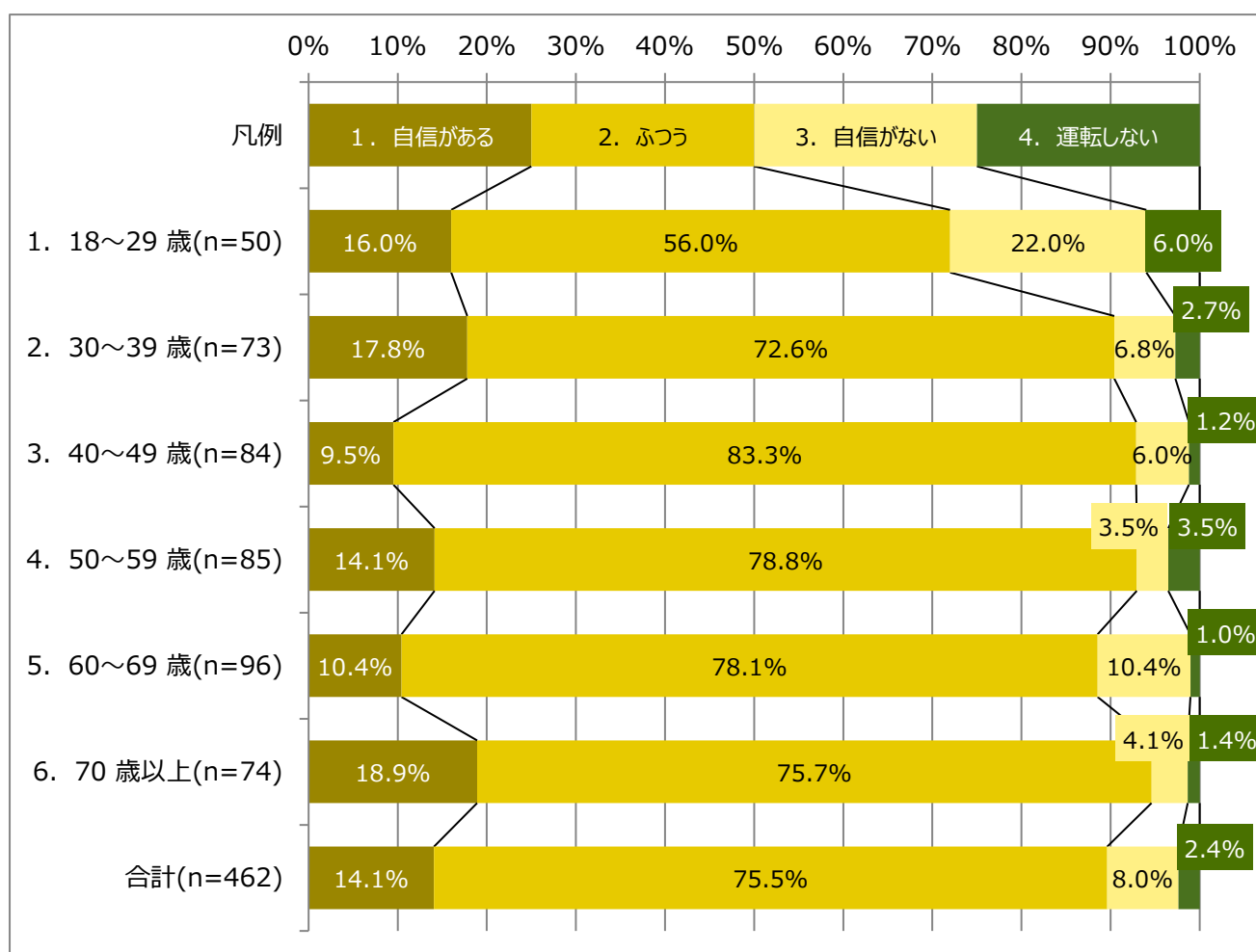


図 運転への自信（年齢別）



⑤ 自家用車の使用状況

自家用車の使用状況は、「1. 自ら所有の車を運転」が7割弱と最も多く、続いて「3. 家族等が運転する車に同乗」と「2. 家族所有の車を運転」が1割程度となっています。

これを年齢階層別に見ると、「3. 40～49歳」では「1. 自ら所有の車を運転」が9割弱に対し、年齢階層が上がるについて「1. 自ら所有の車を運転」の割合が減少しています。

図表 自家用車の使用状況

項 目	回答
1. 自ら所有の車を運転	398
2. 家族所有の車を運転	51
3. 家族等が運転する車に同乗	60
4. 車は使用しない	23
5. 不明	75
合計	607

